

平成 27 年度食品安全モニター課題報告
「食品の安全性に関する意識等について」の結果
報告書

(平成 28 年 3 月実施)

内閣府食品安全委員会事務局

目次

○調査目的等	1
○調査結果	7
I. 食品の安全性に係る危害要因等について	7
1.日常生活を取り巻く分野別不安の程度（問1）	7
2.食品の安全性の観点から感じる不安の程度（問2）	10
3.食品の安全性の観点から不安を感じる理由（放射性物質以外）（問3）	38
4.食品の安全性の観点から不安を感じない理由（放射性物質以外）（問4）	54
5.放射性物質について不安を感じる理由（問5）	69
II. 食品の安全性の確保について	71
<食品安全行政全般について>	71
6.食品の安全性確保のための取組に対する評価（問6）	71
7.食品の安全の分野における行政のリスクコミュニケーションの評価（問7）	73
8.リスクコミュニケーションが適切に行われなかった理由（問8）	75
<食品安全委員会について>	77
9.よく利用する食品安全委員会からの情報（問9）	77
10.食品の安全についての意見交換会への参加（問10）	83
11.食品安全委員会から得た情報の活用方法（問11）	85
12.食品の安全性に関する認識のギャップ（問12）	90
13.食品安全委員会に対する認識の変化（問13）	92
III. 最近の食品の安全性に関するトピックスについて	97
<加工肉・レッドミートに関する IARC（国際がん研究機関）の発表について>	97
14.食品安全委員会で発信した「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の情報の閲覧状況（問14）	97
15.媒体別の「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の情報の評価（問15）	101
16.食品安全委員会が発信した「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の、周囲への伝達状況（問16）	104
<「健康食品」について>	107
17.食品安全委員会が発信した「健康食品」についての閲覧状況（問17）	107
18.食品安全委員会が発信した「健康食品」についての、周囲への伝達状況（問18）	112
19.「健康食品」の摂取の状況（問19）	114
20.「健康食品」の摂取をやめた理由（問20）	118
21.「健康食品」を摂取したことがない理由（問21）	119
○「その他」の記載分類整理表	120
○統計表	138

○ 調査目的等

(1) 調査目的

内閣府食品安全委員会事務局が実施している食品安全モニター（以下「モニター」という。）の方を対象とした調査から、食品の安全性に関する意識等について明らかにする。また、平成16年度からの継続調査であり、経年での意識の変化についても分析する。

(2) 調査項目

調査項目は、次の3項目である。

- I. 食品の安全性に係る危害要因等について
（食品の安全性に係る不安の程度、不安を感じる理由等）
- II. 食品の安全性の確保について
（食品の安全性の確保のための取組への評価等）
- III. 最近の食品の安全性に関するトピックスについて
（食品安全委員会の発信情報の評価等）

(3) 実施期間

平成28年3月4日～3月18日

(4) 対象

食品安全モニター 467名
有効回答数 425名（有効回答率：91.0%）

(5) 食品安全モニターの回答者人数の内訳

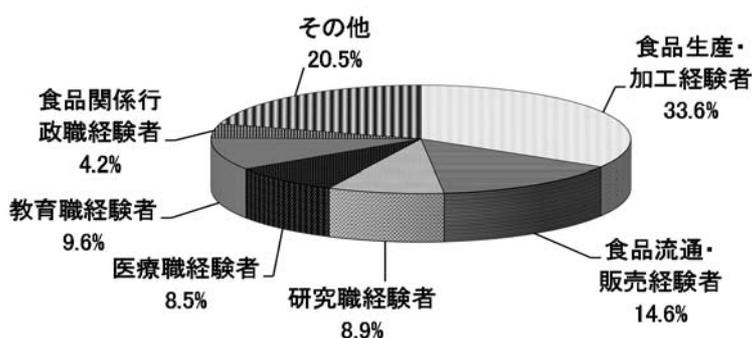
1. 性別・年代

	男性	女性	回答者人数計	割合
20～30代	22人	53人	75人	17.6%
40代	49人	52人	101人	23.8%
50代	66人	63人	129人	30.4%
60代以上	96人	24人	120人	28.2%
合計	233人	192人	425人	—
割合	54.8%	45.2%	—	100.0%

2. 職務経験区分

職務経験区分	区分の説明	回答者人数 (割合)
食品生産・加工経験者	現在又は過去において、食品の生産、加工に関する職業（調理従事者を含む）に5年以上従事している方	143人 (33.6%)
食品流通・販売経験者	現在又は過去において、食品の流通、販売等（会社、団体の役員を含む）に関する職業に5年以上従事している方	62人 (14.0%)
研究職経験者	現在又は過去において、試験研究機関（民間を含む）、大学等で食品や、食品の安全に関する研究の経験を5年以上有している方	38人 (8.9%)
医療職経験者	現在又は過去において、医療等に関する職業（医師、獣医師、薬剤師等）に就いた経験を5年以上有している方	36人 (8.5%)
教育職経験者	現在又は過去において、教育に従事した経験を5年以上有している方	41人 (9.6%)
食品関係行政職経験者	過去に食品の安全に関する行政に従事した経験を有している方	18人 (4.2%)
その他食品安全モニター (文中「その他」) [※]	上記の項目に該当しない方	87人 (20.5%)

図表 職務経験区分 (n=425)



[※]食品安全モニターは、モニター活動を行う上で、食品安全委員会が行うリスク評価や食品安全行政について一定の理解ができる必要があることから、次の条件のいずれかを満たしていることを応募資格としている。

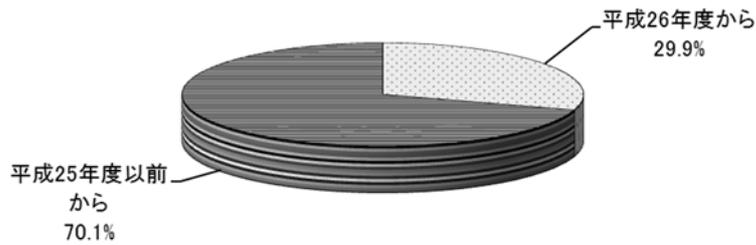
- [1] 大学等で食品に関係の深い学問（医学、歯学、薬学、獣医学、畜産学、水産学、農芸化学、家政学、食品工学等）を専攻し修了した方
- [2] 食品に関係の深い資格（栄養士、管理栄養士、調理師、専門調理師、製菓衛生師又は食品衛生管理者その他の事務局長が適当と認めるもの）を保有の方
- [3] 食品安全に関する業務を業としている方若しくはしていた方又は常勤公務員として食品の安全に関する行政に従事していた方（平成27年4月1日現在常勤の公務員でないこと）

3. 性別、年代区分、職務経験の内訳

	性別		年代区分				合計
	男性	女性	20~30代	40代	50代	60代以上	
食品生産・加工経験者	97人 67.8%	46人 32.2%	18人 12.6%	37人 25.9%	48人 33.6%	40人 28.0%	143人 100%
食品流通・販売経験者	44人 71.0%	18人 29.0%	9人 14.5%	14人 22.6%	19人 30.6%	20人 32.3%	62人 100%
研究職経験者	30人 78.9%	8人 21.1%	7人 18.4%	11人 28.9%	7人 18.4%	13人 34.2%	38人 100%
医療職経験者	16人 44.4%	20人 55.6%	7人 19.4%	7人 19.4%	12人 33.3%	10人 27.8%	36人 100%
教育職経験者	13人 31.7%	28人 68.3%	6人 14.6%	11人 26.8%	11人 26.8%	13人 31.7%	41人 100%
食品関係行政職経験者	8人 44.4%	10人 55.6%	1人 5.6%	2人 11.1%	3人 16.7%	12人 66.7%	18人 100%
その他	25人 28.7%	62人 71.3%	27人 31.0%	19人 21.8%	29人 33.3%	12人 13.8%	87人 100%

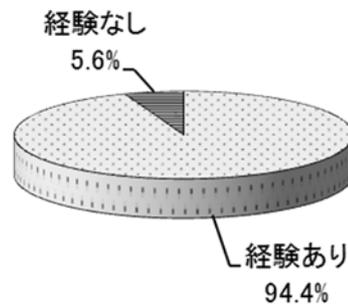
4. モニター継続区分別

図表 モニター継続区分 (n=425)



5. 食品安全モニター一会議出欠区分

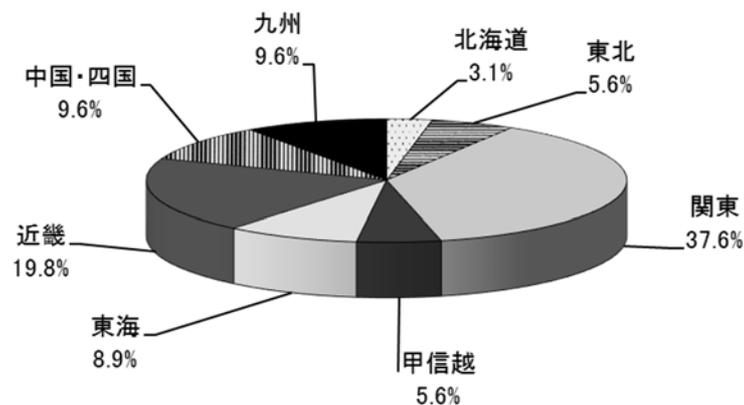
図表 食品安全モニター一会議出欠区分 (n=425)



6. 居住地区分

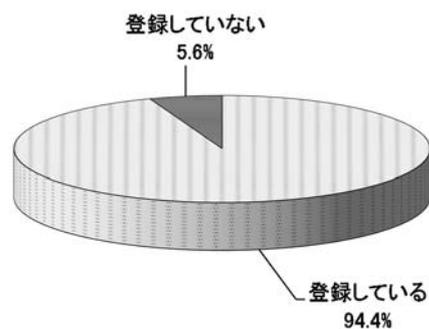
北海道	13人 (3.1%)
東北 (青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)	24人 (5.6%)
関東 (茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川)	160人 (37.6%)
甲信越 (新潟、富山、石川、福井、山梨、長野)	24人 (5.6%)
東海 (岐阜、静岡、愛知、三重)	38人 (8.9%)
近畿 (滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)	84人 (19.8%)
中国・四国 (鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知)	41人 (9.6%)
九州 (福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)	41人 (9.6%)

図表 居住地区分 (n=425)



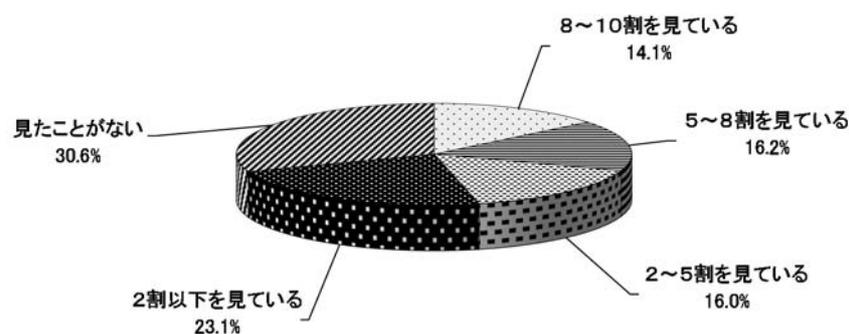
7. 食品安全委員会のメールマガジン登録区分 (n=425)

図表 食品安全委員会のメールマガジン登録区分

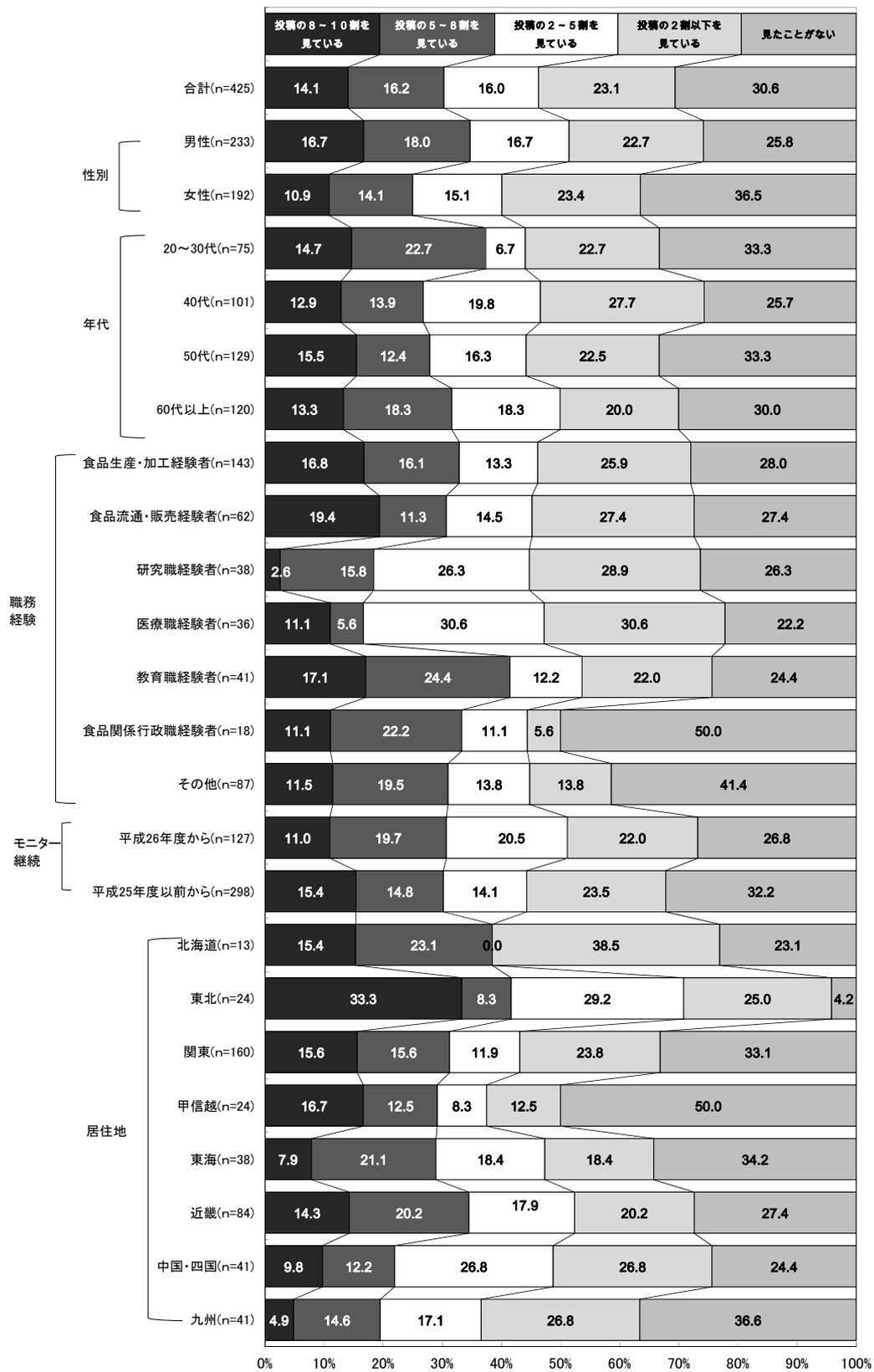


8. 食品安全委員会のフェイスブックの閲覧状況 (n=425)

図表 食品安全委員会のフェイスブックの閲覧状況



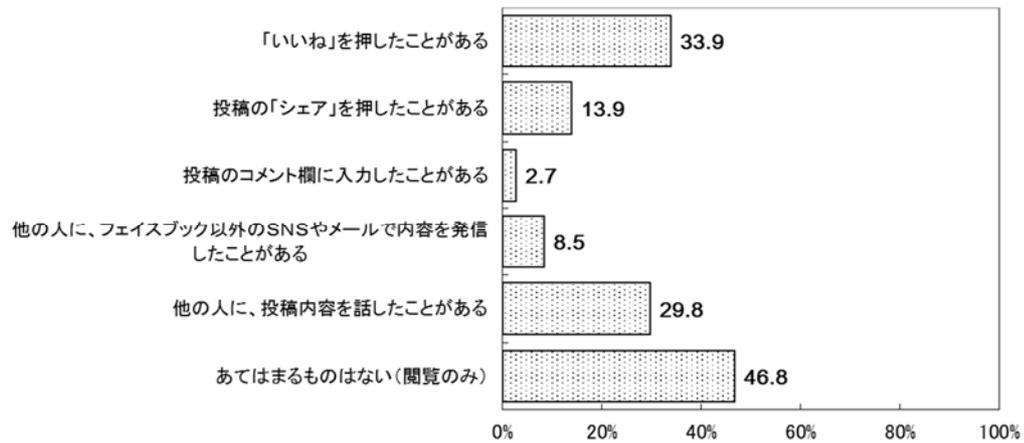
図表 食品安全委員会のフェイスブックの閲覧状況（属性別）



9. 食品安全委員会のフェイスブックの投稿への反応

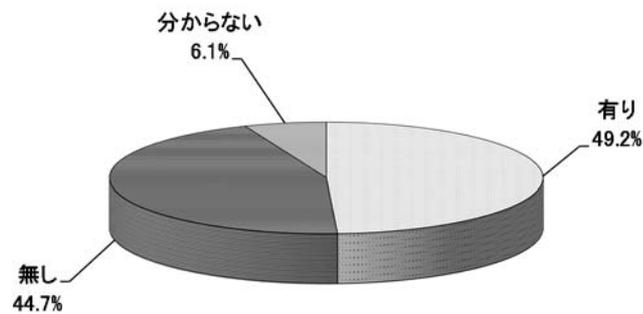
図表 食品安全委員会のフェイスブックの投稿への反応 (n=295)

(食品安全委員会のフェイスブックの閲覧状況の間でフェイスブックを「見ている」と回答した方のみ回答。当てはまるもの全てを選択)



10. フェイスブックのアカウントの有無

図表 フェイスブックのアカウント有無 (n=425)



○ 調査結果

I. 食品の安全性に係る危害要因等について

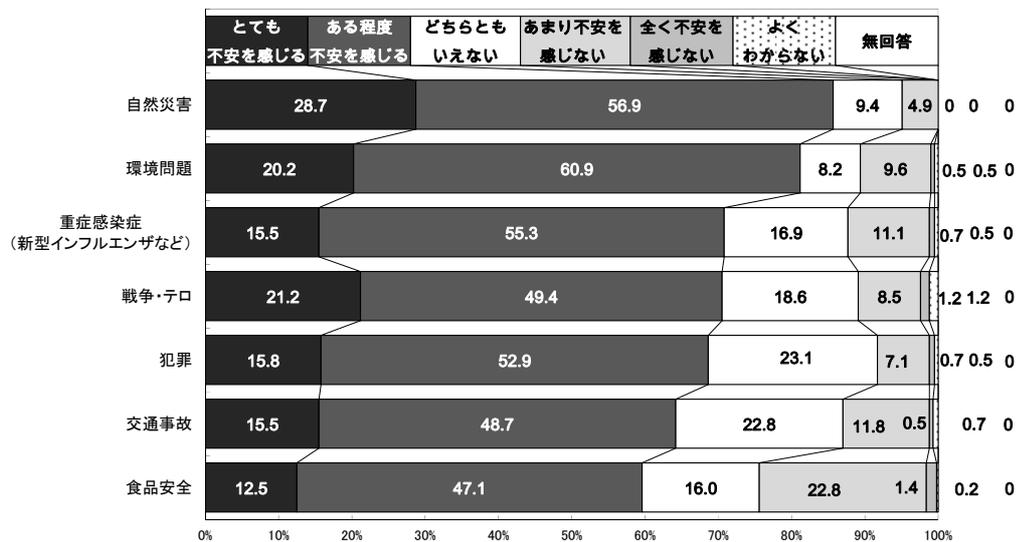
1. 日常生活を取り巻く分野別不安の程度（問1）

問1 A～Gに掲げる事項についてリスクの観点からあなたはどのように思いますか。それぞれの事項について、選択肢1～6の中から1つずつ選んでください。

1-1 日常生活を取り巻く分野別不安の程度の回答割合

- 環境問題、自然災害、食品安全、重症感染症（新型インフルエンザなど）、犯罪、戦争・テロ、交通事故の7のリスク分野について、それぞれ不安の程度を尋ねたところ、食品安全については、「とても不安を感じる」が12.5%、「ある程度不安を感じる」が47.1%で、合わせて59.6%が不安を感じるとしている。

図表 1-1 日常生活を取り巻く分野別不安の程度

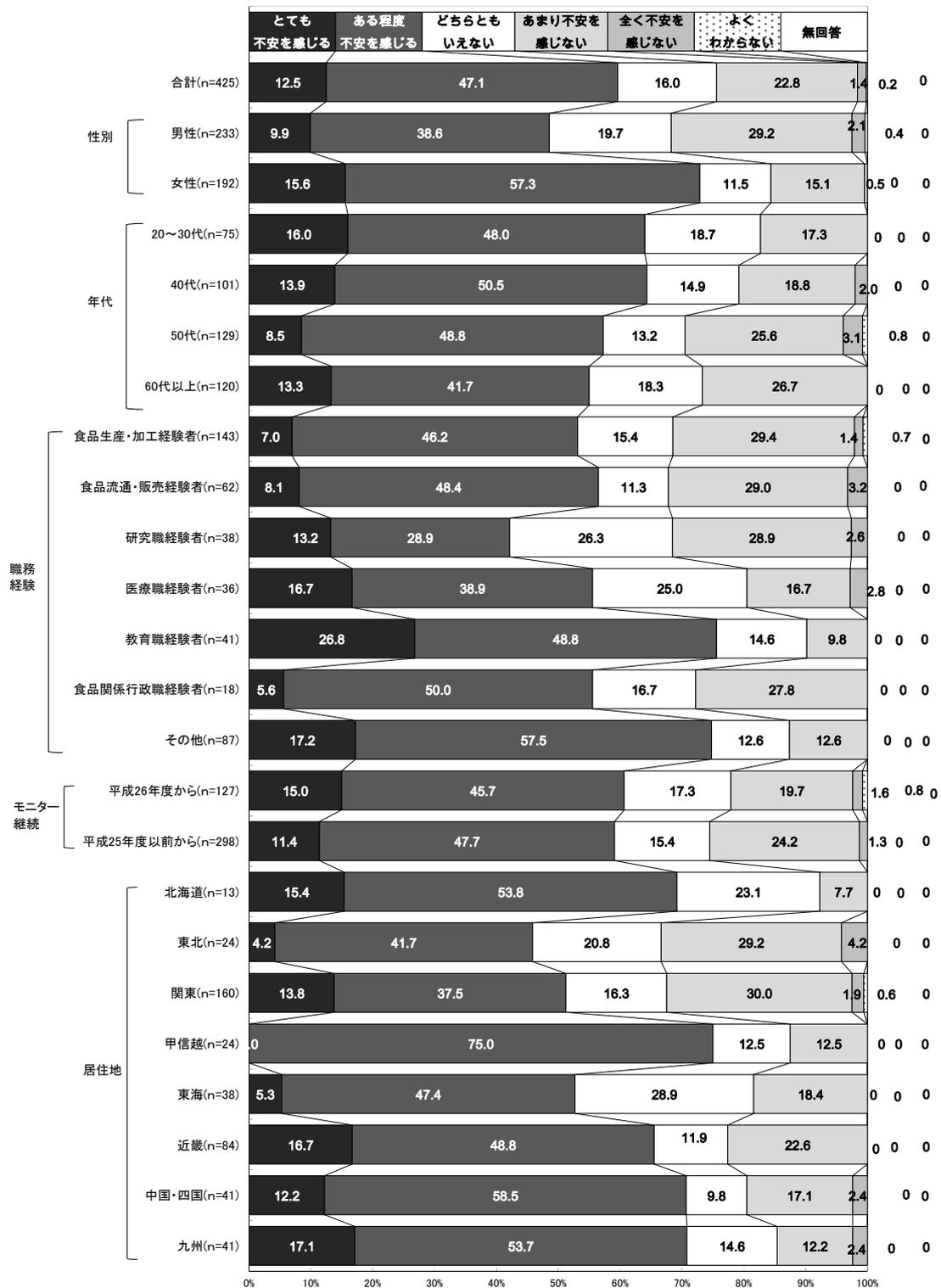


※ 「とても不安を感じる」「ある程度不安を感じる」の合計が高いもの順に並び替え

1-2 「食品安全」についての不安の程度の属性別回答割合

- 食品安全についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安を感じる」と「ある程度不安を感じる」の合計は、男性（48.5%）よりも女性（72.9%）の方が有意に高い。

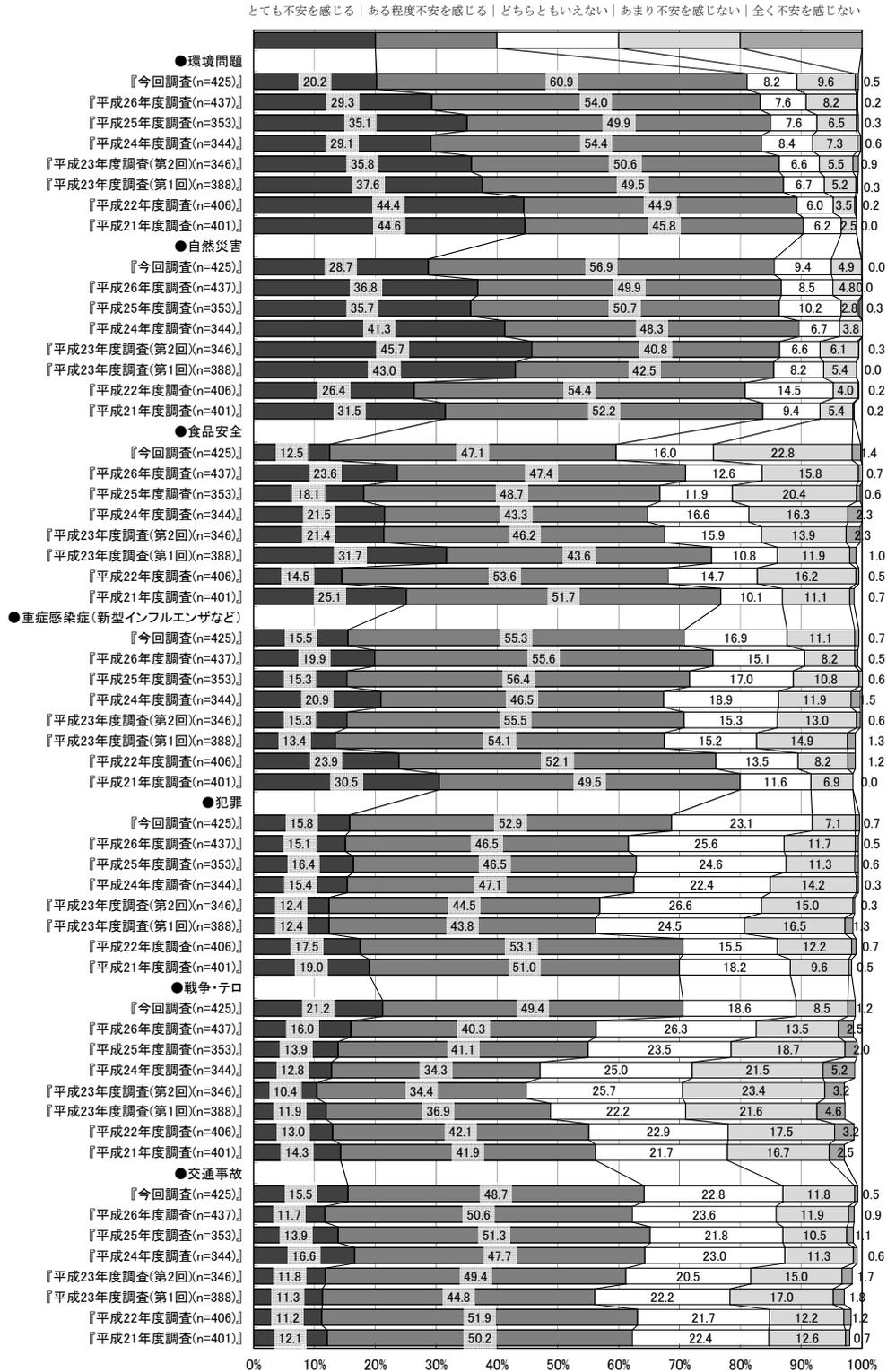
図表 1-2 「食品安全」に対する不安の程度（属性別）



1-3 日常生活を取り巻く分野別不安の程度の年度別回答割合

- 食品安全についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安を感じる」の割合は東日本大震災直後の平成23年度(第1回)の31.7%をピークに低下傾向を示し、26年度は一時は増加に転じていたが、27年度調査では前年の23.6%に比べ12.5%と減少している。

図表 1-3 日常生活を取り巻く分野別不安の程度(年度別)



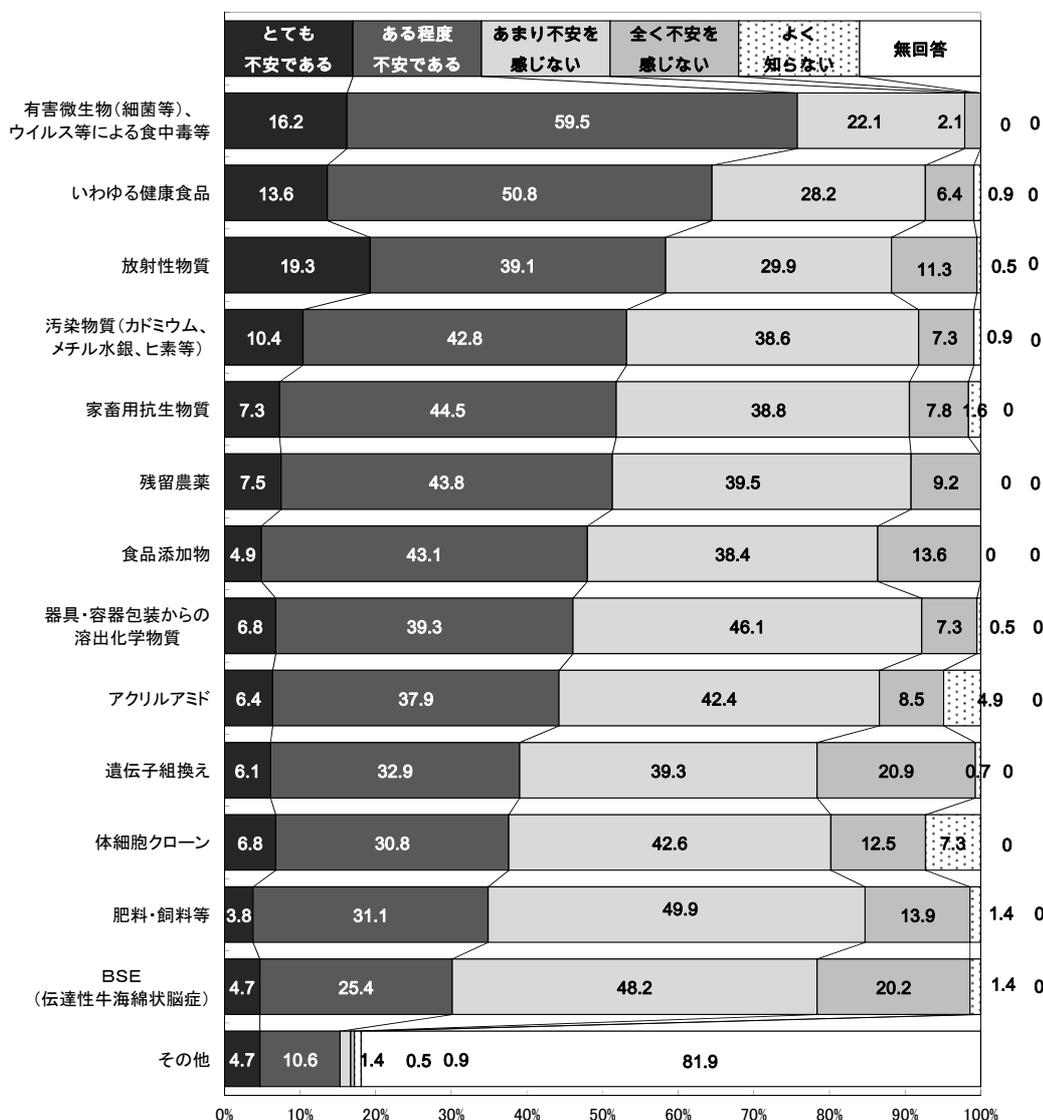
2. 食品の安全性の観点から感じる不安の程度（問2）

問2 A～Mに掲げるハザード等について、食品の安全性の観点からあなたはどのように思いますか。それぞれのハザード等について、選択肢1～5の中から1つずつ選んでください。また、A～Mのハザード等以外に食品の安全性の観点で気になるものがあれば、「N その他」に具体的な例を記入し、それについても選択肢1～5の中から1つ選んでください。

2-1 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度

- 食品安全に関するハザードについて、それぞれ不安の程度を尋ねたところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計が最も高いのは「有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等」(75.7%)、次いで「いわゆる健康食品」(64.4%)、「放射性物質」(58.4%)と続いている。

図表 2-1 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度

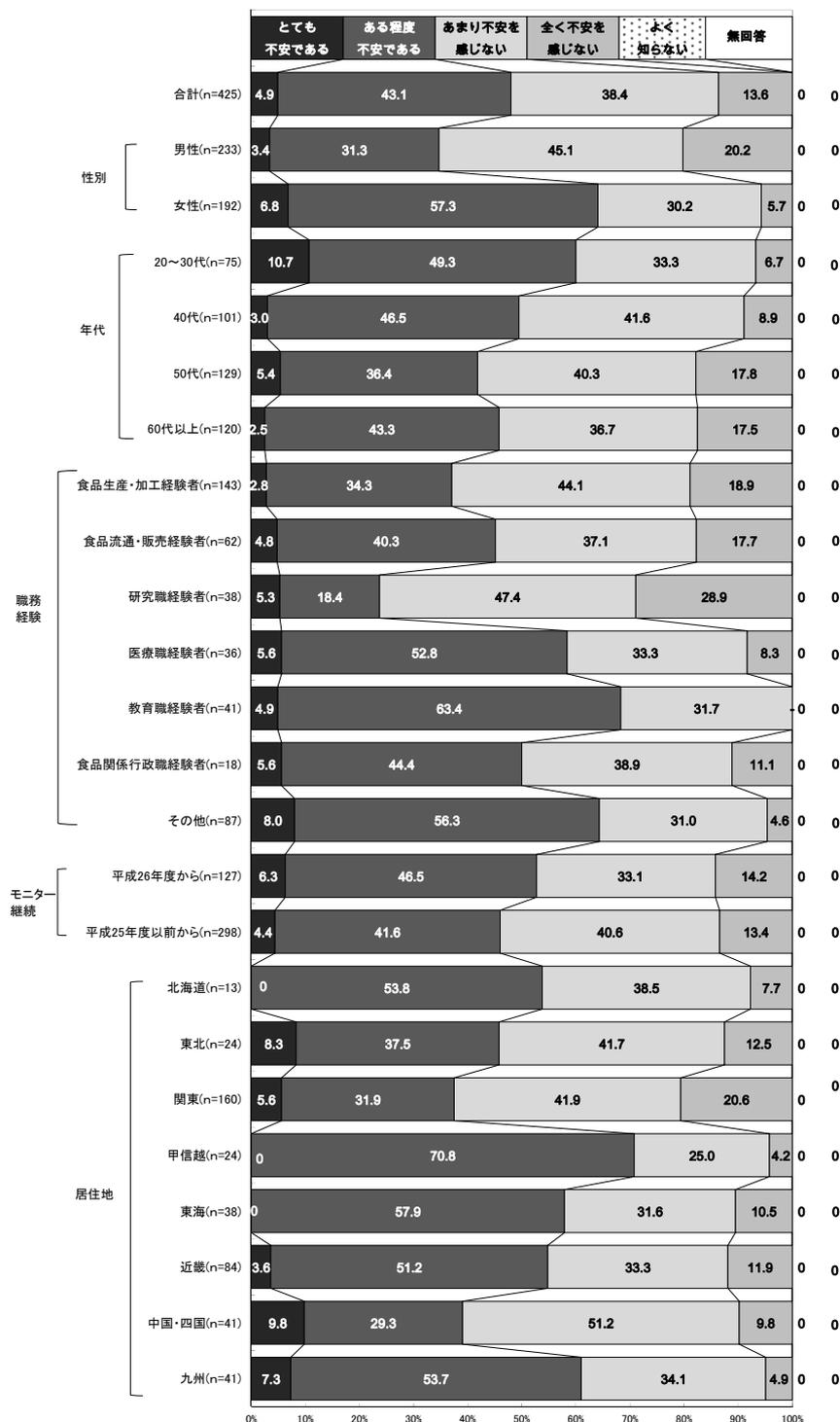


※「とても不安である」「ある程度不安である」の合計が高いもの順に並び替え

A. 食品添加物

- 食品添加物についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（34.7%）よりも女性（64.1%）のほうが有意に高い。

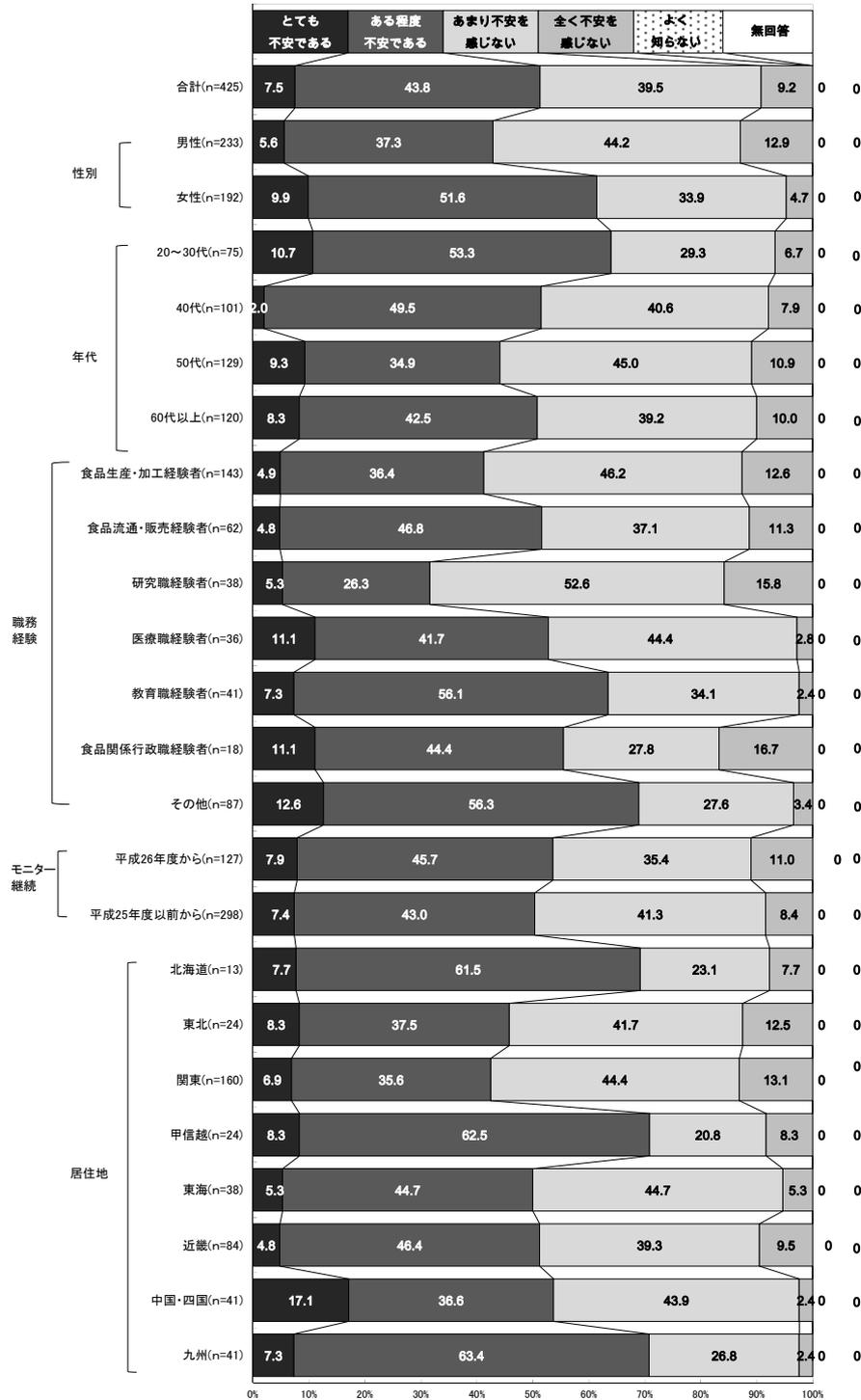
図表 2-2 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度
 <食品添加物・属性別>



B. 残留農薬

- 残留農薬についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（42.9%）よりも女性（61.5%）のほうが有意に高い。

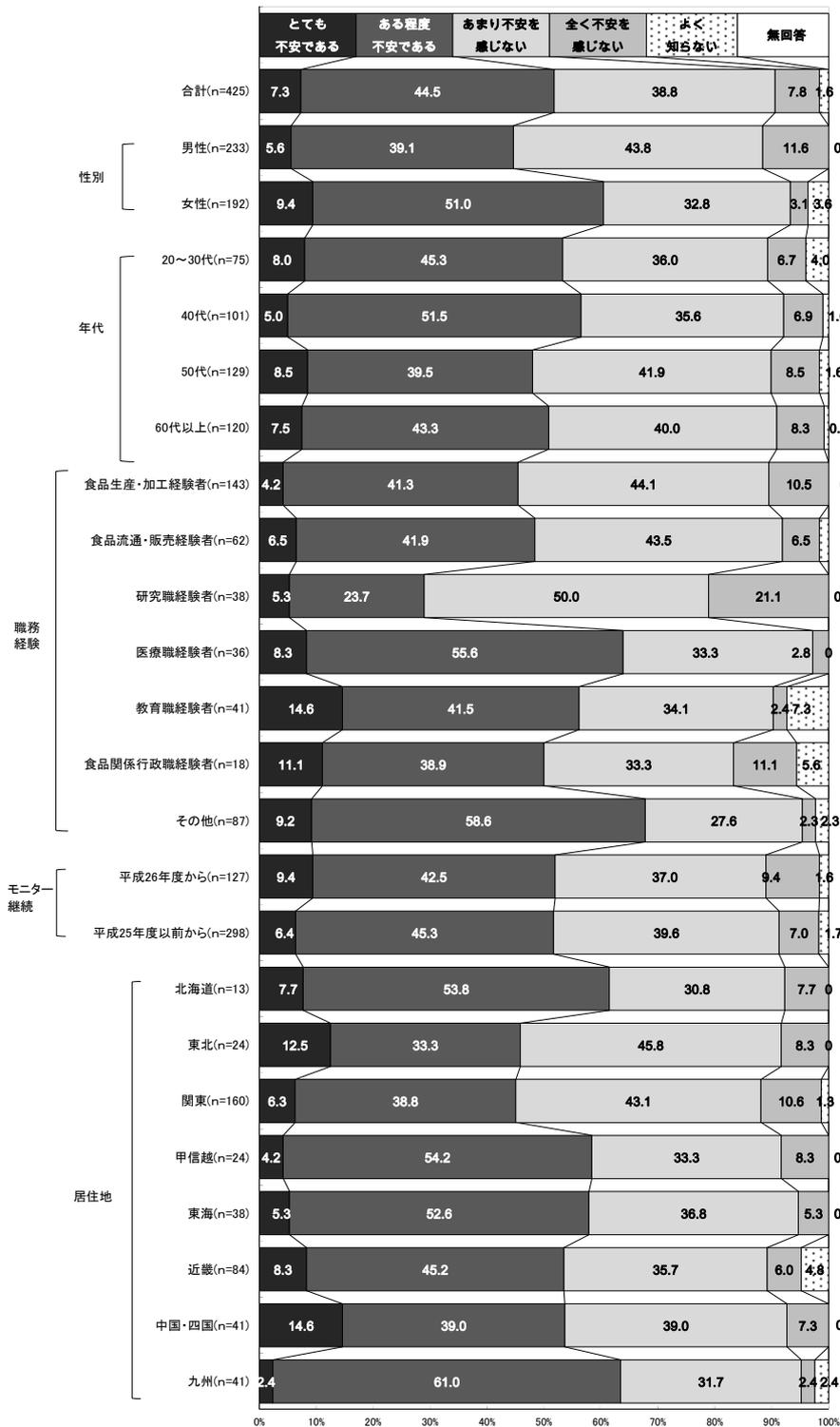
図表 2-3 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度
 <残留農薬・属性別>



C. 家畜用抗生物質

- 家畜用抗生物質についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（44.7%）よりも女性（60.4%）のほうが有意に高く、職務経験別では、他の職務経験に比べて研究職経験者（29.0%）で有意に低い。

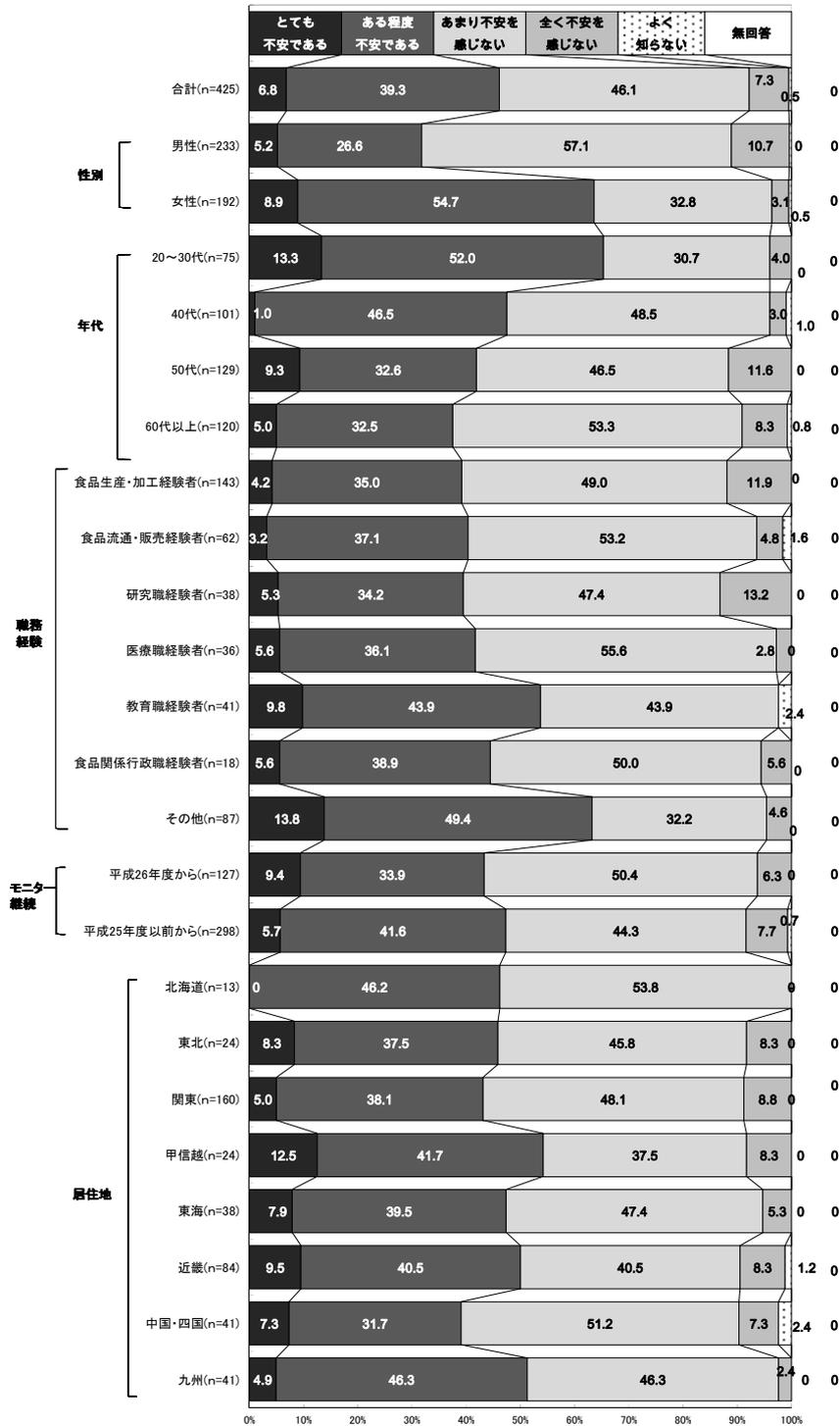
図表 2-4 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度
 <家畜用抗生物質・属性別>



D. 器具・容器包装からの溶出化学物質

- 器具・容器包装からの溶出化学物質についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（31.8%）よりも女性（63.6%）のほうが有意に高く、年代別では、他の年代に比べて、20～30代（65.3%）が有意に高い。

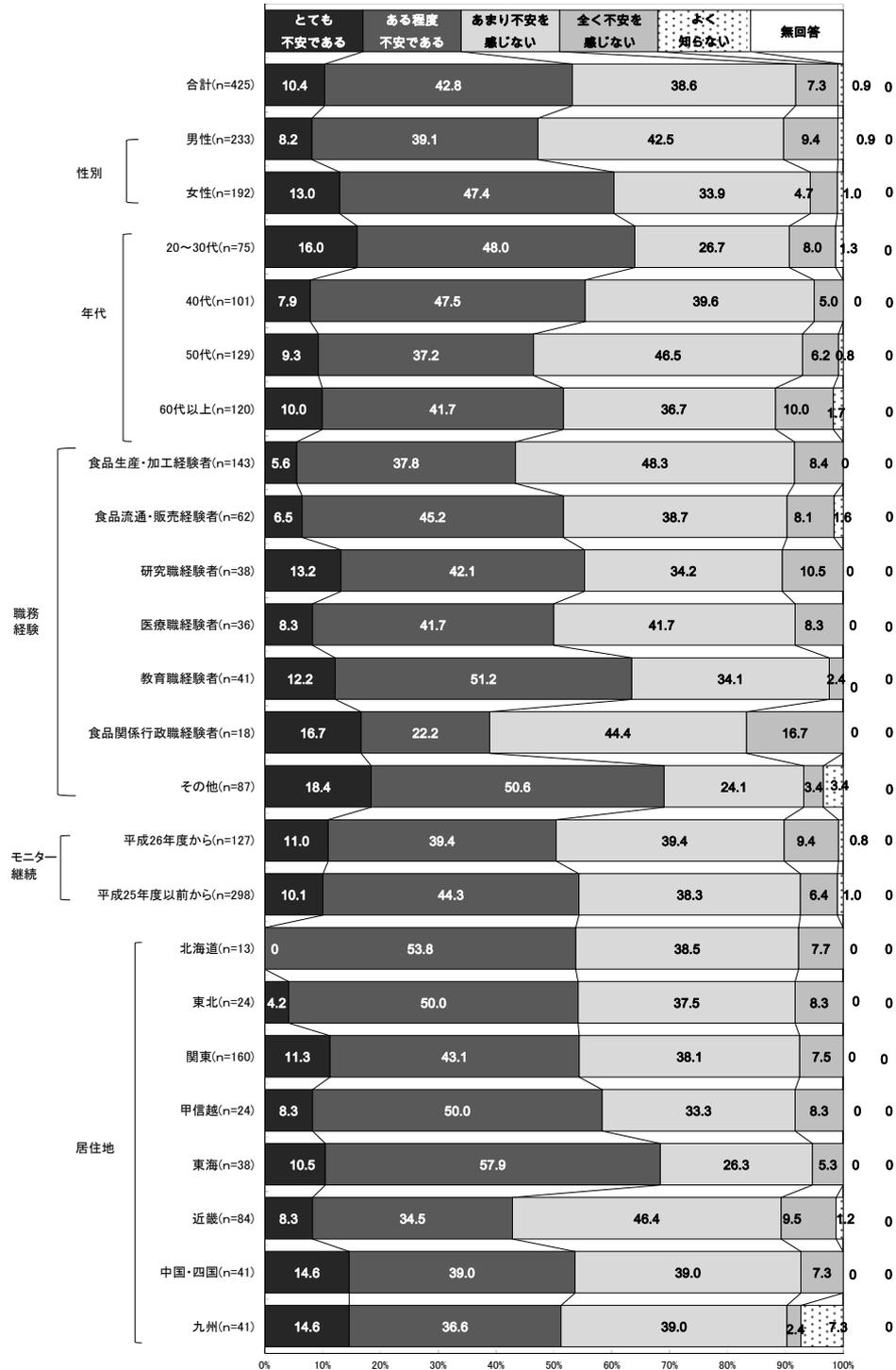
図表 2-5 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度
 <器具・容器包装・属性別>



E. 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）

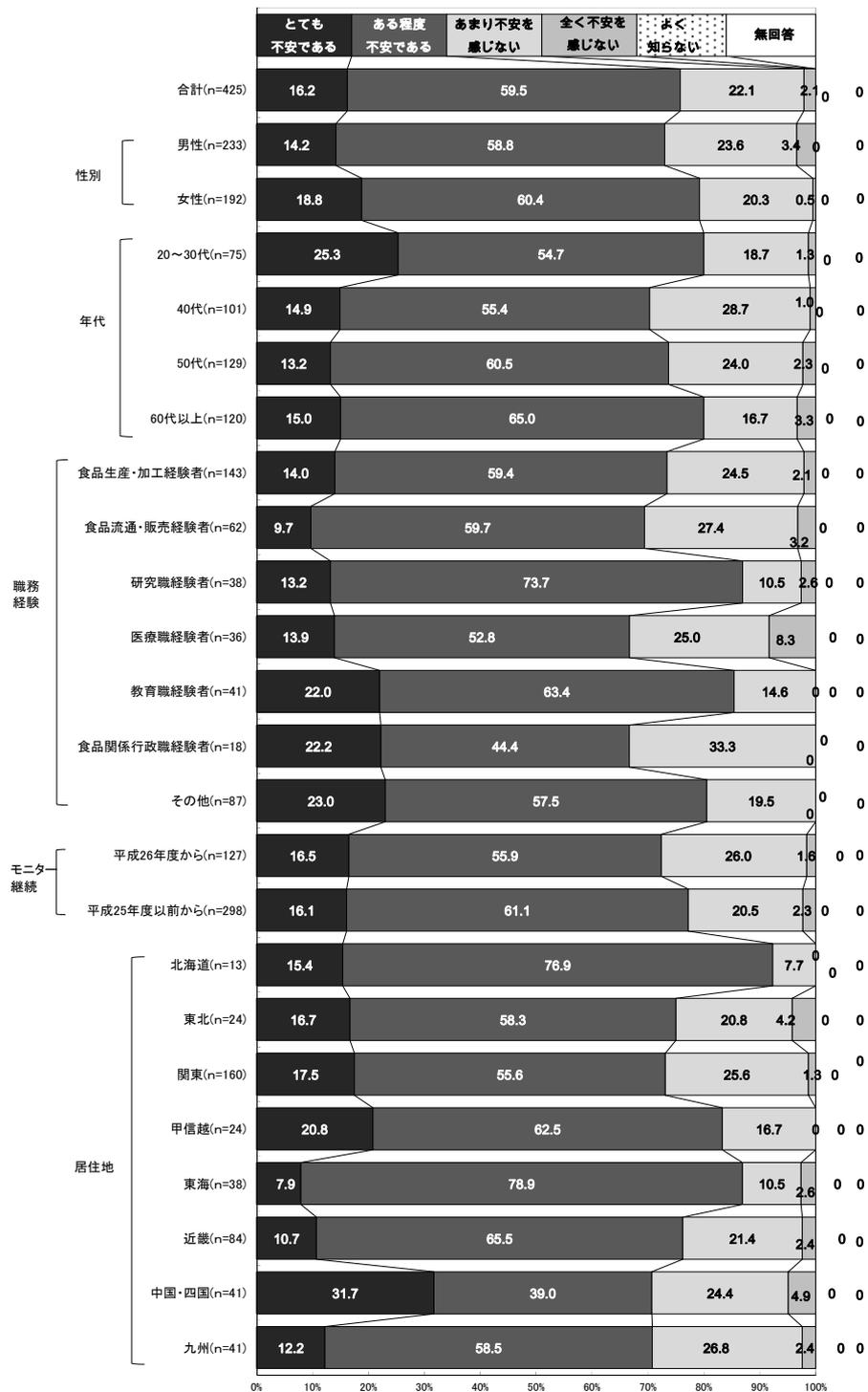
- 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、職務経験別では、他の職務経験に比べて食品関係行政経験者（38.9%）のほうが低い。

図表 2-6 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度
 <汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）・属性別>



F. 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等

- 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計に大きな差は見られなかった。
- 図表 2-7 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度
 <有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等・属性別>

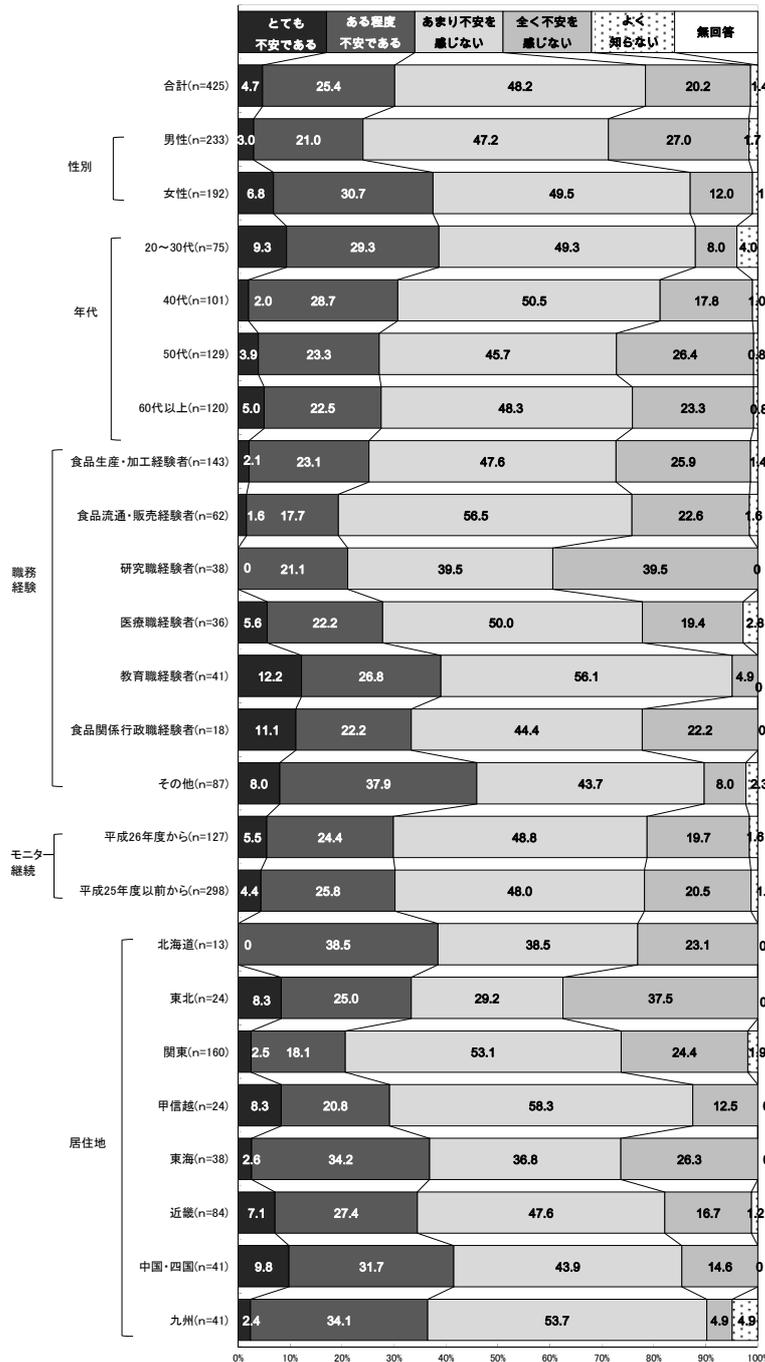


G. BSE（伝達性牛海綿状脳症）

- BSE（伝達性牛海綿状脳症）についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（24.0%）よりも女性（37.5%）のほうが有意に高く、職務経験別では、他の職務経験に比べてその他（45.9%）が高い。
- 「あまり不安を感じない」と「全く不安を感じない」の合計は68.4%と、調査項目のハザード等の中で最も高い値となった。また、「全く不安を感じない」の割合は20.2%と、遺伝子組換えの20.9%に次いで高い値であった。

図表 2-8 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度

<BSE（伝達性牛海綿状脳症）・属性別>

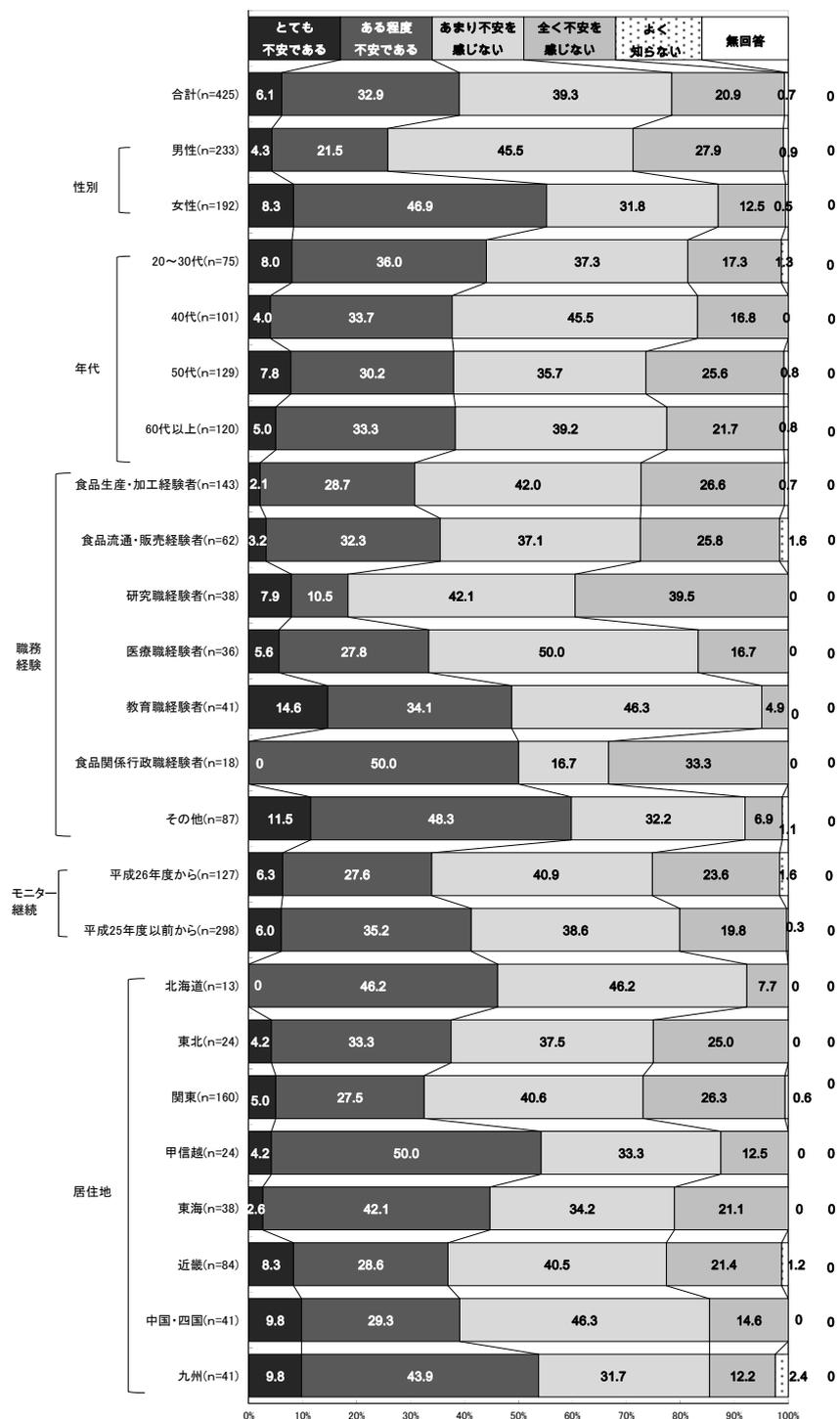


H. 遺伝子組換え

- 遺伝子組換えについての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（25.8%）よりも女性（55.2%）のほうが有意に高く、職務経験別では、他の職務経験に比べて研究職経験者（18.4%）が有意に低い。
- 「全く不安を感じない」の割合は20.9%と、調査項目のハザード等の中で最も高い値となった。また、「あまり不安を感じない」と「全く不安を感じない」の合計は60.2%と、BSE（68.4%）、肥料・飼料等（63.8%）に次いで高い値であった。

図表 2-9 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度

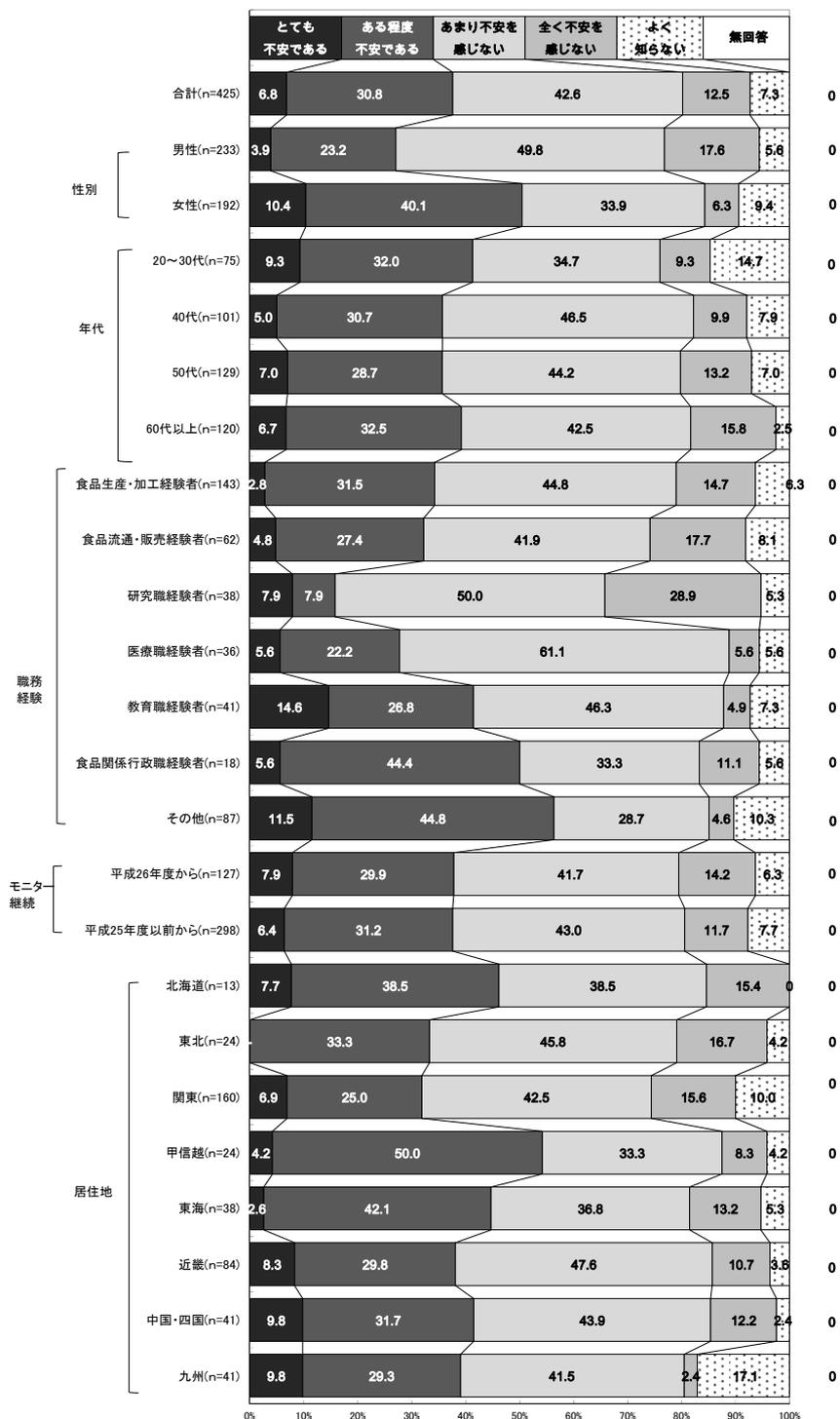
<遺伝子組換え・属性別>



I. 体細胞クローン

- 体細胞クローンについての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（27.1%）よりも女性（50.5%）のほうが有意に高く、職務経験別では、他の職務経験に比べて研究職経験者（15.8%）が有意に低い。

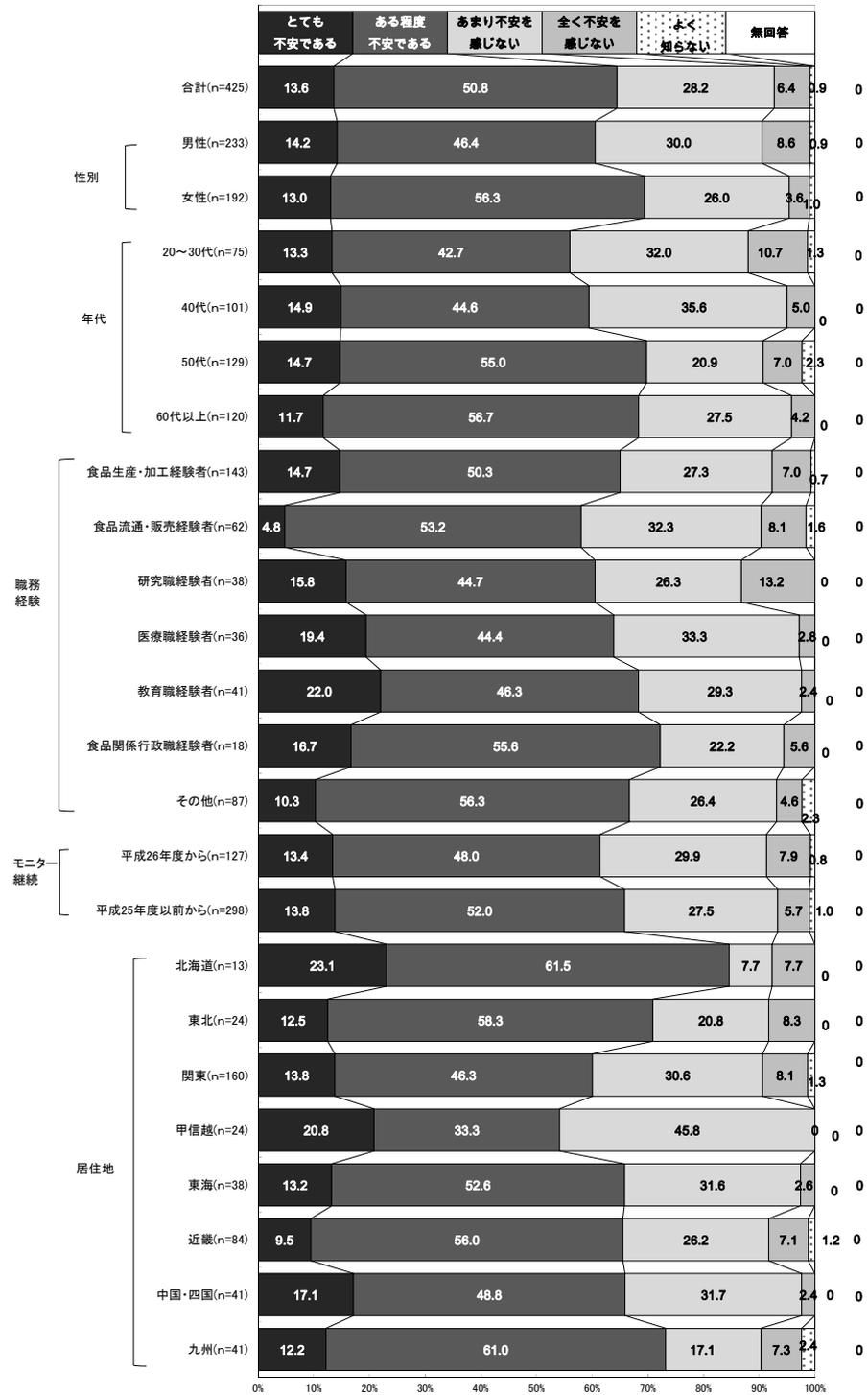
図表 2-10 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度
 <体細胞クローン・属性別>



J. いわゆる健康食品

- いわゆる健康食品についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計に大きな差は見られなかった。

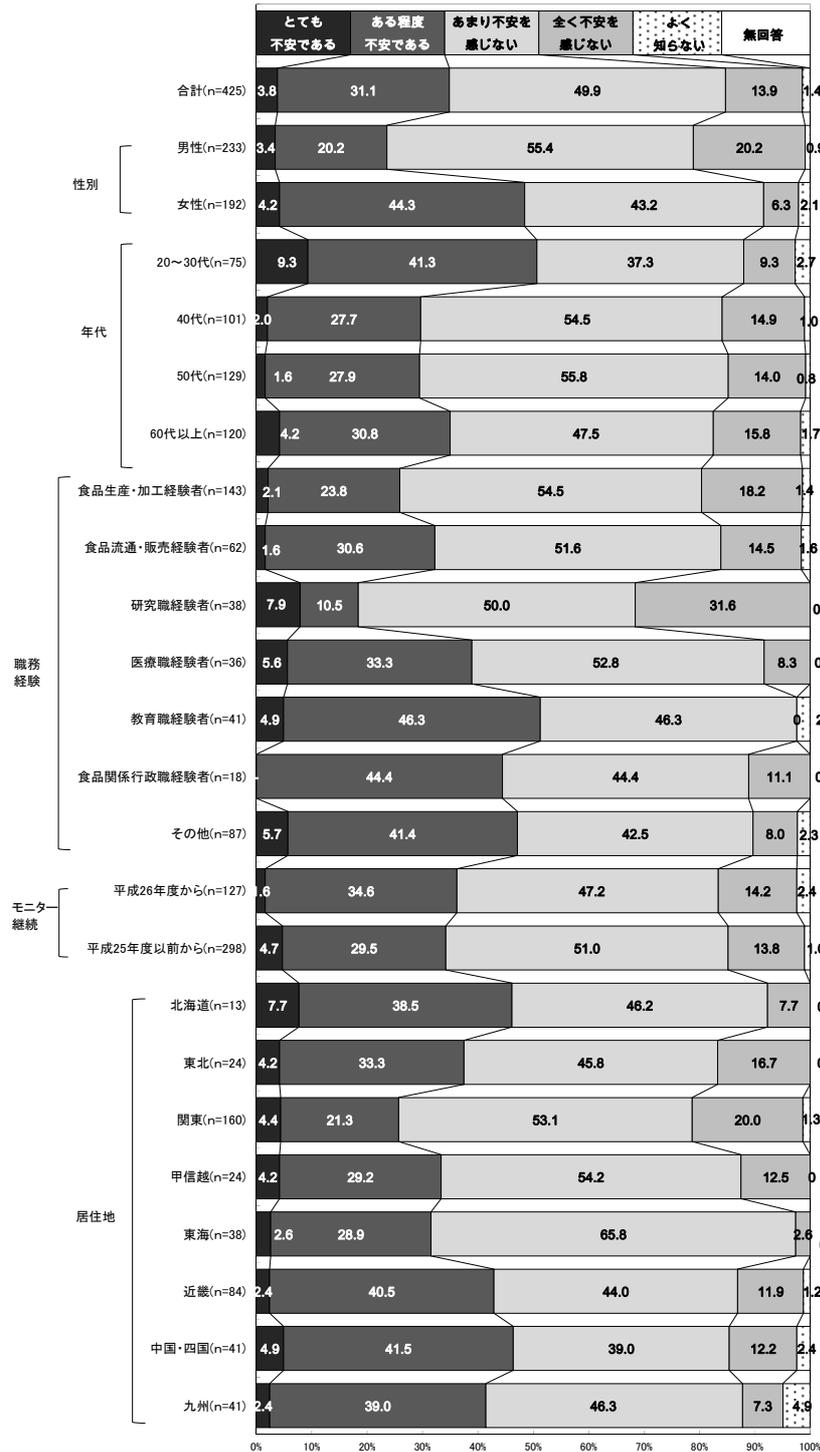
図表 2-11 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度
 <いわゆる健康食品・属性別>



K. 肥料・飼料等

- 肥料・飼料等についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（23.6%）よりも女性（48.5%）のほうが有意に高い。
- 「あまり不安を感じない」と「全く不安を感じない」の合計は63.8%と、BSE（68.4%）に次いで高い値であった。

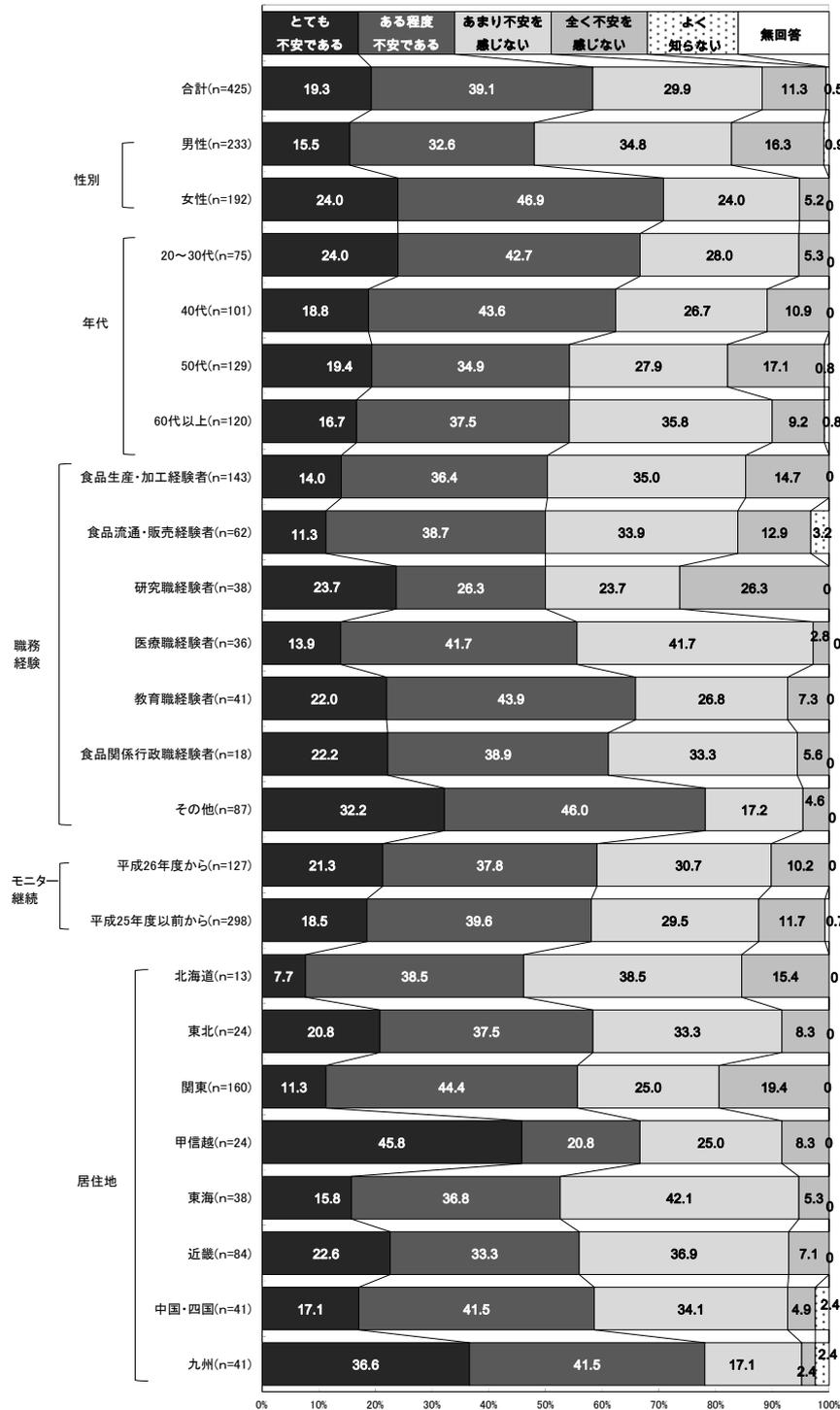
図表 2-12 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度
 <肥料・飼料等・属性別>



L. 放射性物質

- 放射性物質についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（48.1%）よりも女性（70.9%）のほうが有意に高く、職務経験別では、他の職務経験に比べてその他（78.2%）が有意に高い。また、居住地別では、他の区域に比べて、九州（78.1%）が有意に高い。

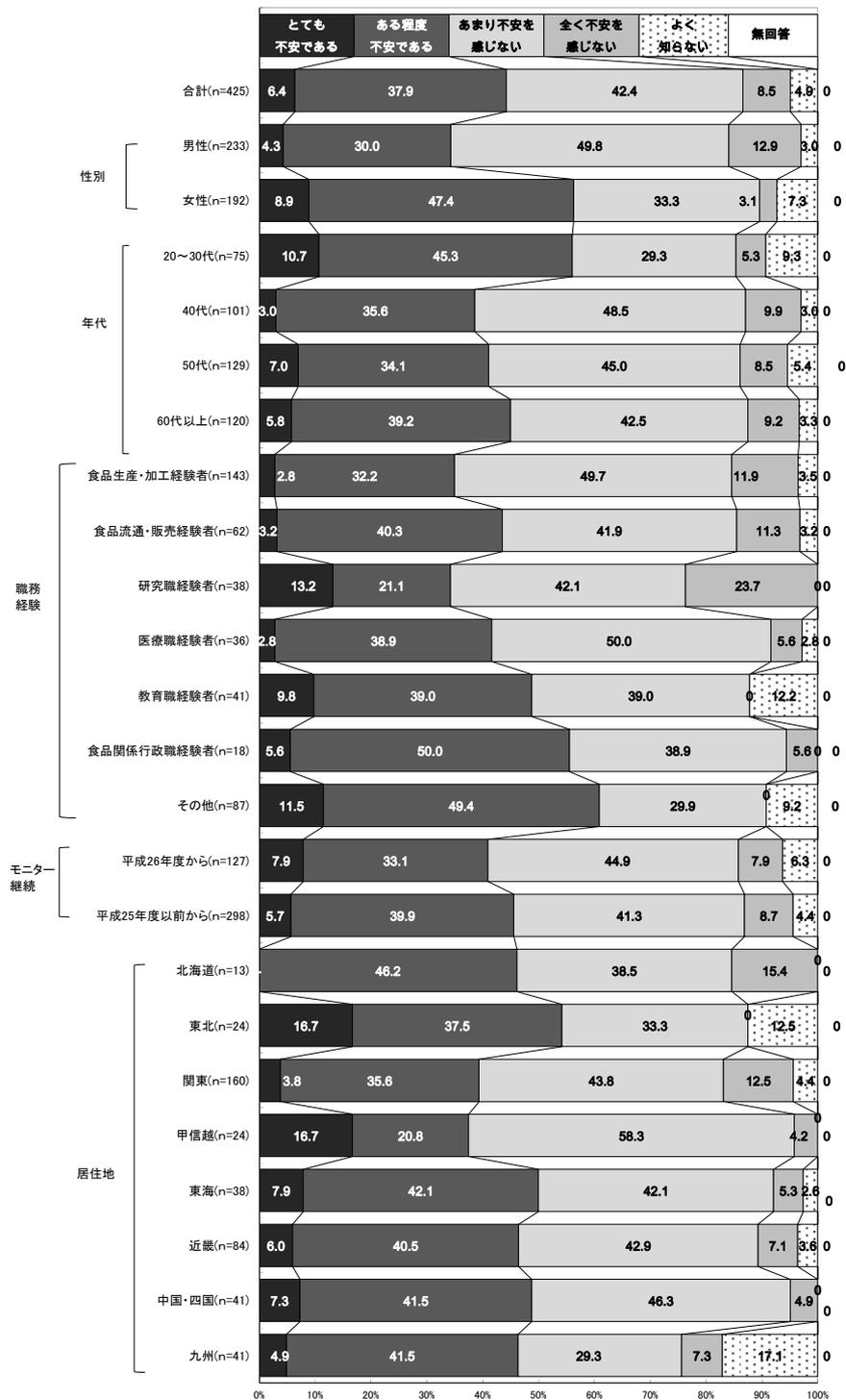
図表 2-13 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度
 <放射性物質・属性別>



M. アクリルアミド

- アクリルアミドについての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（34.3%）よりも女性（56.3%）のほうが有意に高く、職務経験別では、他の職務経験に比べてその他（60.9%）が有意に高い。

図表 2-14 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度
 <アクリルアミド・属性別>



図表 2-15 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度（年度別）

（「とても不安である」「ある程度不安である」の合計割合の上位7位）

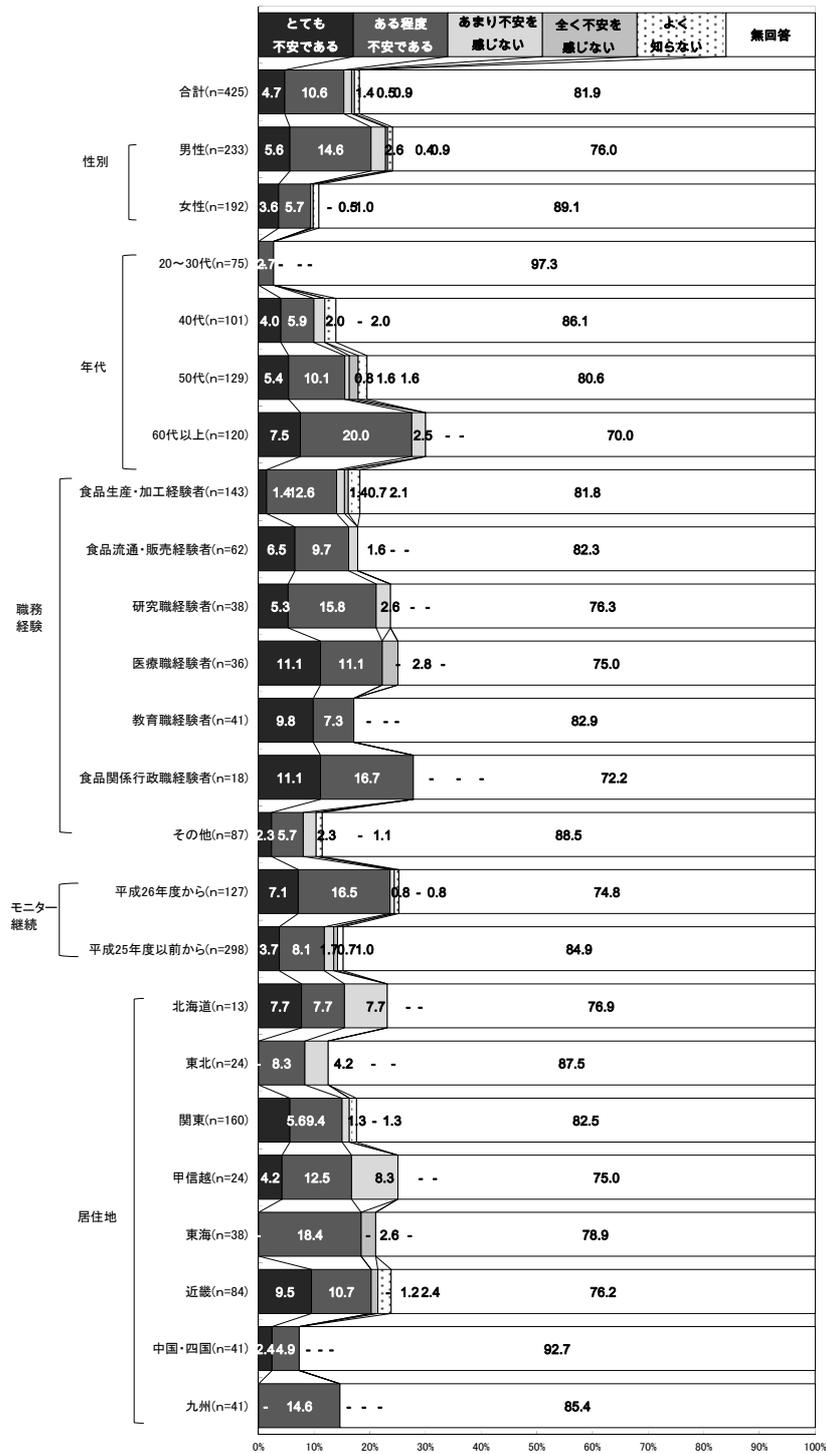
年度	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
今回調査	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（75.7%）	いわゆる健康食品（64.4%）	放射性物質（58.4%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（53.2%）	家畜用抗生物質（51.8%）	残留農薬（51.3%）	食品添加物（48%）
平成26年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（78.5%）	放射性物質（64.1%）	いわゆる健康食品（64.1%）	残留農薬（58.8%）	家畜用抗生物質（55.4%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（53.6%）	食品添加物（50.4%）
平成25年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（80.8%）	放射性物質（67.5%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（62.6%）	いわゆる健康食品（62.6%）	残留農薬（61.5%）	家畜用抗生物質（59.5%）	器具・容器包装からの溶出化学物質（50.7%）
平成24年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（79%）	放射性物質（74.2%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（64.5%）	残留農薬（63.4%）	家畜用抗生物質（57.3%）	器具・容器包装からの溶出化学物質（55.6%）	いわゆる健康食品（55.5%）
平成23年度（第2回）	放射性物質（80.3%）	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（75.8%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（64.4%）	残留農薬（62.5%）	いわゆる健康食品（57.5%）	家畜用抗生物質（57.2%）	食品添加物（56.4%）
平成23年度（第1回）	放射性物質（85.5%）	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（76%）	残留農薬（60.3%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（58.5%）	家畜用抗生物質（56.4%）	肥料・飼料等（55.4%）	いわゆる健康食品（54.9%）
平成22年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（76.4%）	残留農薬（68.1%）	家畜用抗生物質（62.8%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（61.6%）	食品添加物（59.9%）	器具・容器包装からの溶出化学物質（59.9%）	いわゆる健康食品（56.4%）
平成21年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（79.6%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（78.1%）	残留農薬（73.1%）	家畜用抗生物質（68.2%）	器具・容器包装からの溶出化学物質（67.5%）	遺伝子組換え（64.6%）	食品添加物（62.5%）
平成20年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（75.3%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（74.8%）	残留農薬（70.6%）	家畜用抗生物質（64.4%）	器具・容器包装からの溶出化学物質（63.2%）	BSE（伝達性牛海綿状脳症）（62.5%）	体細胞クローン（59.2%）
平成19年度	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（88.4%）	残留農薬（80.2%）	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（78.3%）	家畜用抗生物質（74.2%）	食品添加物（67.3%）	BSE（伝達性牛海綿状脳症）（64.4%）	いわゆる健康食品（62.8%）
平成18年度	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（88.4%）	残留農薬（82.8%）	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（80.6%）	家畜用抗生物質（77.3%）	BSE（伝達性牛海綿状脳症）（75%）	食品添加物（72.7%）	遺伝子組換え（69.4%）
平成17年度	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（90.2%）	残留農薬（86.4%）	家畜用抗生物質（80.4%）	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（79.3%）	遺伝子組換え（77%）	BSE（伝達性牛海綿状脳症）（75.2%）	食品添加物（72.5%）
平成16年度	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（91.7%）	残留農薬（89.7%）	家畜用抗生物質（83.5%）	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（80.9%）	食品添加物（76.4%）	遺伝子組換え（74.7%）	BSE（伝達性牛海綿状脳症）（74.5%）

※以下の調査項目は（ ）内年度の調査より追加した。

器具・容器包装からの溶出化学物質（平成20年度）、体細胞クローン（平成20年度）、肥料・飼料（平成22年度）、放射性物質（平成23年度）、アクリルアミド（平成26年度）

N. その他

- A~Mのハザード等以外に食品の安全性の観点で気になるものを「N その他」として記入を求めたところ、「とても不安である」「ある程度不安である」ものとして、アレルギー、異物混入、食品偽装、廃棄食品の流通、特定保健用食品・機能性表示食品、トランス脂肪酸、輸入食品、レッドミート、野生動物の肉、自然毒、寄生虫、かび毒、飲料水などが挙げられ、「あまり不安を感じない」、「全く不安を感じない」ものとして、飲料水、トランス脂肪酸、放射線照射食品、非意図的生成物などが挙げられた。

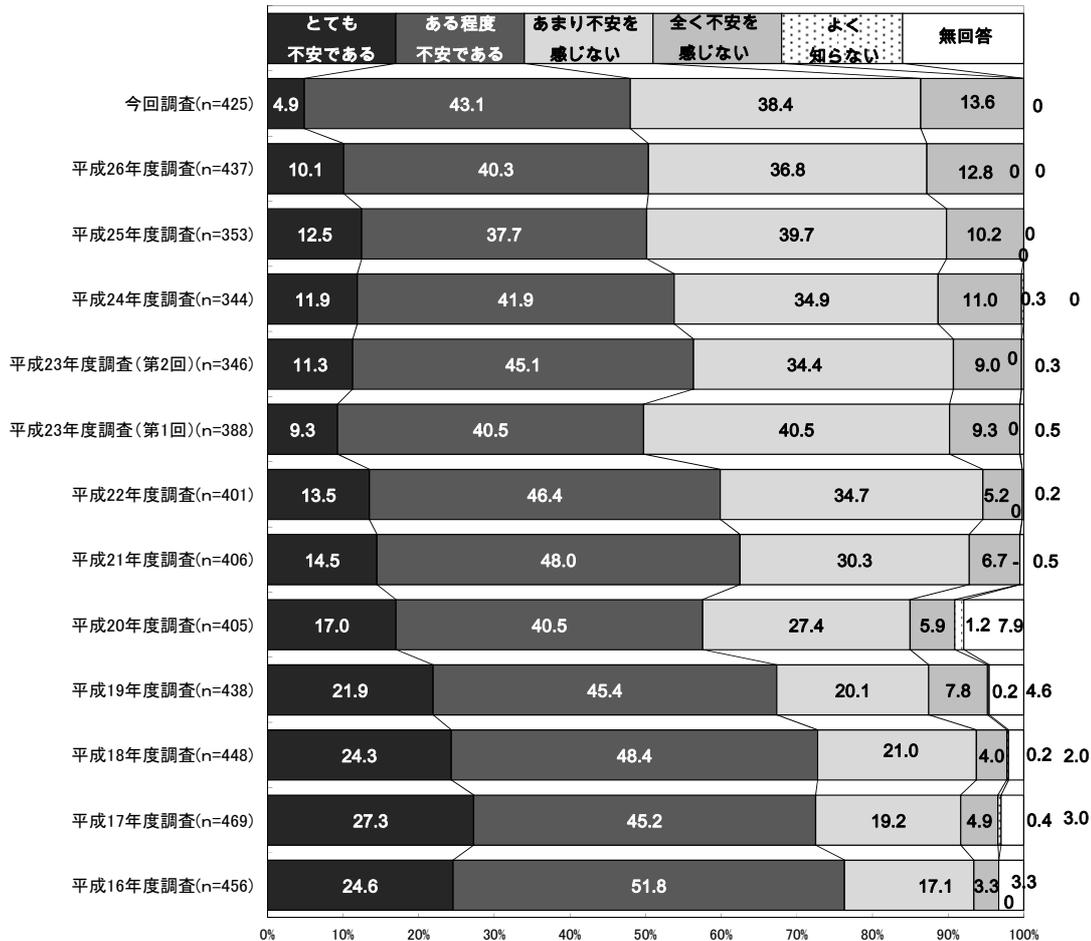


2-2 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度の年度別回答割合

A. 食品添加物

- 食品添加物についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、平成16年度調査の76.4%から今回調査の48.0%と、経年的には低下傾向が見られる。
- 「とても不安である」の割合は、平成16～19年度は20%台であったが、その後10%台に低下し、今回調査では4.9%とこれまでで最も低い値となった。

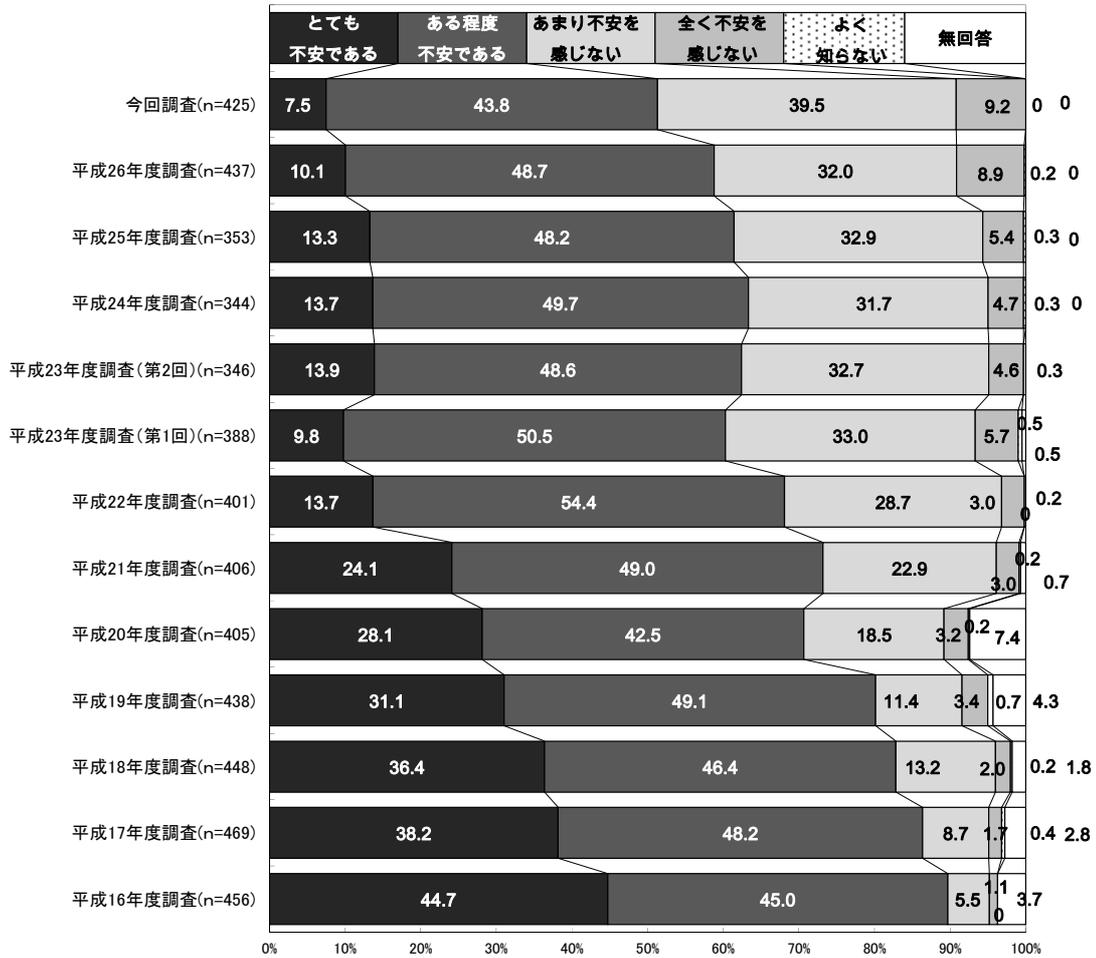
図表 2-16 食品の安全性の観点から感じる不安の程度
 <食品添加物・年度別>



B. 残留農薬

- 残留農薬についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、平成16年度から23年度（第1回）にかけて89.7%から60.3%へ低下し、23年度以降、前回調査までは60%前後で横ばい傾向となっていたが、今回調査では51.3%と、これまでで最も低い値となった。
- 「とても不安である」の割合は、今回調査では7.5%とこれまでで最も低い値となった。

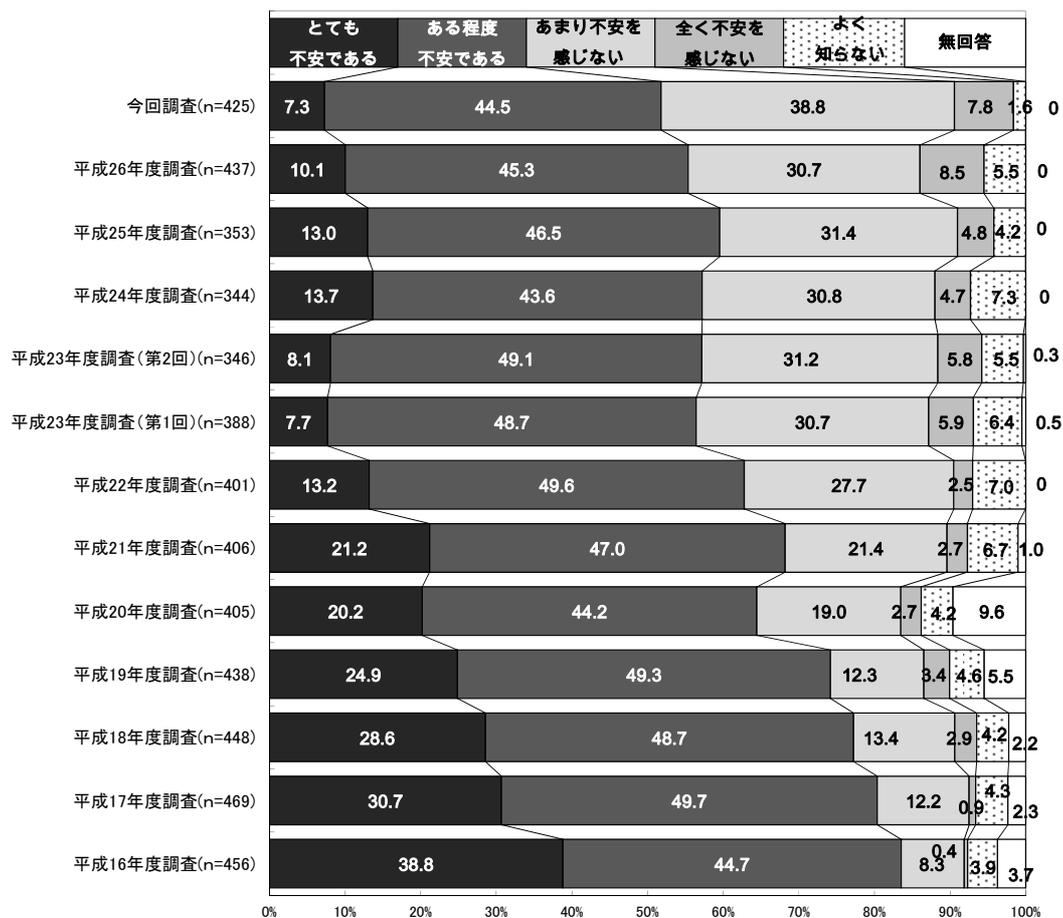
図表 2-17 食品の安全性の観点から感じる不安の程度
 <残留農薬・年度別>



C. 家畜用抗生物質

- 家畜用抗生物質についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、平成16年度から23年度（第1回）にかけて83.5%から56.4%へ低下したが、23年度以降は55~60%程度で横ばい傾向となっている。また、今回調査では、前回調査よりやや低下している（55.4%→51.8%）。

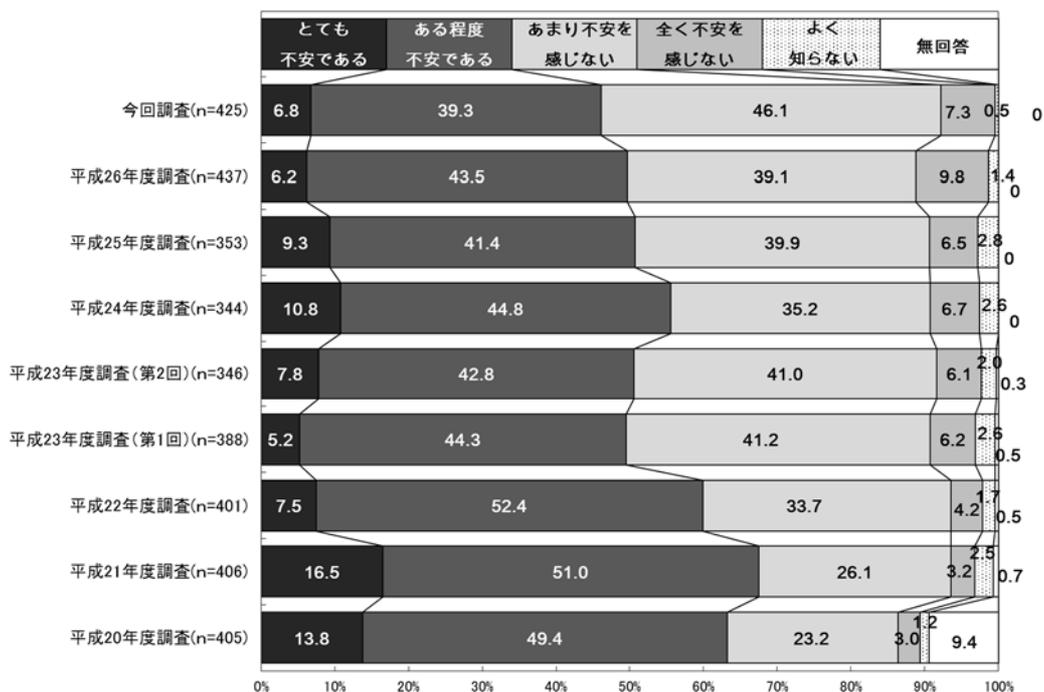
図表 2-18 食品の安全性の観点から感じる不安の程度
 <家畜用抗生物質・年度別>



D. 器具・容器包装からの溶出化学物質

- 器具・容器包装からの溶出化学物質についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、平成21年度調査(67.5%)をピークに、23年度にかけて50%前後に低下し、その後は横ばい傾向である。
- 今回調査では、前回調査よりやや低下している(49.7%→46.1%)。

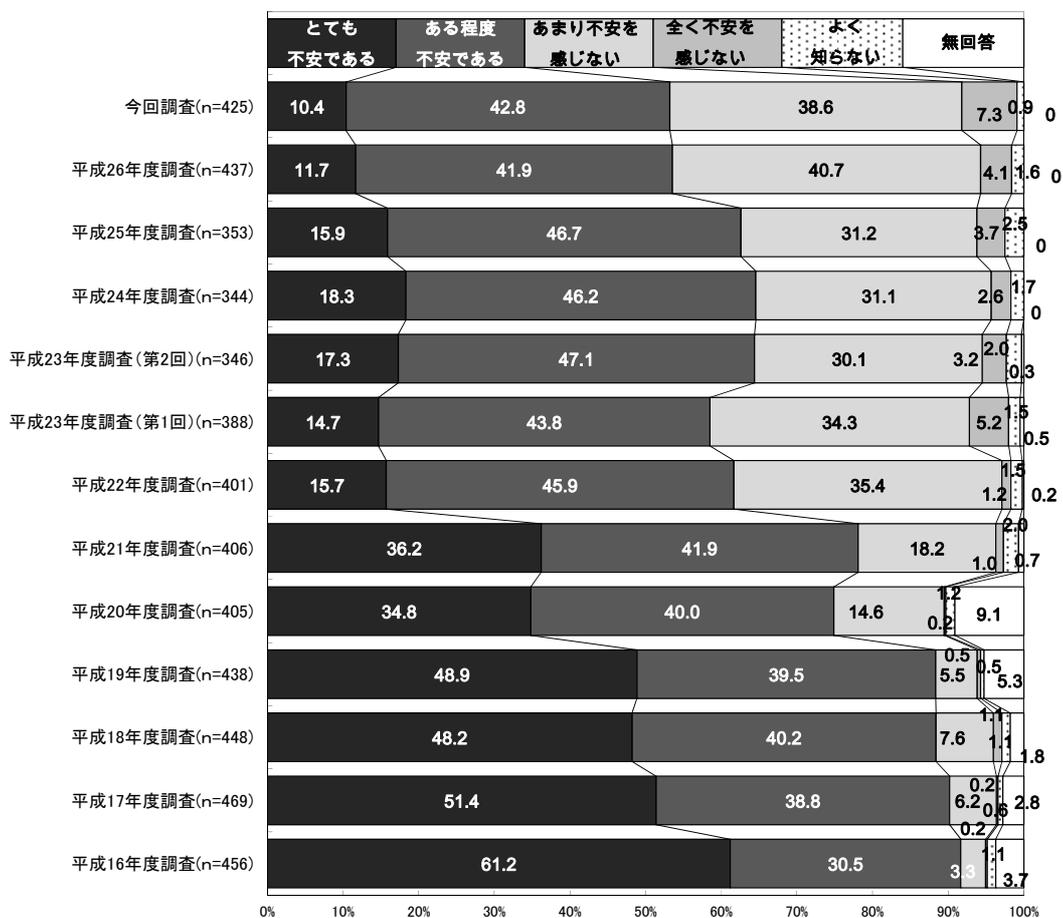
図表 2-19 食品の安全性の観点から感じる不安の程度
 <器具・容器包装からの溶出化学物質・年度別>



E. 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）

- 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、平成16年度の91.7%から今回調査の53.2%と、経年的に低下傾向が見られる。
- 「とても不安である」の割合は、平成16年度は61.2%であったが、17年度から19年度は50%前後、20年度、21年度は35%前後、22年度以降は15%前後にまで低下し、さらに前回調査と今回調査では、10%前後に低下している。

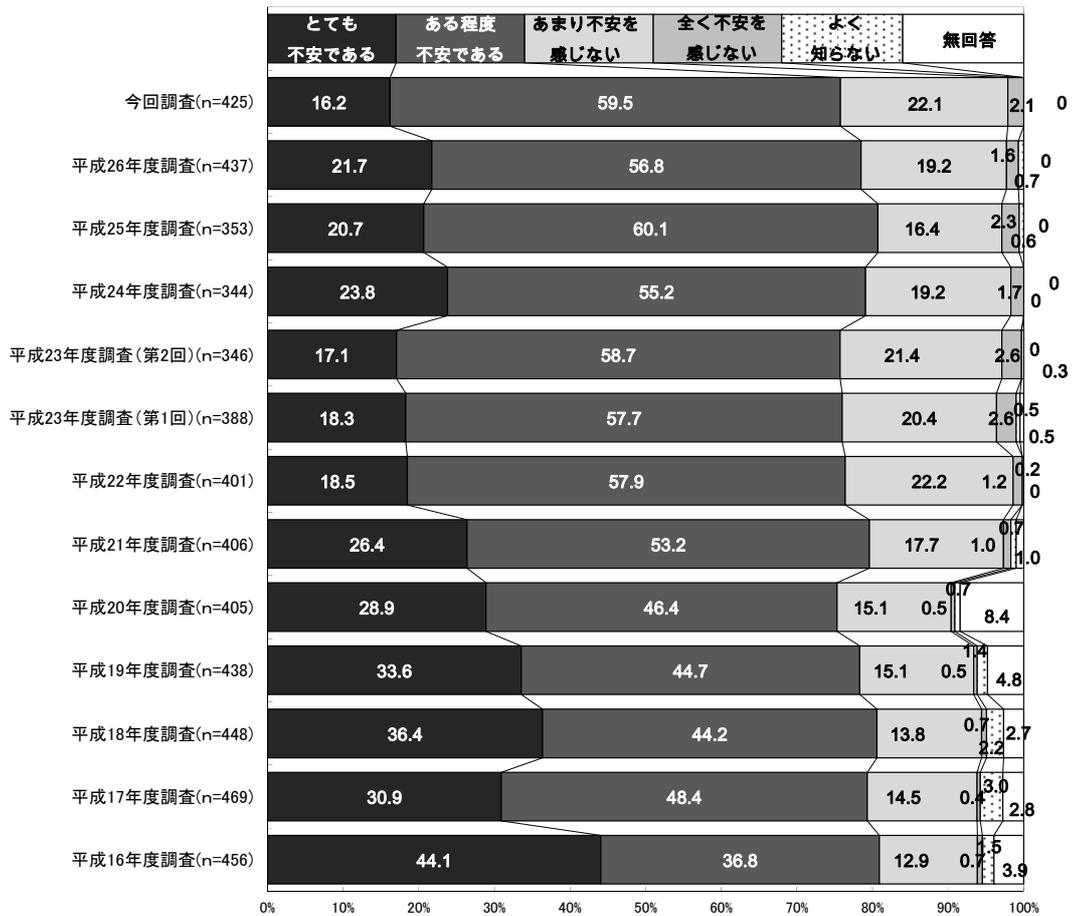
図表 2-20 食品の安全性の観点から感じる不安の程度
 <汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）・年度別>



F. 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等

- 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」の割合は、平成16年度から22年度にかけて44.1%から18.5%へ低下し、その後は、20%前後で横ばい傾向となっている。また、今回調査では16.2%と、これまでで最も低い値となった。
- 「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、長期的に80%前後で横ばいとなっている。

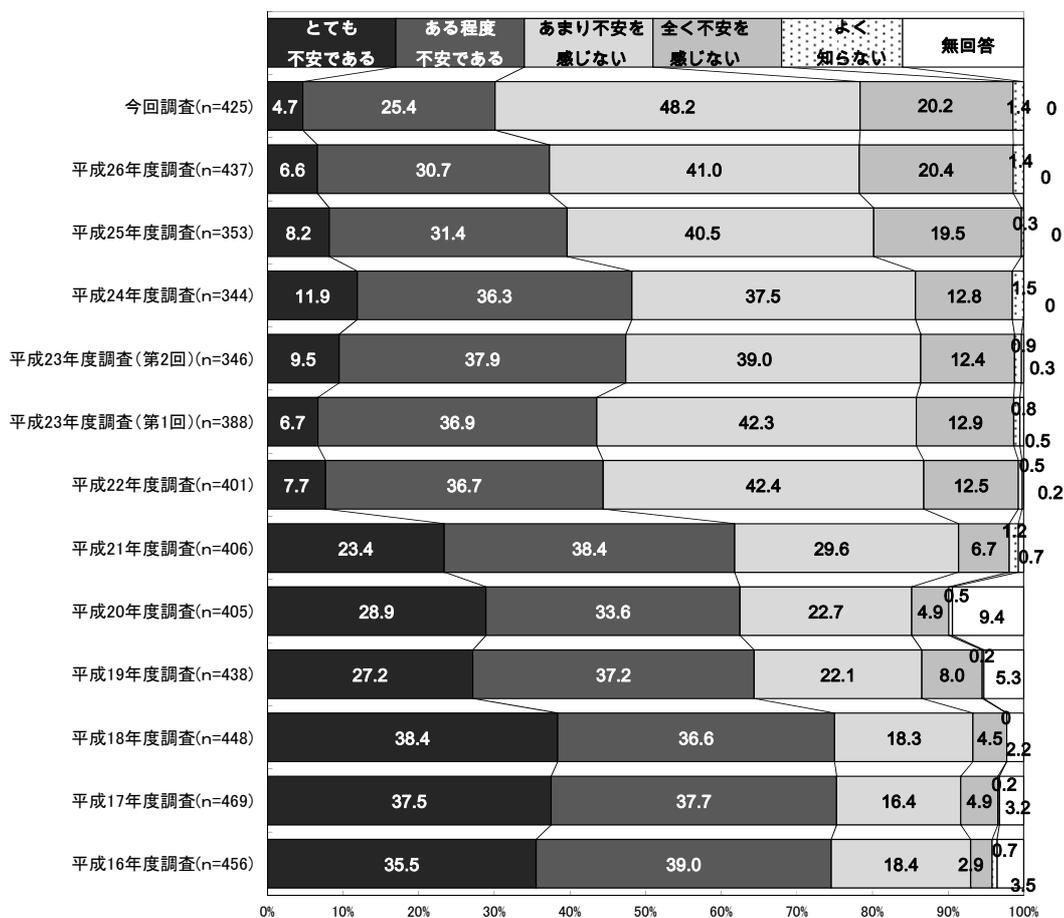
図表 2-21 食品の安全性の観点から感じる不安の程度
 <有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等・年度別>



G. BSE（伝達性牛海綿状脳症）

- BSE（伝達性牛海綿状脳症）についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、平成16年度の74.5%から今回調査の30.1%と、経年的に低下傾向が見られる。
- 「とても不安である」の割合は、平成16年度から18年度まで35%前後であったが、19年度から21年度は25%前後、22年度から前回調査までは10%前後にまで低下した。また、今回調査では4.7%とこれまでで最も低い値となった。

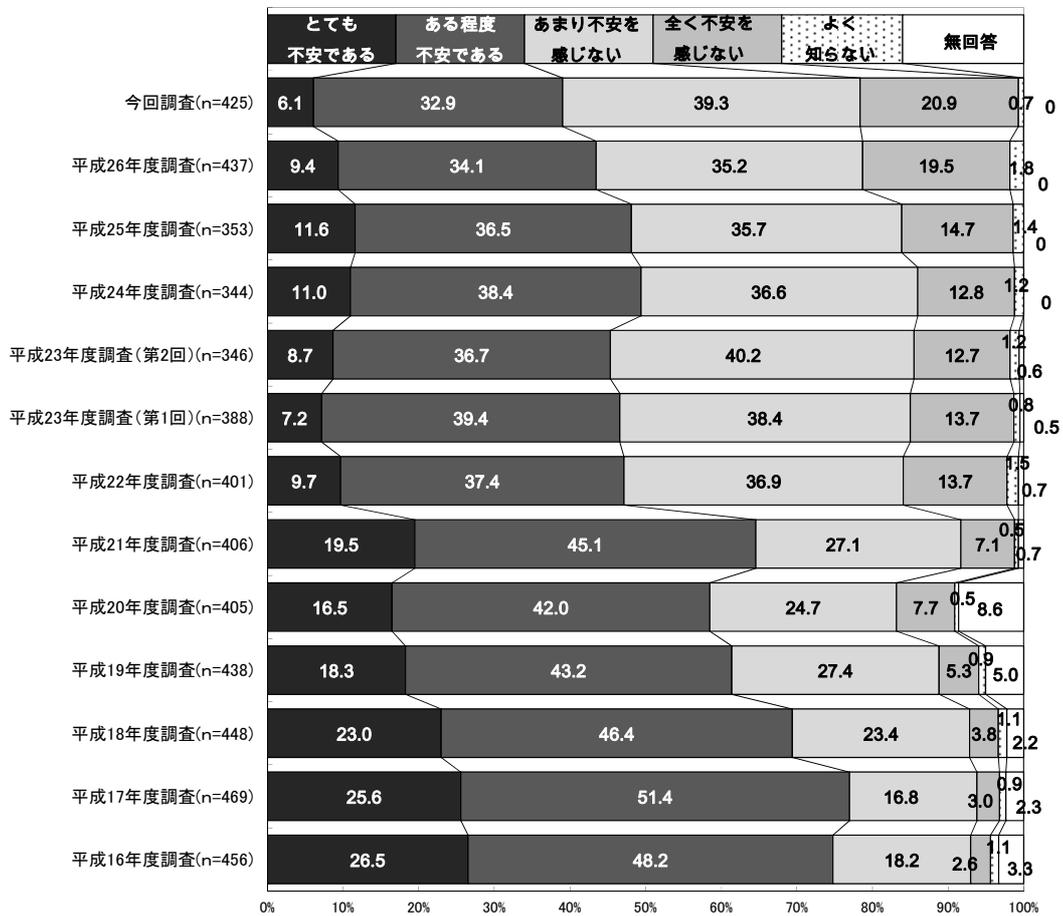
図表 2-22 食品の安全性の観点から感じる不安の程度
 <BSE（伝達性牛海綿状脳症）・年度別>



H. 遺伝子組換え

- 遺伝子組換えについての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、平成16年度の74.7%から今回調査の39.0%と、経年的には低下傾向が見られる。16年度、17年度には「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は70%を超えていたが、22年度以降は50%を下回り、今回調査では39.0%にまで低下している。
- 「とても不安である」の割合は、16年度から22年度にかけて26.5%から9.7%へ低下し、その後は10%前後で横ばい傾向である。また、今回調査では6.1%と最も低い値となった。

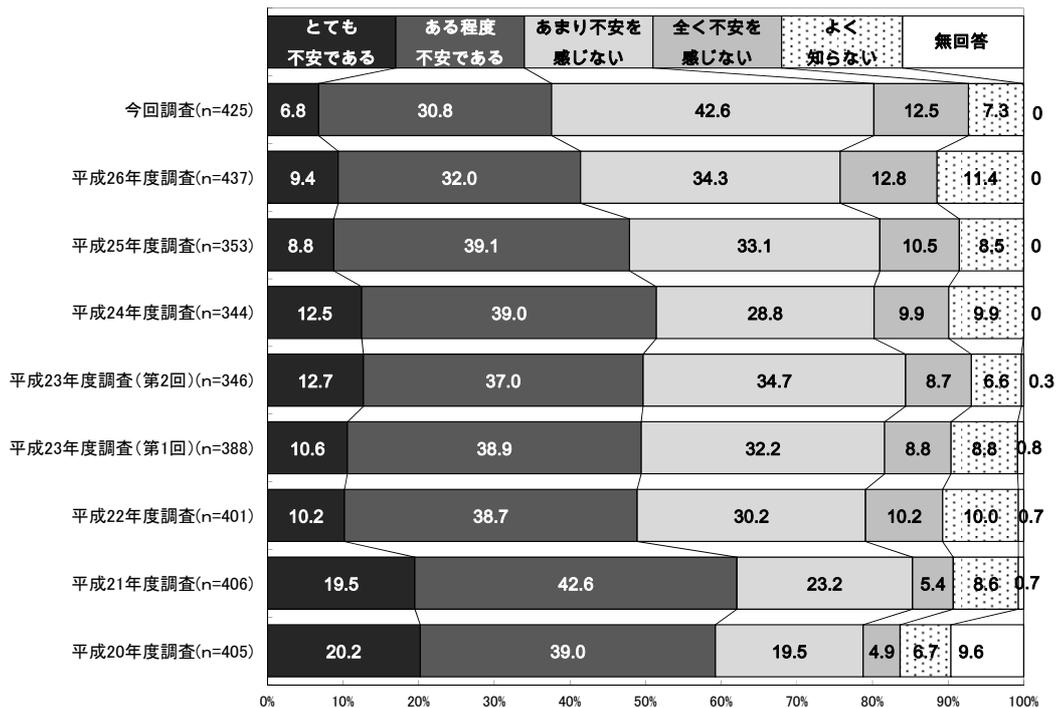
図表 2-23 食品の安全性の観点から感じる不安の程度
 <遺伝子組換え・年度別>



I. 体細胞クローン

- 体細胞クローンについての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、平成20年度、21年度は60%前後であったが、22年度は48.9%に低下し、その後50%前後で横ばい、25年度以降は低下傾向が見られる。また、今回調査では37.6%とこれまでで最も低い値となった。

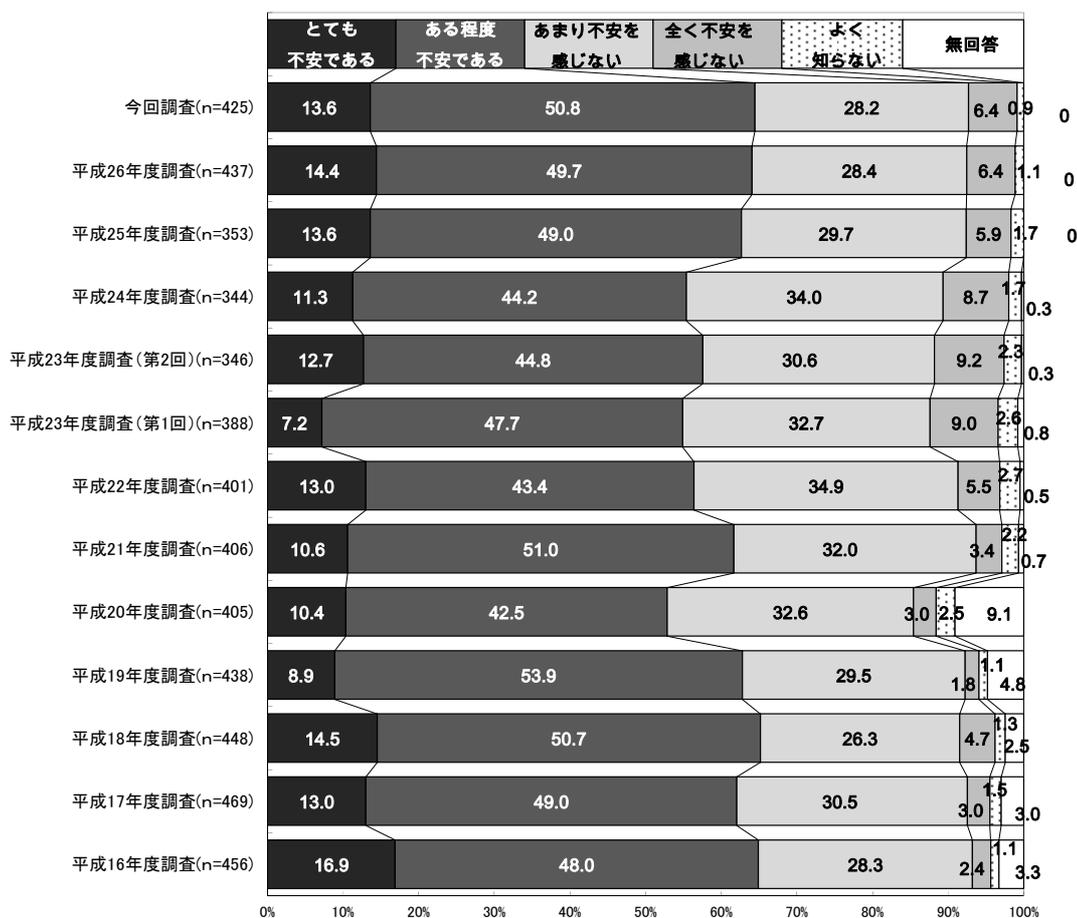
図表 2-24 食品の安全性の観点から感じる不安の程度
 <体細胞クローン・年度別>



J. いわゆる健康食品

- いわゆる健康食品についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、長期的には50%~60%台でほぼ横ばい傾向である。

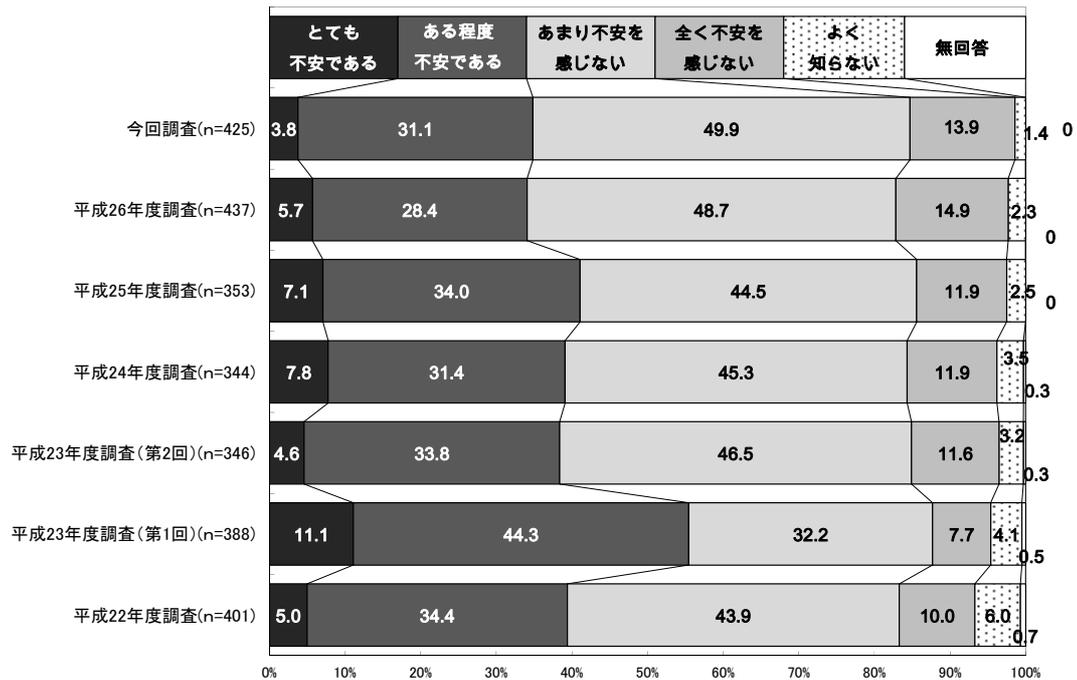
図表 2-25 食品の安全性の観点から感じる不安の程度
 <いわゆる健康食品・年度別>



K. 肥料・飼料等

- 肥料・飼料等についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故直後の平成23年度第1回調査で55.4%と高くなったが、同年の第2回調査以降では前年並みの40%前後に低下し、横ばい傾向である。

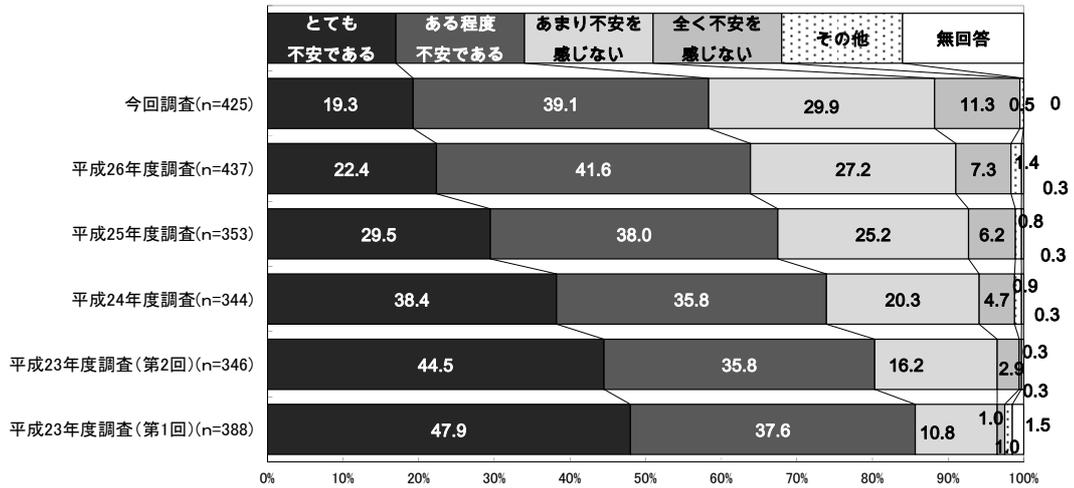
図表 2-26 食品の安全性の観点から感じる不安の程度
 <肥料・飼料等・年度別>



L. 放射性物質

- 東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故以来調査している放射性物質についての不安の程度は、年々低下し、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、事故直後は85.5%であったが、今回調査では58.4%にまで低下している。

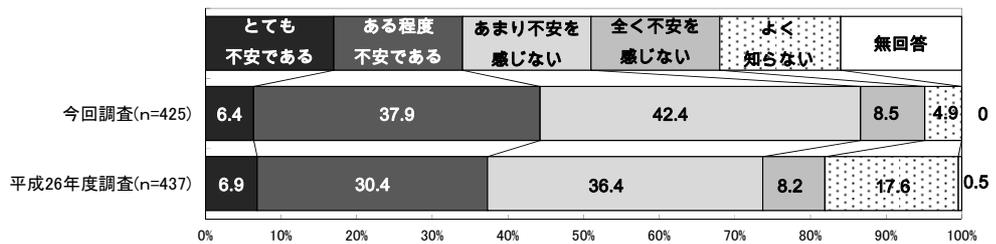
図表 2-27 食品の安全性の観点から感じる不安の程度
 <放射性物質・年度別>



M. アクリルアミド

- 前回調査より対象としているアクリルアミドについての不安の程度は、昨年度に比べて増加している。(37.3%→44.3%)

図表 2-28 食品の安全性の観点から感じる不安の程度
 <アクリルアミド・年度別>



3. 食品の安全性の観点から不安を感じる理由（放射性物質以外）（問3）

問3 問2のA～K及びM、Nに掲げるハザード等において、「1 とても不安である」又は「2 ある程度不安である」を選んだ方にお聞きします。それぞれのハザード等について、不安を感じる理由を選択肢1～8の中から1つずつ選んでください。

- 食品の安全性の観点から放射性物質以外のハザードについて「とても不安である」、「ある程度不安である」と回答した者に対し、不安を感じている理由を尋ねたところ、「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため」「安全性についての科学的な根拠に疑問があるため」の2つが上位に挙がっているハザードが多い。

図表 3-1 食品の安全性の観点から不安を感じる理由

ハザード	1位	2位	3位
食品添加物	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (28.9%) [13.9%]	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (26.5%) [12.7%]	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため (15.2%) [7.3%]
残留農薬	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (34.9%) [17.9%]	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (16.1%) [8.2%]	過去に問題になった事例があるため (14.2%) [7.3%]
家畜用抗生物質	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (31.8%) [16.5%]	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (16.4%) [8.5%]	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため (15.0%) [7.8%]
器具・容器包装からの溶出化学物質	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (20.4%) [9.4%]	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (17.3%) [8.0%]	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため (15.3%) [7.1%]
汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)	過去に問題になった事例があるため (36.3%) [19.3%]	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (17.3%) [9.2%]	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (11.9%) [6.4%]
有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (39.4%) [29.9%]	過去に問題になった事例があるため (26.4%) [20.0%]	漠然と不安 (8.1%) [6.1%]
			安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (8.1%) [6.1%]
BSE(伝達性牛海綿状脳症)	過去に問題になった事例があるため (38.3%) [11.5%]	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (17.2%) [5.2%]	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (15.6%) [4.7%]
遺伝子組換え	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (44.6%) [17.4%]	漠然と不安 (15.1%) [5.9%]	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (9.6%) [3.8%]
			行政による規制が不十分なため (9.6%) [3.8%]
体細胞クローン	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (38.1%) [14.4%]	漠然と不安 (28.1%) [10.6%]	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため (10.0%) [3.8%]
いわゆる健康食品	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (33.9%) [21.9%]	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (19.7%) [12.7%]	行政による規制が不十分なため (15.7%) [10.1%]
肥料・飼料等	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (27.7%) [9.6%]	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (18.2%) [6.4%]	漠然と不安 (16.2%) [5.6%]
アクリルアミド	漠然と不安 (23.9%) [10.6%]	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (19.7%) [8.7%]	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため (13.3%) [5.9%]

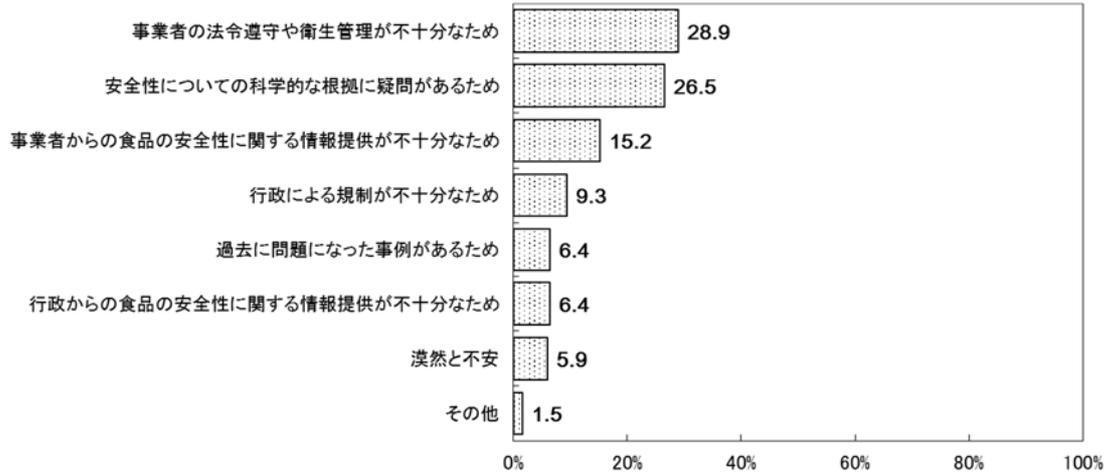
※()内は「不安である」と回答した人数に占める割合、[]内は回答者全体(425名)に占める割合である。

A. 食品添加物

- 食品添加物について不安を感じる理由は、「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」と「安全性についての科学的な根拠に疑問」が上位2位。
- 年度別では、5年連続で「安全性についての科学的な根拠に疑問」が第1位だったが、今年度は、「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が第1位となった。

図表 3-2 食品の安全性の観点から不安を感じる理由

＜食品添加物＞（n=204）



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-3 食品の安全性の観点から不安を感じる理由

＜食品添加物・年度別＞

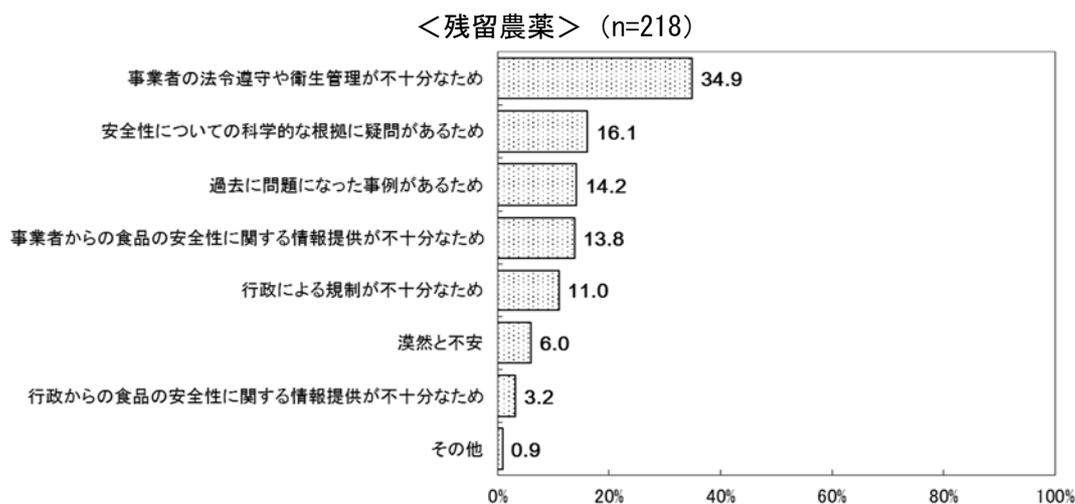
	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=204)	26.5	9.3	28.9	6.4	15.2	6.4	5.9	1.5	0.0
平成26年度調査(n=220)	30.0	9.5	26.4	4.1	10.9	6.4	6.4	5.0	1.4
平成25年度調査(n=177)	36.7	9.0	22.6	4.0	6.2	7.9	7.9	2.3	3.4
平成24年度調査(n=185)	37.8	7.6	24.9	6.5	9.7	4.3	4.3	3.8	1.1
平成23年度調査(第1回)(n=193)	39.9	6.7	15.5	7.3	12.4	7.3	6.7	3.1	1.0
平成22年度調査(n=240)	33.3	7.5	20.4	6.3	9.6	7.9	4.2	10.4	0.4
平成21年度調査(n=254)	10.6	25.6	28.0	16.1	-	11.0	4.7	3.9	0.0
平成20年度調査(n=233)	11.6	26.2	27.0	18.9	-	8.2	4.7	0.9	2.6
平成19年度調査(n=295)	17.3	25.8	25.1	13.9	-	10.8	2.7	3.1	1.4
平成18年度調査(n=335)	11.0	31.3	22.7	14.6	-	10.1	3.9	2.7	3.6
平成17年度調査(n=340)	12.1	32.4	29.7	12.9	-	7.9	2.9	1.8	0.3
平成16年度調査(n=348)	15.5	33.3	23.0	13.8	-	7.2	2.9	3.2	1.1

※網掛け：各年度の第1位

B. 残留農薬

- 残留農薬について不安を感じる理由は、「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が 34.9%で最も多く、次いで「安全性についての科学的な根拠に疑問」が 16.1%、「過去に問題になった事例があるために不安」が 14.2%となっている。
- 年度別では、「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が平成 16 年度以降毎年第 1 位となっている。

図表 3-4 食品の安全性の観点から不安を感じる理由



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-5 食品の安全性の観点から不安を感じる理由

＜残留農薬・年度別＞

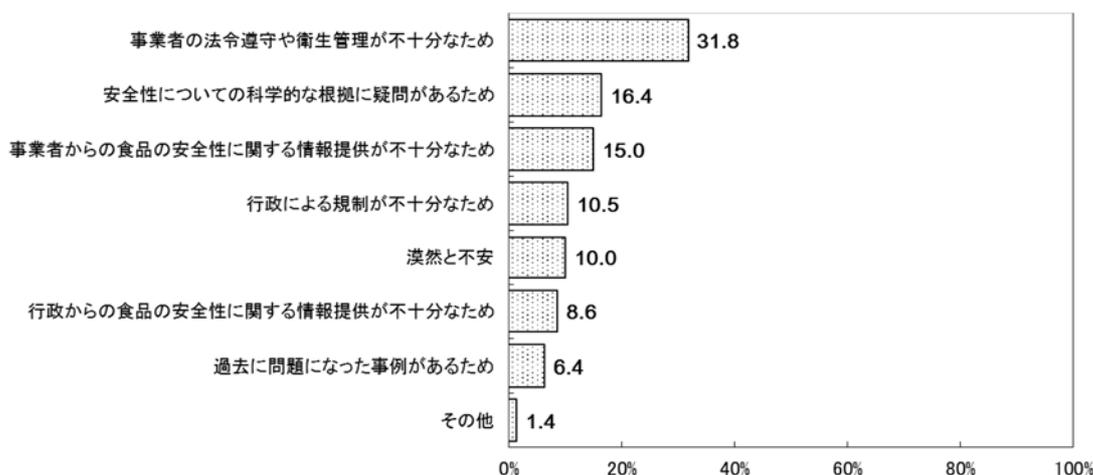
	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=218)	16.1	11.0	34.9	3.2	13.8	14.2	6.0	0.9	0.0
平成26年度調査(n=257)	17.5	9.3	32.7	5.4	11.3	13.2	5.4	4.3	0.8
平成25年度調査(n=217)	19.4	12.4	29.5	4.1	7.8	11.5	7.4	4.6	3.2
平成24年度調査(n=218)	23.4	6.4	30.7	5.0	9.6	10.6	8.7	3.2	2.3
平成23年度調査(第1回)(n=234)	20.1	13.7	34.6	5.1	4.3	9.8	7.3	4.3	0.9
平成22年度調査(n=273)	19.0	10.6	30.4	3.3	8.4	13.2	4.8	8.4	1.8
平成21年度調査(n=297)	8.8	18.2	34.7	10.8	-	16.5	5.7	5.1	0.3
平成20年度調査(n=286)	6.3	16.4	43.7	6.6	-	17.5	4.5	2.1	2.8
平成19年度調査(n=351)	8.0	20.5	40.2	9.7	-	14.0	3.4	2.3	2.0
平成18年度調査(n=379)	5.3	21.4	39.8	9.5	-	11.3	4.7	5.0	2.9
平成17年度調査(n=405)	7.7	25.4	36.8	8.4	-	13.3	5.2	2.0	1.2
平成16年度調査(n=409)	8.6	23.7	31.8	13.0	-	14.4	4.9	2.7	1.0

※網掛け：各年度の第 1 位

C. 家畜用抗生物質

- 家畜用抗生物質について不安を感じる理由は「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が31.8%で最も多く、次いで「安全性についての科学的な根拠に疑問」が16.4%、「事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分のため」が15.0%となっている。
- 年度別では、「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が平成16年度以降毎年第1位となっている。

図表 3-6 食品の安全性の観点から不安を感じる理由
 <家畜用抗生物質> (n=220)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-7 食品の安全性の観点から不安を感じる理由
 <家畜用抗生物質・年度別>

	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=220)	16.4	10.5	31.8	8.6	15.0	6.4	10.0	1.4	0.0
平成26年度調査(n=242)	19.4	9.1	28.1	9.5	11.2	5.0	11.6	5.0	1.2
平成25年度調査(n=210)	18.1	11.4	32.4	8.1	10.0	3.3	8.1	4.8	3.8
平成24年度調査(n=197)	21.3	6.1	35.0	7.6	12.7	5.1	8.1	3.6	0.5
平成23年度調査(第1回)(n=219)	22.8	11.4	29.7	9.6	9.1	4.1	9.6	2.7	0.9
平成22年度調査(n=252)	21.0	7.5	27.4	10.7	11.5	4.4	10.3	5.2	2.0
平成21年度調査(n=277)	14.4	12.6	35.4	19.5	-	5.4	9.0	3.2	0.4
平成20年度調査(n=261)	10.0	11.5	39.8	13.8	-	6.5	12.6	4.2	1.5
平成19年度調査(n=325)	13.2	16.3	39.7	13.5	-	6.8	7.1	1.8	1.5
平成18年度調査(n=356)	8.1	14.6	40.4	15.7	-	4.5	8.4	4.2	3.9
平成17年度調査(n=377)	10.6	14.3	44.3	18.0	-	3.4	6.6	2.4	0.3
平成16年度調査(n=381)	9.7	14.4	41.5	19.7	-	3.1	7.9	3.7	0.0

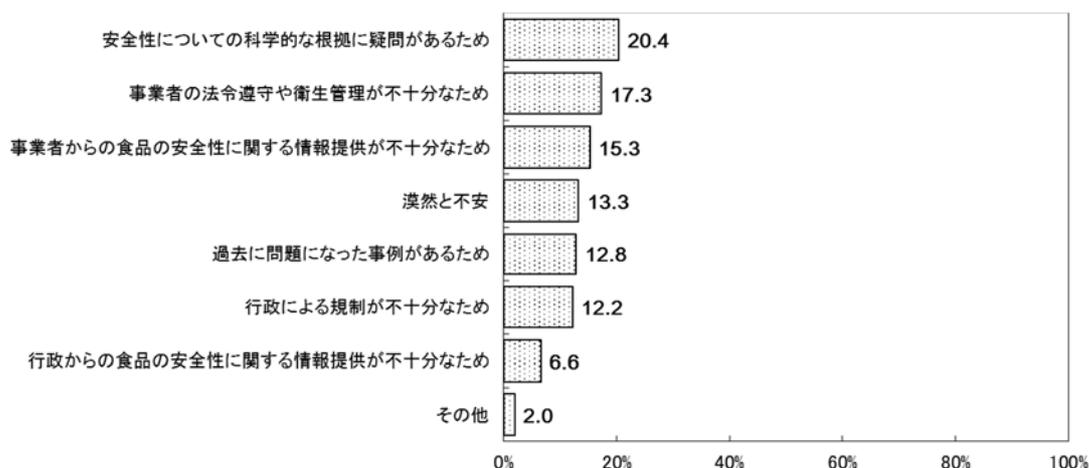
※網掛け：各年度の第1位

D. 器具・容器包装からの溶出化学物質

- 器具・容器包装からの溶出化学物質について不安を感じる理由は「安全性についての科学的な根拠に疑問」が20.4%で最も多く、次いで「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため」が17.3%、「事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため」が15.3%となっている。
- 年度別では、「安全性についての科学的な根拠に疑問」が平成22年度以降毎年第1位となっている。

図表 3-8 食品の安全性の観点から不安を感じる理由

＜器具・容器包装からの溶出化学物質＞ (n=196)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-9 食品の安全性の観点から不安を感じる理由

＜器具・容器包装からの溶出化学物質・年度別＞

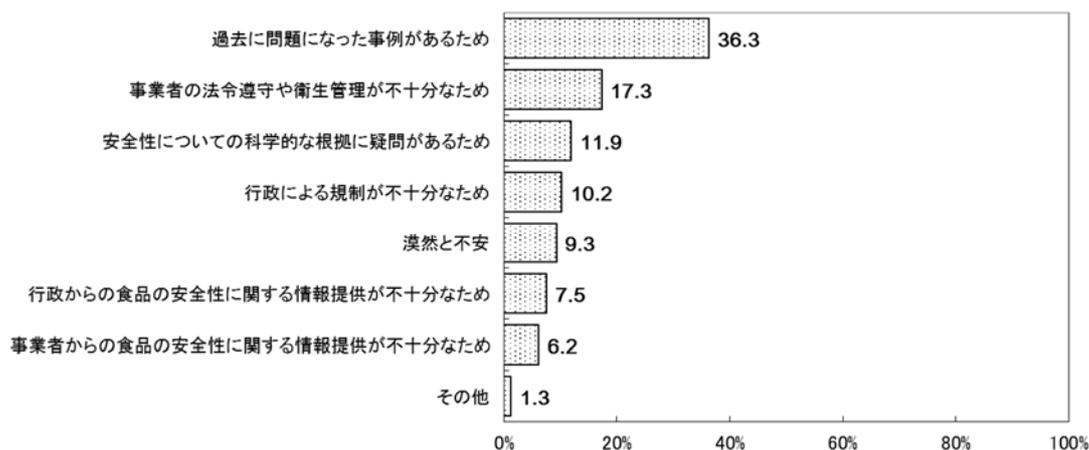
	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるため不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=196)	20.4	12.2	17.3	6.6	15.3	12.8	13.3	2.0	0.0
平成26年度調査(n=217)	30.0	9.7	15.2	6.9	12.0	10.1	9.7	3.2	3.2
平成25年度調査(n=179)	27.4	11.2	16.2	6.1	8.4	14.0	10.1	3.4	3.4
平成24年度調査(n=191)	23.0	11.5	18.3	6.3	14.7	9.4	12.0	4.2	0.5
平成23年度調査(第1回)(n=192)	30.2	9.4	12.0	9.9	11.5	13.0	11.5	2.1	0.5
平成22年度調査(n=240)	21.7	7.5	12.9	12.1	12.1	16.3	10.4	4.2	2.9
平成21年度調査(n=274)	10.9	27.0	18.2	10.6	-	16.1	13.1	4.0	0.0
平成20年度調査(n=256)	14.1	24.2	12.9	16.4	-	12.5	16.0	2.7	1.2

※網掛け：各年度の第1位

E. 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）

- 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）について不安を感じる理由は「過去に問題になった事例があるために不安」が36.3%と最も多く突出している。
- 年度別では、「過去に問題になった事例があるために不安」が平成20年度以降毎年第1位となっている。

図表 3-10 食品の安全性の観点から不安を感じる理由
 <汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）> (n=226)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-11 食品の安全性の観点から不安を感じる理由
 <汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）・年度別>

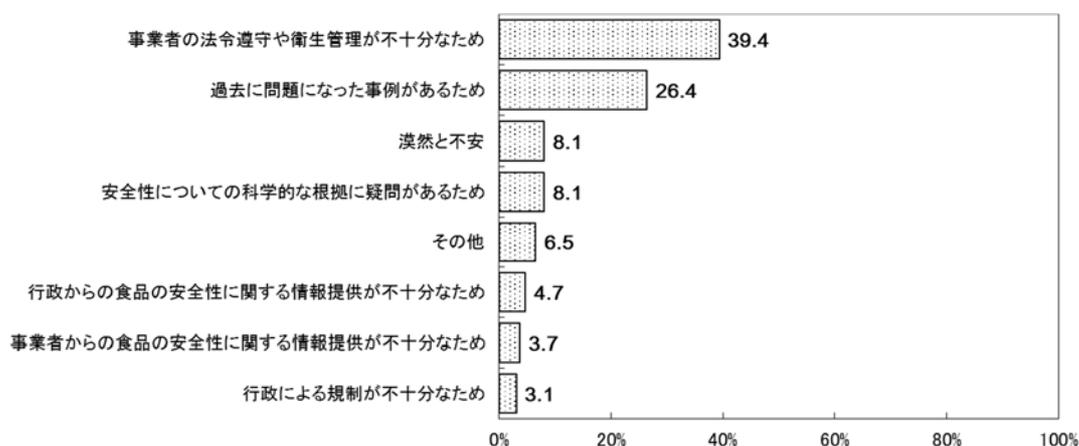
	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=226)	11.9	10.2	17.3	7.5	6.2	36.3	9.3	1.3	0.0
平成26年度調査(n=234)	12.0	7.3	14.5	8.1	8.1	37.6	6.8	4.7	0.9
平成25年度調査(n=221)	14.9	11.8	12.2	5.9	4.5	33.9	7.7	4.1	5.0
平成24年度調査(n=222)	14.4	10.8	18.5	5.9	5.0	36.5	5.0	3.2	0.9
平成23年度調査(第1回)(n=227)	10.6	9.7	9.7	8.8	3.5	42.7	9.7	4.0	1.3
平成22年度調査(n=247)	10.5	9.3	10.9	9.3	4.5	38.1	6.9	7.3	3.2
平成21年度調査(n=317)	7.3	6.9	18.0	8.8	-	49.5	6.3	2.8	0.3
平成20年度調査(n=303)	4.0	9.9	16.5	7.3	-	51.2	6.6	3.3	1.3
平成19年度調査(n=387)	8.5	11.1	30.7	8.8	-	28.2	7.0	3.9	1.8
平成18年度調査(n=404)	7.2	10.1	20.3	15.1	-	29.5	9.7	4.7	3.5
平成17年度調査(n=423)	6.4	10.6	27.2	10.6	-	32.4	7.1	4.3	1.4
平成16年度調査(n=418)	6.2	10.0	23.4	10.3	-	35.4	10.0	3.6	1.0

※網掛け：各年度の第1位

F. 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等

- 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等について不安を感じる理由は「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が39.4%で最も多く、次いで「過去に問題になった事例があるため」が26.4%となっている。
- 年度別に比較したところ、「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が平成16年度以降毎年、30～40%程度で第1位となっている。また、「過去に問題になった事例があるため」が20%前後で、ほとんどの年度で第2位となっている。「漠然と不安」は、平成16年度から20年度までは、20%前後だったが、21年度以降は10%以下となっている。

図表 3-12 食品の安全性の観点から不安を感じる理由
 <有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等> (n=322)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-13 食品の安全性の観点から不安を感じる理由
 <有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等・年度別>

	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるため不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=322)	8.1	3.1	39.4	4.7	3.7	26.4	8.1	6.5	0.0
平成26年度調査(n=343)	8.2	7.0	37.0	5.2	2.9	25.1	4.4	8.2	2.0
平成25年度調査(n=285)	10.5	9.8	33.7	3.5	3.9	20.7	5.6	9.1	3.2
平成24年度調査(n=272)	8.1	5.9	40.4	5.5	2.9	21.7	9.6	4.4	1.5
平成23年度調査(第1回)(n=295)	5.8	8.5	35.3	6.4	2.7	20.7	9.2	8.5	3.1
平成22年度調査(n=306)	6.5	5.6	32.7	6.2	4.6	21.2	9.2	11.1	2.9
平成21年度調査(n=323)	5.3	5.0	40.9	6.8	-	27.9	9.6	3.7	0.9
平成20年度調査(n=305)	4.9	3.0	30.5	12.5	-	18.4	21.0	6.9	3.0
平成19年度調査(n=343)	5.2	6.7	31.2	11.1	-	17.8	16.3	5.8	5.8
平成18年度調査(n=373)	5.4	3.8	28.4	10.2	-	20.9	19.0	7.0	5.4
平成17年度調査(n=372)	3.2	3.2	34.4	11.8	-	21.0	19.9	5.1	1.3
平成16年度調査(n=369)	4.6	3.3	35.2	13.6	-	18.7	17.9	5.4	1.4

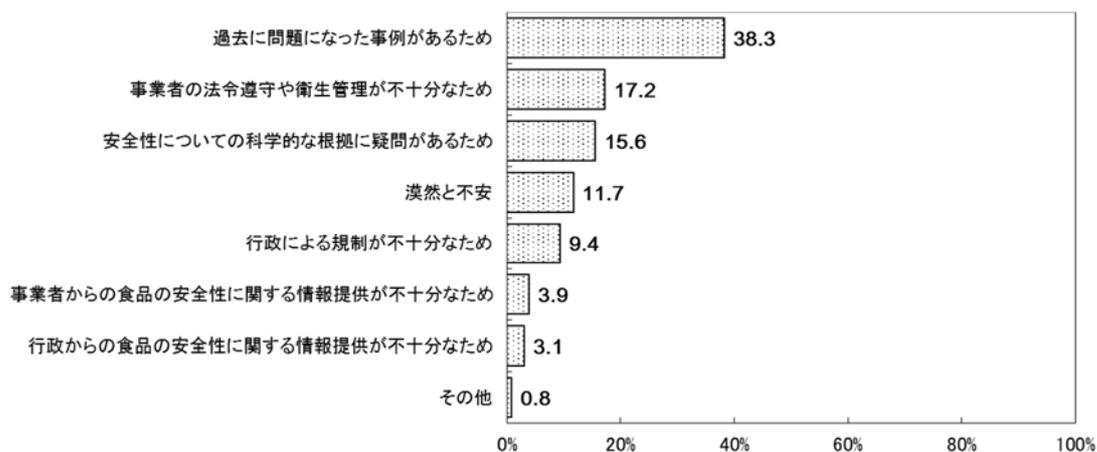
※網掛け：各年度の第1位

G. BSE（伝達性牛海綿状脳症）

- BSE（伝達性牛海綿状脳症）について不安を感じる理由は「過去に問題になった事例があるために不安」が38.3%で最も多く、2位以下を大きく離している。
- 年度別では、「過去に問題になった事例があるために不安」が平成16年度以降毎年第1位となっている。

図表 3-14 食品の安全性の観点から不安を感じる理由

<BSE（伝達性牛海綿状脳症）> (n=128)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-15 食品の安全性の観点から不安を感じる理由

<BSE（伝達性牛海綿状脳症）・年度別>

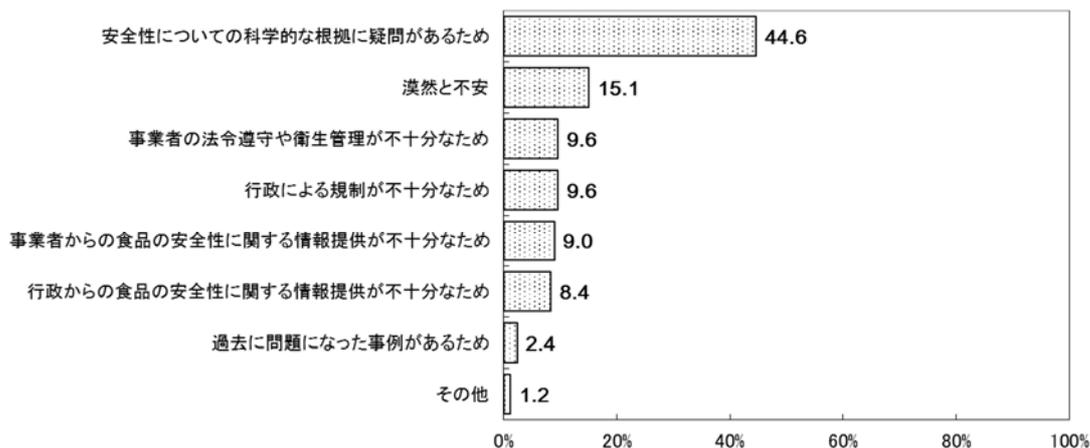
	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=128)	15.6	9.4	17.2	3.1	3.9	38.3	11.7	0.8	0.0
平成26年度調査(n=163)	16.0	12.3	12.3	9.2	6.7	32.5	7.4	2.5	1.2
平成25年度調査(n=140)	17.9	17.1	11.4	9.3	2.1	28.6	5.7	2.1	5.7
平成24年度調査(n=272)	15.1	13.9	11.4	6.6	3.6	39.8	5.4	3.0	1.2
平成23年度調査(第1回)(n=169)	10.7	8.3	11.8	9.5	4.7	45.0	6.5	1.8	1.8
平成22年度調査(n=178)	11.2	11.8	12.4	11.8	3.4	38.2	7.3	2.2	1.7
平成21年度調査(n=251)	20.3	4.8	18.7	5.2	-	39.0	8.0	3.6	0.4
平成20年度調査(n=253)	13.4	7.5	17.4	7.1	-	43.5	5.9	3.6	1.6
平成19年度調査(n=282)	15.6	5.0	22.3	6.0	-	40.4	5.7	2.1	2.8
平成18年度調査(n=346)	11.8	8.1	26.9	8.7	-	31.8	5.2	4.3	3.2
平成17年度調査(n=353)	18.1	7.9	17.0	11.3	-	32.0	6.5	5.7	1.4
平成16年度調査(n=340)	11.8	5.3	21.8	14.7	-	31.2	10.3	3.8	1.2

※網掛け：各年度の第1位

H. 遺伝子組換え

- 遺伝子組換えについて不安を感じる理由は「安全性についての科学的な根拠に疑問」が44.6%で最も多く、2位以下を大きく離している。
- 年度別では、「安全性についての科学的な根拠に疑問」が平成16年度以降毎年第1位となっている。

図表 3-16 食品の安全性の観点から不安を感じる理由
 <遺伝子組換え> (n=166)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-17 食品の安全性の観点から不安を感じる理由
 <遺伝子組換え・年度別>

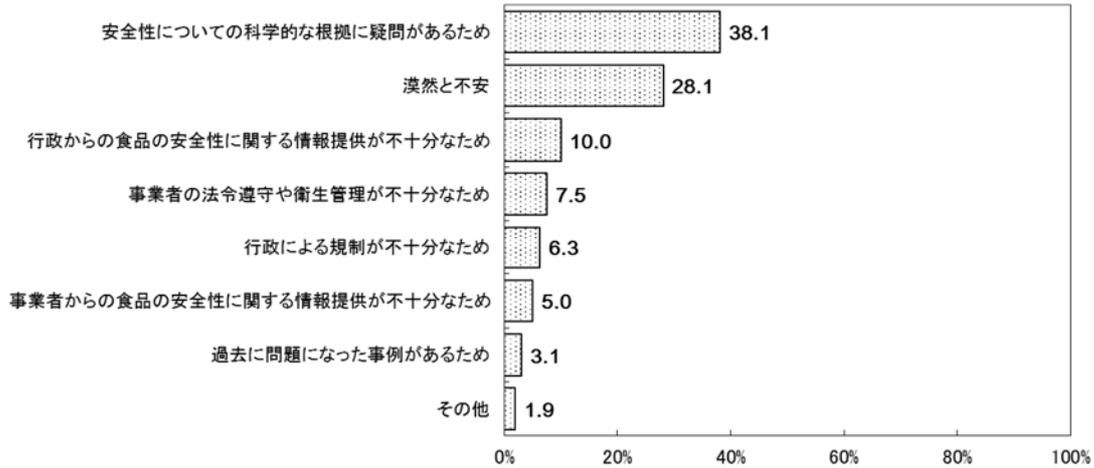
	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるため不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=166)	44.6	9.6	9.6	8.4	9.0	2.4	15.1	1.2	0.0
平成26年度調査(n=190)	45.3	13.2	7.9	7.9	5.8	3.7	11.1	3.2	2.1
平成25年度調査(n=170)	51.2	8.2	10.6	7.1	2.4	4.1	7.6	4.1	4.7
平成24年度調査(n=170)	49.4	12.4	8.2	8.8	2.4	2.4	11.8	2.4	2.4
平成23年度調査(第1回)(n=181)	55.2	3.9	3.3	8.3	6.6	3.3	13.3	5.0	1.1
平成22年度調査(n=189)	48.7	5.3	4.2	12.7	5.3	2.1	13.8	5.3	2.6
平成21年度調査(n=262)	49.2	12.2	4.2	19.1	-	1.1	9.2	5.0	0.0
平成20年度調査(n=237)	45.6	12.2	3.4	23.2	-	1.3	6.3	6.3	1.7
平成19年度調査(n=269)	46.5	10.8	3.7	17.1	-	1.9	8.9	8.9	2.2
平成18年度調査(n=321)	40.5	14.0	5.3	18.1	-	2.2	8.1	8.1	3.7
平成17年度調査(n=361)	44.0	11.6	8.9	17.5	-	1.4	8.0	7.5	1.1
平成16年度調査(n=341)	47.2	12.3	4.1	14.4	-	2.3	10.9	7.9	0.9

※網掛け：各年度の第1位

1. 体細胞クローン

- 体細胞クローンについて不安を感じる理由を尋ねると、「安全性についての科学的な根拠に疑問」が38.1%で最も多く、2位以下を大きく離している。
- 年度別では、「安全性についての科学的な根拠に疑問」が平成20年度以降毎年第1位となっている。

図表 3-18 食品の安全性の観点から不安を感じる理由
 <体細胞クローン> (n=160)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-19 食品の安全性の観点から不安を感じる理由
 <体細胞クローン・年度別>

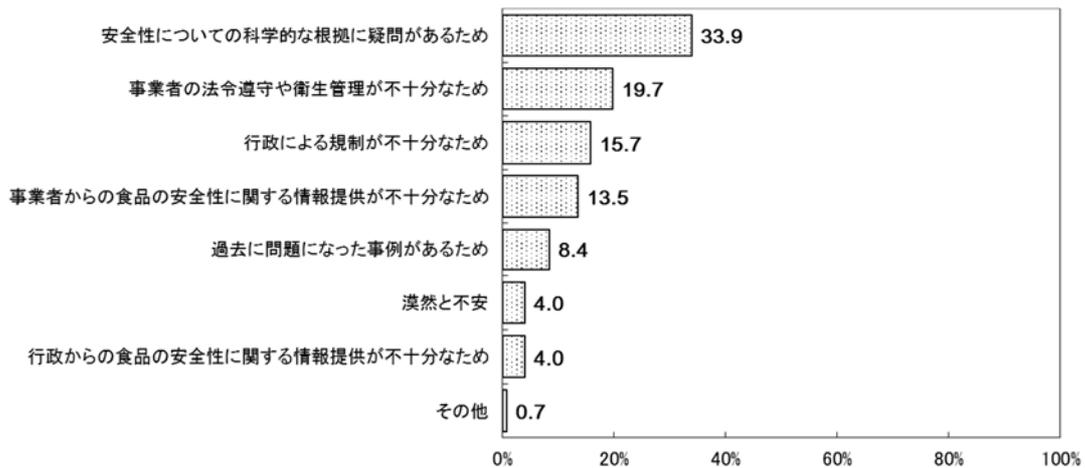
	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるため不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=160)	38.1	6.3	7.5	10.0	5.0	3.1	28.1	1.9	0.0
平成26年度調査(n=181)	47.0	9.4	7.2	8.3	2.8	1.7	18.8	1.7	3.3
平成25年度調査(n=169)	52.7	7.7	5.3	5.3	0.6	3.0	17.2	4.7	3.6
平成24年度調査(n=177)	49.7	8.5	3.4	12.4	4.5	2.8	15.3	1.7	1.7
平成23年度調査(第1回)(n=192)	51.6	3.1	2.1	10.9	3.1	2.1	21.4	3.6	2.1
平成22年度調査(n=196)	52.0	4.1	3.1	10.2	2.6	1.5	19.4	5.1	2.0
平成21年度調査(n=252)	52.4	6.3	3.2	14.3	-	2.4	15.1	4.4	2.0
平成20年度調査(n=240)	40.0	5.8	2.1	22.1	-	2.1	23.8	2.9	1.3

※網掛け：各年度の第1位

J. いわゆる健康食品

- いわゆる健康食品について不安を感じる理由は「安全性についての科学的な根拠に疑問」が 33.9%で最も多く、次いで、「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が 19.7%、「行政による規制が不十分」が 15.7%となっている。
- 年度別では、長期的には「安全性についての科学的な根拠に疑問」又は「行政による規制が不十分」が1位となっている。

図表 3-20 食品の安全性の観点から不安を感じる理由
 <いわゆる健康食品> (n=274)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-21 食品の安全性の観点から不安を感じる理由
 <いわゆる健康食品・年度別>

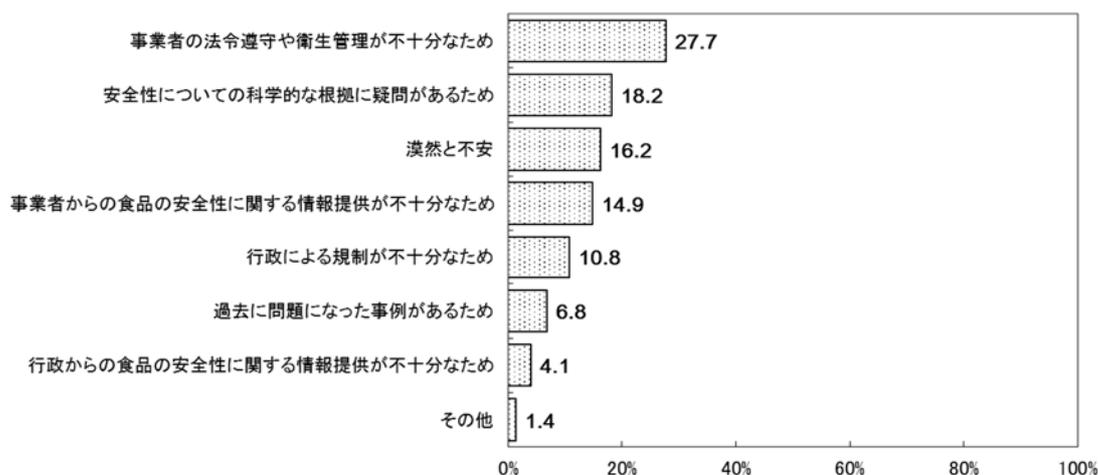
	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるため不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=274)	33.9	15.7	19.7	4.0	13.5	8.4	4.0	0.7	0.0
平成26年度調査(n=280)	28.6	16.1	21.4	1.4	13.2	9.6	4.3	3.9	1.4
平成25年度調査(n=221)	19.5	21.3	18.6	3.6	16.3	7.2	4.5	5.4	3.6
平成24年度調査(n=191)	22.5	20.9	17.8	4.2	13.1	10.5	2.1	6.8	2.1
平成23年度調査(第1回)(n=213)	27.2	16.0	14.6	1.4	15.5	10.8	5.6	4.2	4.7
平成22年度調査(第2回)(n=226)	30.1	14.2	13.7	5.3	16.4	6.2	6.6	3.1	4.4
平成21年度調査(n=251)	25.6	28.4	18.0	10.4	-	10.8	2.8	3.2	0.8
平成20年度調査(n=214)	28.5	28.0	18.7	7.9	-	9.8	1.4	4.2	1.4
平成19年度調査(n=275)	29.5	30.2	14.2	9.5	-	10.5	1.5	2.2	2.5
平成18年度調査(n=303)	27.7	27.1	17.2	7.3	-	9.2	2.0	5.6	4.0
平成17年度調査(n=291)	29.2	28.2	18.9	7.2	-	8.9	3.1	4.5	0.0
平成16年度調査(n=296)	19.3	38.5	14.2	7.1	-	12.5	4.4	3.4	0.7

※網掛け：各年度の第1位

K. 肥料・飼料等

- 肥料・飼料等について不安を感じる理由は「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が27.7%で最も多く、次いで、「安全性についての科学的な根拠に疑問」が18.2%、「漠然と不安」が16.2%となっている。
- 年度別では、「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が最も多く、「安全性についての科学的な根拠に疑問」が続いているという傾向は、平成22年度以降変動していない。

図表 3-22 食品の安全性の観点から不安を感じる理由
 <肥料・飼料等> (n=148)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-23 食品の安全性の観点から不安を感じる理由
 <肥料・飼料等・年度別>

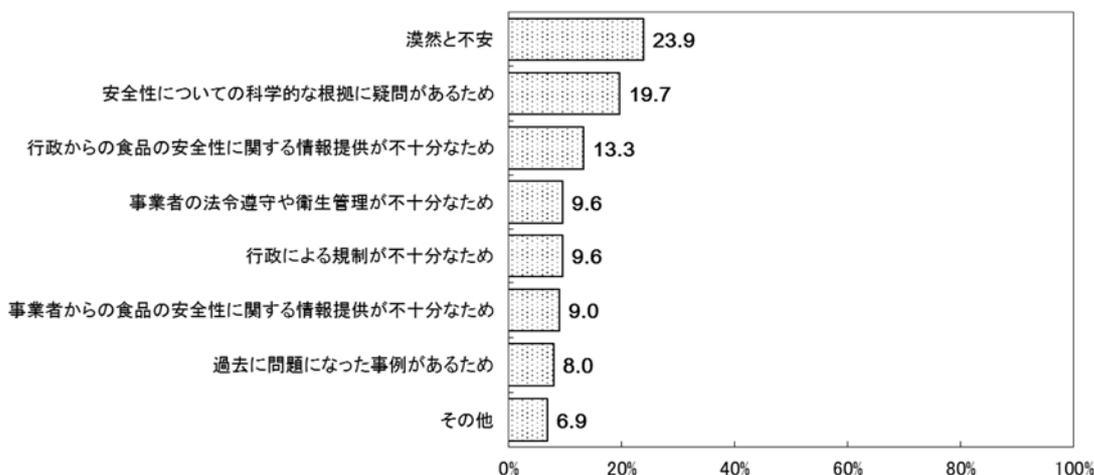
	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=148)	18.2	10.8	27.7	4.1	14.9	6.8	16.2	1.4	0.0
平成26年度調査(n=149)	19.5	8.7	30.9	7.4	14.1	4.0	10.7	2.0	2.7
平成25年度調査(n=145)	20.7	13.1	30.3	4.8	8.3	6.9	7.6	1.4	6.9
平成24年度調査(n=135)	16.3	11.1	34.8	5.9	13.3	7.4	7.4	3.0	0.7
平成23年度調査(第1回)(n=215)	14.9	14.4	21.4	5.1	7.0	9.3	14.9	5.1	7.9
平成22年度調査(n=158)	18.4	13.3	26.6	6.3	15.8	5.7	8.9	1.9	3.2

※網掛け：各年度の第1位

M.アクリルアミド

- アクリルアミドについて不安を感じる理由を尋ねると、「漠然と不安」が23.9%で最も多く、次いで、「安全性についての科学的な根拠に疑問」が19.7%となっている。

図表 3-24 食品の安全性の観点から不安を感じる理由
 <アクリルアミド> (n=188)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-25 食品の安全性の観点から不安を感じる理由
 <アクリルアミド・年度別>

	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=188)	19.7	9.6	9.6	13.3	9.0	8.0	23.9	6.9	0.0
平成26年度調査(n=163)	22.7	9.8	6.7	13.5	9.8	8.6	21.5	5.5	1.8

※網掛け：各年度の第1位

※本項目は平成26年度調査から追加

不安を感じる理由として、「その他」に記入された回答

A. 食品添加物（回答者数3人）

「食品添加物に関する本はいろいろあるが、正しい情報が何かわからない」、「海外（中国など）のものに不安を感じる」などの回答があった。

B. 残留農薬（回答者数2人）

「海外（中国など）のものに不安を感じる」などの回答があった。

C. 家畜用抗生物質（回答者数3人 うち「とても不安である」が1人）

「耐性菌の懸念がある」、「身近に情報が入ってこない」などの回答があった。

D. 器具・容器包装からの溶出化学物質（回答者数4人）

「家庭での間違った使用方法（耐熱、耐酸など）に不安を感じる」、「海外（中国など）のものに不安を感じる」などの回答があった。

E. 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（回答者数1人）

「信頼できるデータがどれかわからない」との回答があった。

F. 有害微生物（細菌）、ウイルス等による食中毒等（回答者数19人 うち「とても不安である」が1人）

「知識不足による取扱いの不備」、「いくら気をつけても食中毒が発生しているため」、「微生物汚染が目に見えないため」、「ウイルスの変異に対策が追いつけていけるかが不安」などの回答があった。

G. BSE（伝達性牛海綿状脳症）（回答者数1人）

「発生の防止策が未完成」との回答があった。

H. 遺伝子組換え（回答者数2人）

「食用油や醤油など、遺伝子組換え表示義務がない食品があること」、「安全性が検証されていない」との回答があった。

I. 体細胞クローン（回答者数3人）

「よくわからないから不安」、「安全性が検証されていない」との回答があった。

J. いわゆる健康食品 (回答者数2人 うち「とても不安である」が2人)

「健康への効果があるようなイメージを持たせてしまうため、本来の成分を理解しないまま購入してしまう」などの回答があった。

K. 肥料・飼料等 (回答者数2人)

「身近に情報が入ってくるものではないため」などの回答があった。

M. アクリルアミド (回答者数12人 うち「とても不安である」が1人)

「食生活の変化などにより摂取する機会が増えているため」、「十分な検証がされていない」、「知識不足」などの回答があった。

4. 食品の安全性の観点から不安を感じない理由（放射性物質以外）（問4）

問4 問2のA～K及びM、Nに掲げるハザード等において、「3 あまり不安を感じない」又は「4 全く不安を感じない」を選んだ方にお聞きします。それぞれのハザード等について、不安を感じない理由を選択肢1～8の中から1つずつ選んでください。

- 問2で、食品の安全性の観点から放射性物質以外のハザードについて「あまり不安を感じない」、「全く不安を感じない」と回答した者に対し、不安を感じていない理由を尋ねたところ、「安全性についての科学的な根拠に納得」「行政による規制が十分なため」の2つが上位に挙がっているハザードが多い。

図表 4-1 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

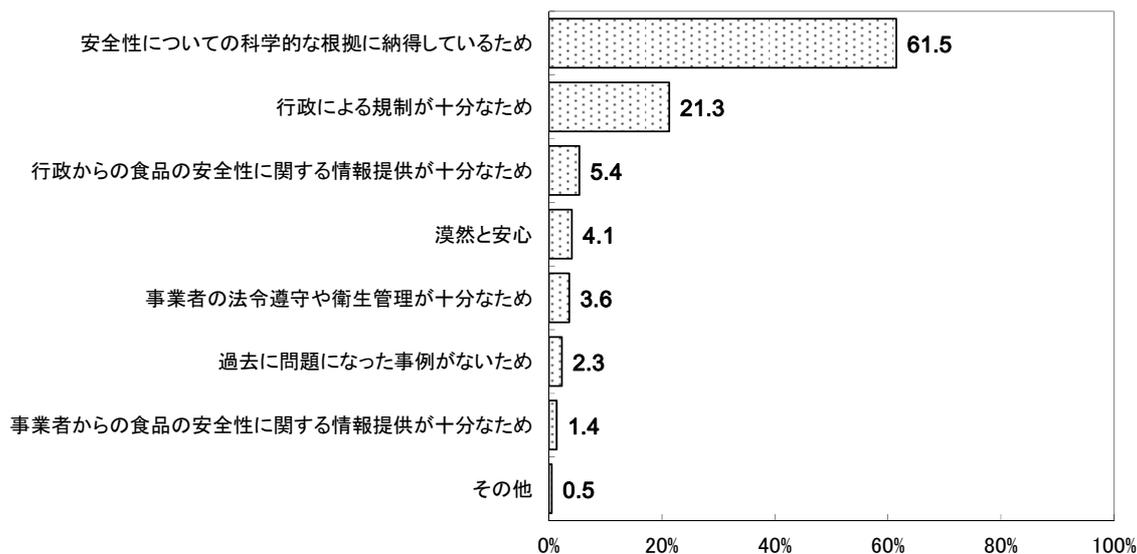
ハザード	1位	2位	3位
食品添加物	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (61.5%) [32%]	行政による規制が十分なため (21.3%) [11.1%]	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため (5.4%) [2.8%]
残留農薬	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (40.6%) [19.8%]	行政による規制が十分なため (34.3%) [16.7%]	事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため (8.2%) [4.0%]
家畜用抗生物質	行政による規制が十分なため (33.3%) [15.5%]	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (29.3%) [13.6%]	事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため (10.1%) [4.7%]
器具・容器包装からの溶出化学物質	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (28.2%) [15.1%]	行政による規制が十分なため (26.9%) [14.4%]	事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため (12.3%) [6.6%]
汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)	行政による規制が十分なため (43.6%) [20%]	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (17.9%) [8.2%]	漠然と安心 (12.3%) [5.6%]
有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等	事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため (22.3%) [5.4%]	行政による規制が十分なため (21.4%) [5.2%]	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため (15.5%) [3.8%]
BSE (伝達性牛海綿状脳症)	行政による規制が十分なため (41.6%) [28.5%]	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (26.1%) [17.9%]	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため (12.7%) [8.7%]
遺伝子組換え	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (41.4%) [24.9%]	行政による規制が十分なため (21.5%) [12.9%]	過去に問題になった事例がないため (14.5%) [8.7%]
体細胞クローン	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (30.3%) [16.7%]	行政による規制が十分なため (22.6%) [12.5%]	過去に問題になった事例がないため (18.8%) [10.4%]
いわゆる健康食品	漠然と安心 (25.2%) [8.7%]	その他 (16.3%) [5.6%]	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (13.6%) [4.7%]
肥料・飼料等	行政による規制が十分なため (29.5%) [18.8%]	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (21.8%) [13.9%]	漠然と安心 (17.3%) [11.1%]
アクリルアミド	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (29.2%) [14.8%]	過去に問題になった事例がないため (17.1%) [8.7%]	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため (17.1%) [8.7%]

※()内は「不安を感じない」と回答した人数に占める割合、[]内は回答者全体(425名)に占める割合である。

A. 食品添加物

- 食品添加物について不安を感じない理由は「安全性についての科学的な根拠に納得」が61.5%で最も多い。
- 年度別では「安全性についての科学的な根拠に納得」が平成22年度以降毎年第1位となっている。

図表 4-2 食品の安全性の観点から不安を感じない理由
 <食品添加物> (n=221)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-3 食品の安全性の観点から不安を感じない理由
 <食品添加物・年度別>

	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=221)	61.5	21.3	3.6	5.4	1.4	2.3	4.1	0.5	0.0
平成26年度調査(n=217)	59.4	20.3	3.7	4.1	0.5	1.8	3.7	0.9	5.5
平成25年度調査(n=176)	60.2	19.9	8.0	3.4	0.6	1.1	4.0	0.6	2.3
平成24年度調査(n=158)	53.2	23.4	5.1	1.9	0.6	1.9	5.1	1.9	7.0
平成23年度調査(第1回)(n=193)	49.7	23.3	5.2	5.7	1.0	3.1	3.6	3.1	5.2
平成22年度調査(n=160)	51.9	29.4	2.5	4.4	0.0	2.5	3.1	3.8	2.5
平成21年度調査(n=150)	22.7	52.7	6.7	8.0	—	2.7	2.0	2.7	2.7

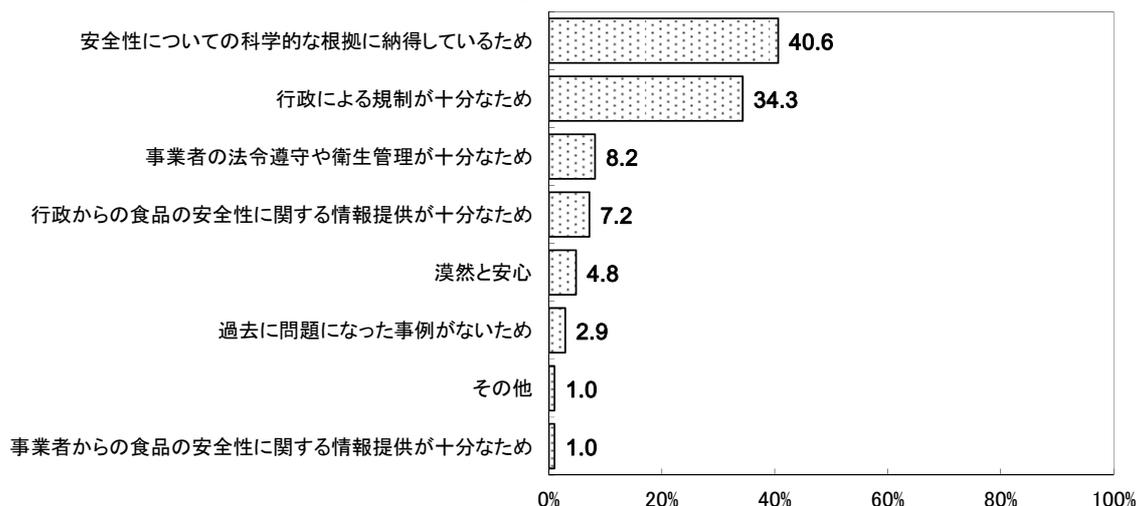
※網掛け：各年度の第1位

B. 残留農薬

- 残留農薬について不安を感じない理由は「安全性についての科学的な根拠に納得しているため」が40.6%で最も多い。
- 年度別では「行政による規制が十分」が、本設問を追加した平成21年度以降第1位となっていたが、今回調査で「安全性についての科学的な根拠に納得しているため」が単独で第1位となった。

図表 4-4 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

＜残留農薬＞ (n=207)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-5 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

＜残留農薬・年度別＞

	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=207)	40.6	34.3	8.2	7.2	1.0	2.9	4.8	1.0	0.0
平成26年度調査(n=179)	32.4	41.3	10.6	2.8	1.7	1.7	3.4	0.6	5.6
平成25年度調査(n=135)	39.3	39.3	8.1	4.4	1.5	0.0	3.7	0.0	3.7
平成24年度調査(n=125)	39.2	43.2	6.4	0.0	0.8	1.6	5.6	1.6	1.6
平成23年度調査(第1回)(n=150)	38.0	40.0	6.0	2.7	0.0	3.3	6.0	1.3	2.7
平成22年度調査(n=127)	33.1	44.9	7.1	3.9	1.6	1.6	3.1	3.1	1.6
平成21年度調査(n=105)	24.8	43.8	14.3	6.7	—	1.9	3.8	1.9	2.9

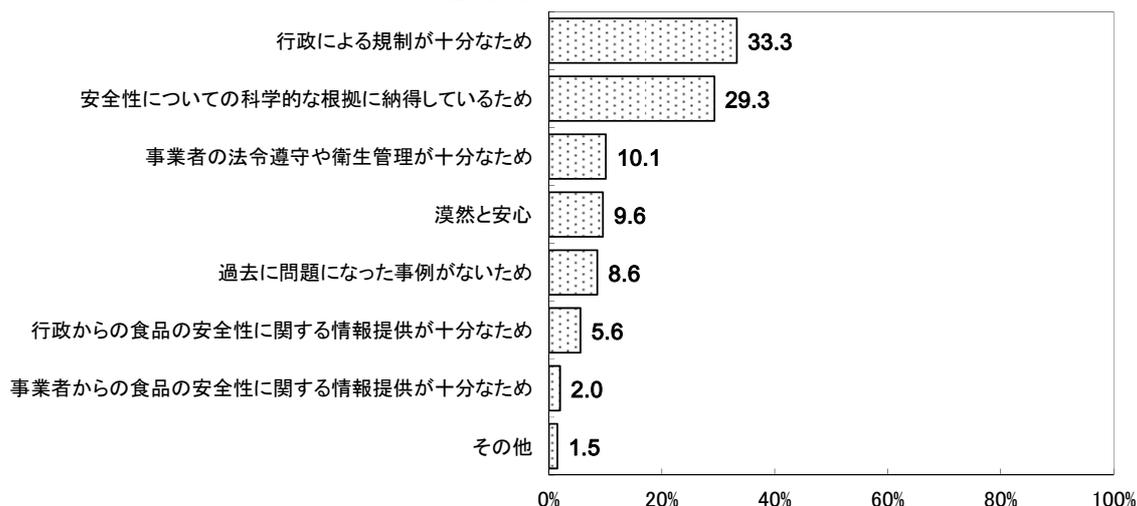
※網掛け：各年度の第1位

C. 家畜用抗生物質

- 家畜用抗生物質について不安を感じない理由は「行政による規制が十分」が 33.3%で最も多く、次いで、「安全性についての科学的な根拠に納得」が 29.3%となっている。
- 年度別では、「行政による規制が十分」が、本設問を追加した平成 21 年度以降第 1 位となっている。

図表 4-6 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

＜家畜用抗生物質＞ (n=198)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-7 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

＜家畜用抗生物質・年度別＞

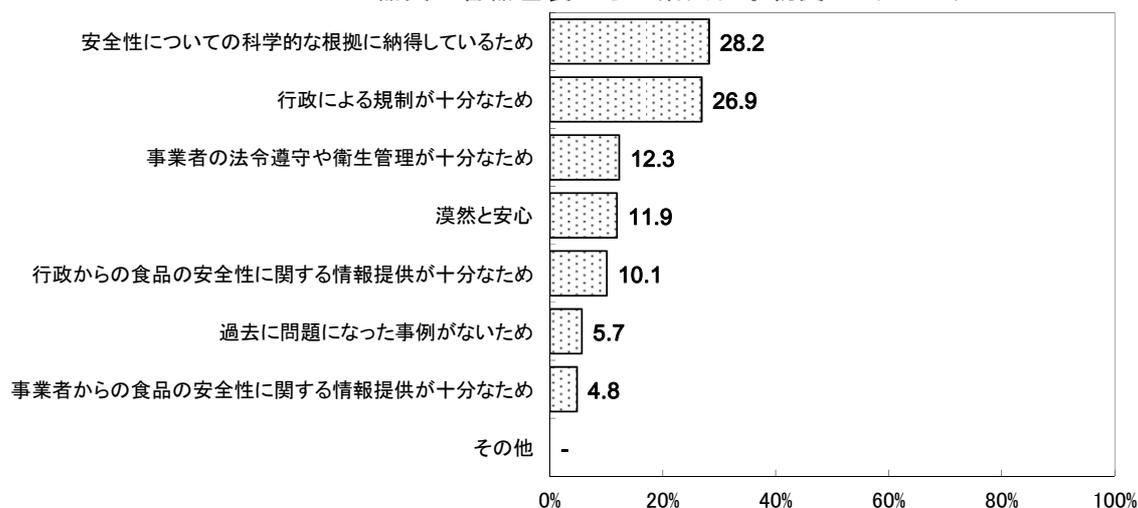
	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=198)	29.3	33.3	10.1	5.6	2.0	8.6	9.6	1.5	0.0
平成26年度調査(n=171)	26.9	35.7	8.2	2.3	0.0	7.0	12.3	2.3	5.3
平成25年度調査(n=128)	31.3	38.3	12.5	2.3	0.8	6.3	5.5	0.8	2.3
平成24年度調査(n=122)	25.4	36.9	11.5	0.8	2.5	4.9	14.8	0.8	2.5
平成23年度調査(第1回)(n=142)	26.1	31.0	7.7	3.5	0.7	9.2	12.7	4.9	4.2
平成22年度調査(n=121)	24.8	38.0	7.4	3.3	2.5	9.9	9.1	2.5	2.5
平成21年度調査(n=98)	10.2	32.7	22.4	6.1	—	11.2	11.2	1.0	5.1

※網掛け：各年度の第 1 位

D. 器具・容器包装からの溶出化学物質

- 器具・容器包装からの溶出化学物質について不安を感じない理由は「安全性についての科学的な根拠に納得」(28.2%)と「行政による規制が十分」(26.9%)が上位2位となっている。
- 年度別では、「行政による規制が十分」が、本設問を追加した平成21年度以降第1位となっているが、今回調査では「安全性についての科学的な根拠に納得」が第1位となった。

図表 4-8 食品の安全性の観点から不安を感じない理由
 <器具・容器包装からの溶出化学物質> (n=227)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-9 食品の安全性の観点から不安を感じない理由
 <器具・容器包装からの溶出化学物質・年度別>

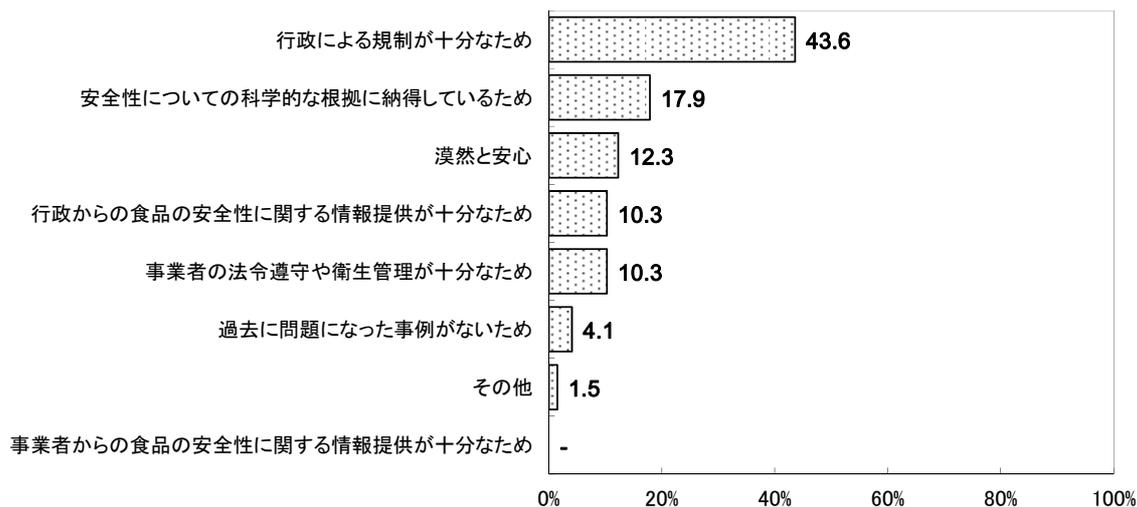
	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=227)	28.2	26.9	12.3	10.1	4.8	5.7	11.9	0.0	0.0
平成26年度調査(n=214)	24.8	27.6	13.1	5.1	0.9	5.1	14.0	1.4	7.9
平成25年度調査(n=164)	27.4	28.7	12.2	4.3	3.0	6.1	11.6	0.6	6.1
平成24年度調査(n=144)	20.1	25.7	16.0	2.8	2.8	3.5	18.1	2.8	8.3
平成23年度調査(第1回)(n=184)	19.6	21.7	15.8	4.9	1.1	9.2	16.8	4.3	6.5
平成22年度調査(n=152)	23.7	27.0	14.5	5.3	2.6	5.3	13.2	2.6	5.9
平成21年度調査(n=119)	12.6	35.3	7.6	6.7	-	7.6	17.6	1.7	10.9

※網掛け：各年度の第1位

E. 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）

- 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）について不安を感じない理由は「行政による規制が十分」が43.6%で2位以下を大きく離している。
- 年度別では、「行政による規制が十分」が、本設問を追加した平成21年度以降第1位となっている。

図表 4-10 食品の安全性の観点から不安を感じない理由
 <汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）> (n=195)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-11 食品の安全性の観点から不安を感じない理由
 <汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）・年度別>

	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=195)	17.9	43.6	10.3	10.3	0.0	4.1	12.3	1.5	0.0
平成26年度調査(n=196)	15.3	45.9	8.7	8.2	0.0	2.6	12.8	2.0	4.6
平成25年度調査(n=123)	19.5	45.5	13.0	7.3	0.8	0.8	8.1	0.0	4.9
平成24年度調査(n=116)	15.5	45.7	9.5	4.3	2.6	0.9	12.9	1.7	6.9
平成23年度調査(第1回)(n=153)	14.4	45.8	11.8	4.6	2.0	3.3	9.8	3.3	5.2
平成22年度調査(n=147)	14.3	46.3	9.5	8.2	1.4	0.7	12.2	3.4	4.1
平成21年度調査(n=78)	11.5	34.6	16.7	12.8	-	5.1	7.7	6.4	5.1

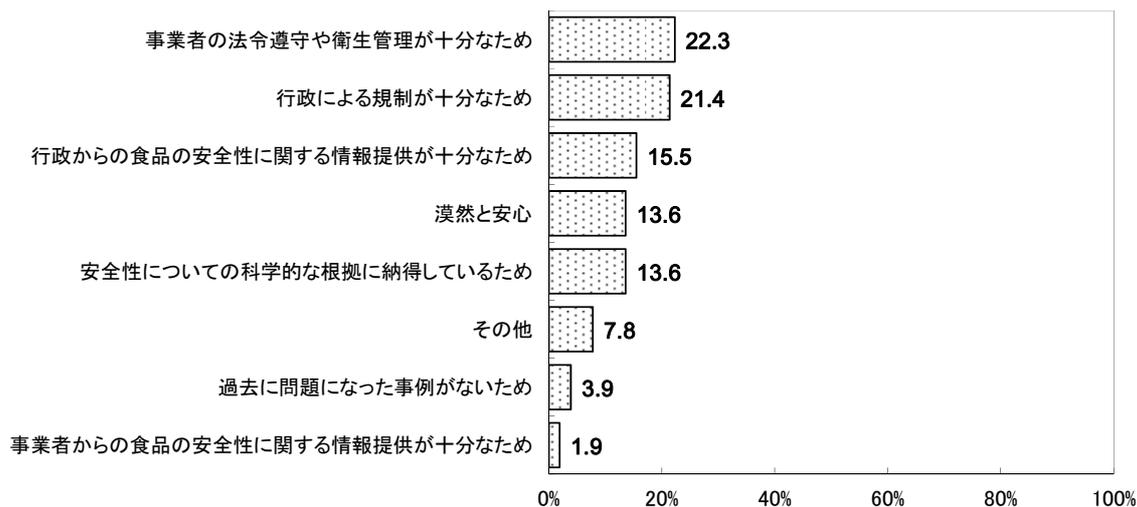
※網掛け：各年度の第1位

F. 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等

- 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等について不安を感じない理由は「事業者の法令遵守や衛生管理が十分」が22.3%で最も多い。
- 年度別でも、直近3年は「事業者の法令遵守や衛生管理が十分」が第1位となっている。

図表 4-12. 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

<有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等> (n=103)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-13 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

<有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等・年度別>

	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=103)	13.6	21.4	22.3	15.5	1.9	3.9	13.6	7.8	0.0
平成26年度調査(n=91)	14.3	20.9	27.5	8.8	1.1	3.3	8.8	8.8	6.6
平成25年度調査(n=66)	21.2	16.7	22.7	7.6	4.5	1.5	7.6	12.1	6.1
平成24年度調査(n=72)	15.3	22.2	20.8	15.3	1.4	2.8	5.6	11.1	5.6
平成23年度調査(第1回)(n=89)	12.4	20.2	14.6	12.4	2.2	2.2	15.7	13.5	6.7
平成22年度調査(n=94)	13.8	23.4	21.3	14.9	0.0	2.1	10.6	6.4	7.4
平成21年度調査(n=76)	7.9	6.6	32.9	30.3	—	1.3	5.3	6.6	9.2

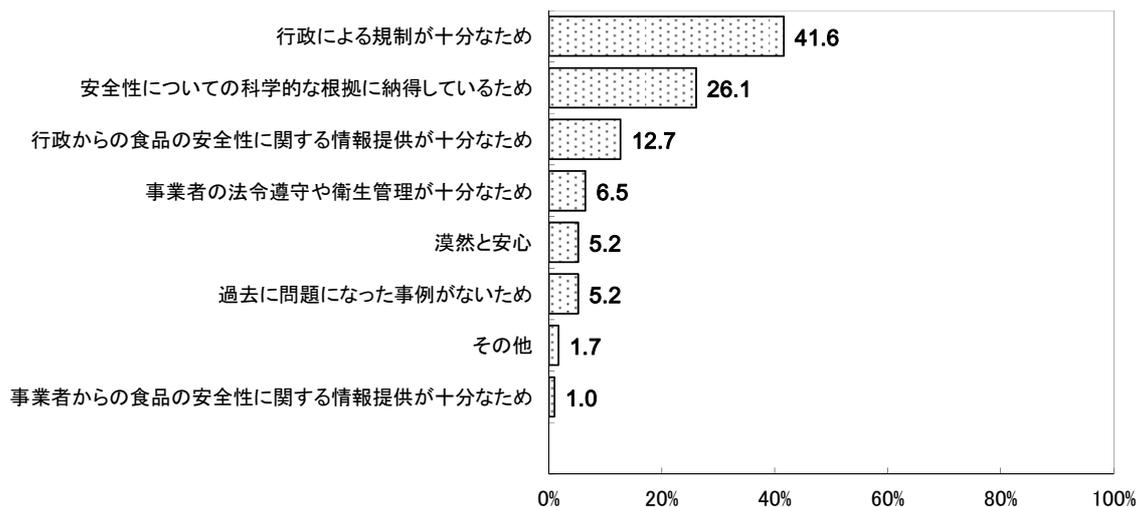
※網掛け：各年度の第1位

G. BSE（伝達性牛海綿状脳症）

- BSE（伝達性牛海綿状脳症）について不安を感じない理由は「行政による規制が十分」が41.6%で最も多い。
- 年度別では、「行政による規制が十分」と「安全性についての科学的な根拠に納得」が7年連続で上位2位となっている。

図表 4-14 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

<BSE（伝達性牛海綿状脳症）> (n=291)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-15 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

<BSE（伝達性牛海綿状脳症）・年度別>

	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=291)	26.1	41.6	6.5	12.7	1.0	5.2	5.2	1.7	0.0
平成26年度調査(n=268)	25.7	41.0	4.9	9.7	0.7	3.4	5.6	2.6	6.3
平成25年度調査(n=212)	34.9	30.2	6.6	11.8	1.9	2.4	3.3	0.9	8.0
平成24年度調査(n=173)	25.4	40.5	8.1	11.6	0.0	1.7	4.6	4.0	4.0
平成23年度調査(第1回)(n=214)	20.1	41.1	5.1	7.0	1.4	3.7	11.7	2.8	7.0
平成22年度調査(n=220)	27.7	35.0	2.3	13.6	0.0	2.7	9.1	4.5	5.0
平成21年度調査(n=147)	28.6	23.8	9.5	11.6		4.1	8.2	8.2	6.1

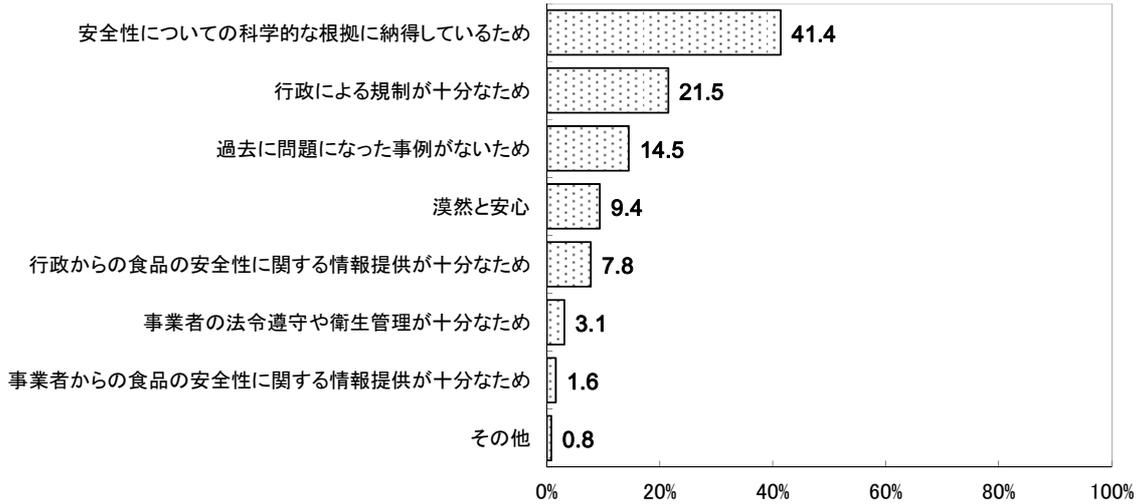
※網掛け：各年度の第1位

H. 遺伝子組換え

- 遺伝子組換えについて不安を感じない理由は「安全性についての科学的な根拠に納得」が41.4%で最も多く、2位以下を大きく離している。
- 年度別では、「安全性についての科学的な根拠に納得」が、本設問を追加した平成21年度以降第1位となっている。

図表 4-16 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

<遺伝子組換え> (n=256)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-17 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

<遺伝子組換え・年度別>

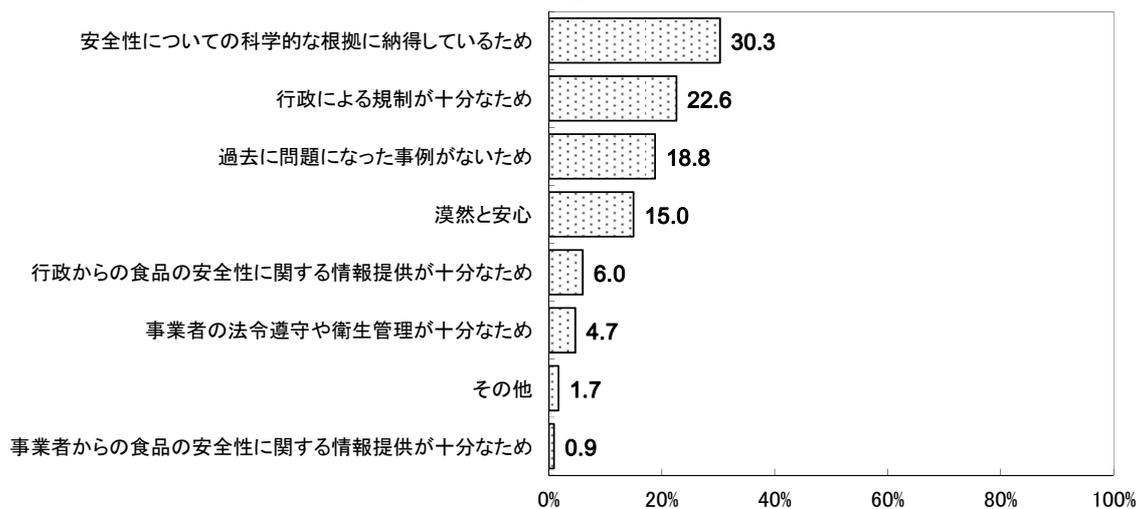
	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=256)	41.4	21.5	3.1	7.8	1.6	14.5	9.4	0.8	0.0
平成26年度調査(n=239)	40.6	19.7	4.6	5.9	1.7	9.6	9.2	2.5	6.3
平成25年度調査(n=178)	40.4	21.9	2.8	10.7	1.7	7.3	8.4	0.6	6.2
平成24年度調査(n=170)	37.6	18.2	3.5	4.7	1.8	12.9	11.8	2.9	6.5
平成23年度調査(第1回)(n=202)	37.1	14.4	2.5	5.9	2.0	10.9	16.3	4.0	6.9
平成22年度調査(n=203)	39.9	12.8	2.5	8.4	2.5	17.2	10.3	1.5	4.9
平成21年度調査(n=139)	48.2	11.5	1.4	2.9	—	15.8	12.2	4.3	3.6

※網掛け：各年度の第1位

I. 体細胞クローン

- 体細胞クローンについて不安を感じない理由は「安全性についての科学的根拠に納得」が30.3%で第1位となった。次いで、「行政による規制が十分」が22.6%となっている。
- 年度別では、前回調査以外は「安全性についての科学的な根拠に納得」が第1位となっている。

図表 4-18 食品の安全性の観点から不安を感じない理由
 <体細胞クローン> (n=234)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-19 食品の安全性の観点から不安を感じない理由
 <体細胞クローン・年度別>

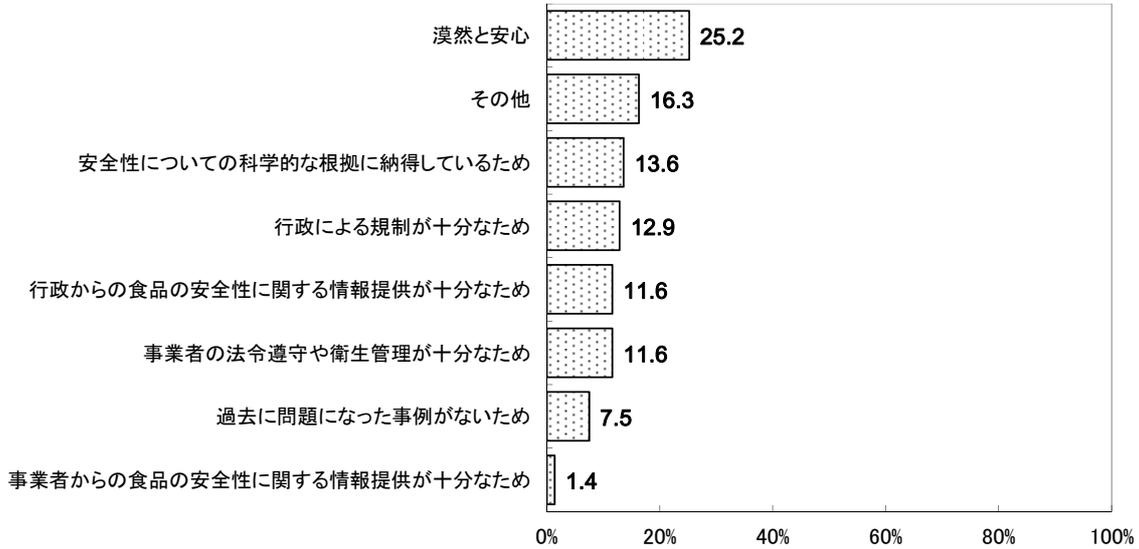
	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=234)	30.3	22.6	4.7	6.0	0.9	18.8	15.0	1.7	0.0
平成26年度調査(n=206)	22.3	20.9	2.4	1.9	0.5	15.5	23.8	3.4	9.2
平成25年度調査(n=154)	31.2	16.9	1.9	4.5	1.3	16.9	17.5	2.6	7.1
平成24年度調査(n=133)	30.1	22.6	1.5	3.0	0.8	9.8	21.8	2.3	8.3
平成23年度調査(第1回)(n=159)	32.1	21.4	1.3	3.1	0.6	8.8	23.3	4.4	5.0
平成22年度調査(n=162)	35.8	13.6	1.9	6.8	1.2	12.3	20.4	4.3	3.7
平成21年度調査(n=116)	47.4	12.1	3.4	4.3	—	12.9	12.9	1.7	5.2

※網掛け：各年度の第1位

J. いわゆる健康食品

- いわゆる健康食品について不安を感じない理由は「漠然と安心」が25.2%で最も多く、次いで、「その他」が16.3%となっている。
- 年度別では、「漠然と安心」が平成21年度以降毎年第1位となっている。

図表 4-20 食品の安全性の観点から不安を感じない理由
 <いわゆる健康食品> (n=147)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-21 食品の安全性の観点から不安を感じない理由
 <いわゆる健康食品・年度別>

	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=147)	13.6	12.9	11.6	11.6	1.4	7.5	25.2	16.3	0.0
平成26年度調査(n=152)	9.2	21.7	5.9	5.9	4.6	6.6	23.0	11.2	11.8
平成25年度調査(n=126)	11.9	17.5	8.7	6.3	2.4	4.0	21.4	16.7	11.1
平成24年度調査(n=147)	15.0	13.6	6.8	3.4	0.7	5.4	24.5	18.4	12.2
平成23年度調査(第1回)(n=162)	11.1	11.7	2.5	4.3	2.5	4.9	30.2	22.2	10.5
平成22年度調査(n=162)	8.6	16.0	6.2	4.3	4.3	6.2	35.2	12.3	6.8
平成21年度調査(n=144)	9.0	18.1	12.5	4.2	—	6.9	20.8	18.8	9.7

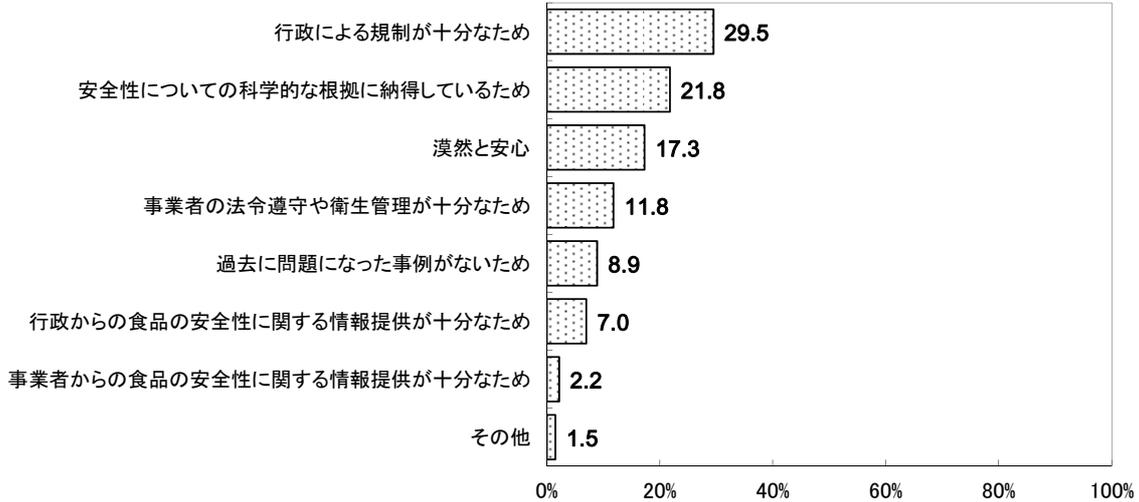
※網掛け：各年度の第1位

K. 肥料・飼料等

- 肥料・飼料等について不安を感じない理由は「行政による規制が十分」が29.5%で最も多い。
- 年度別では、「行政による規制が十分」が平成24年度以降第1位となっている。

図表 4-22 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

<肥料・飼料等> (n=271)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-23 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

<肥料・飼料等・年度別>

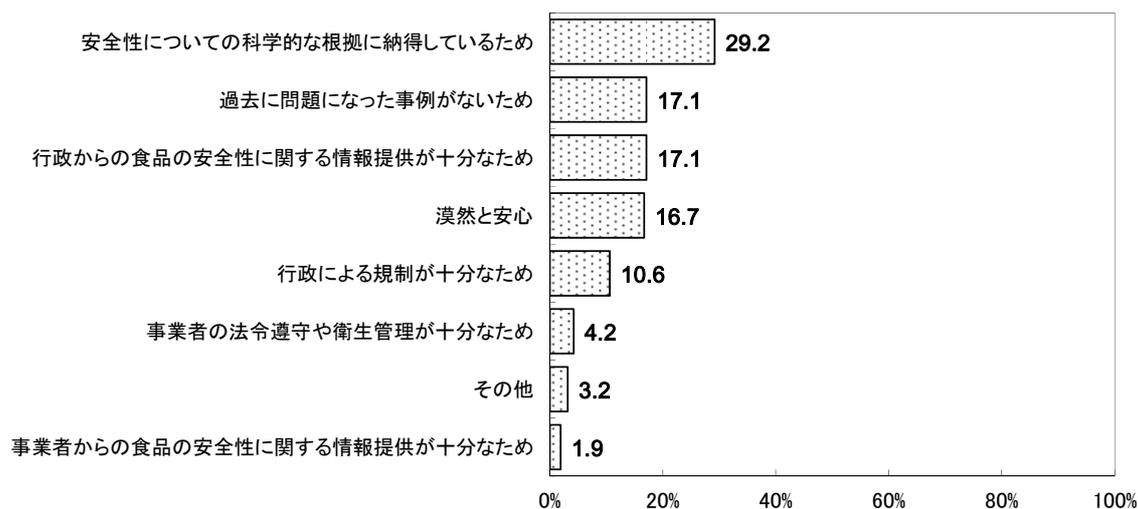
	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=271)	21.8	29.5	11.8	7.0	2.2	8.9	17.3	1.5	0.0
平成26年度調査(n=278)	16.9	31.7	10.8	2.9	1.1	8.3	19.8	0.7	7.9
平成25年度調査(n=199)	20.1	29.1	9.5	4.0	2.0	6.0	20.6	0.5	8.0
平成24年度調査(n=197)	16.2	32.5	8.1	2.5	1.0	7.6	21.3	2.0	8.6
平成23年度調査(第1回)(n=155)	15.5	23.2	13.5	3.2	0.6	8.4	23.9	3.2	8.4
平成22年度調査(n=216)	11.1	24.5	8.8	2.3	2.8	10.2	32.9	0.9	6.5

※網掛け：各年度の第1位

M. アクリルアミド

- アクリルアミドについて不安を感じない理由は「安全性についての科学的な根拠に納得」が29.2%で最も多い。
- 年度別では、今年度、昨年度ともに「安全性についての科学的な根拠に納得」が第1位となっている。

図表 4-24 食品の安全性の観点から不安を感じない理由
 <アクリルアミド> (n=216)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-25 食品の安全性の観点から不安を感じない理由
 <アクリルアミド・年度別>

	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=216)	29.2	10.6	4.2	17.1	1.9	17.1	16.7	3.2	0.0
平成26年度調査(n=195)	28.7	11.8	5.6	11.3	0.5	9.2	23.1	4.1	5.6

※網掛け：各年度の第1位

※本項目は平成26年度調査から追加

不安を感じない理由として「その他」に記入された回答

A. 食品添加物（回答者数1人）

「事業者が虚偽の申告をしていないか不安である」との回答があった。

B. 残留農薬（回答者数2人 うち「全く不安を感じない」が1人）

「安全性試験の結果を信じているため」などの回答があった。

C. 家畜用抗生物質（回答者数3人 うち「全く不安を感じない」が1人）

「出荷制限があるため」、「多少なら混入しても健康に影響はないと考える」などの回答があった。

D. 器具・容器包装からの溶出化学物質（該当なし）

E. 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（回答者数3人）

「同じものばかり食べない、くらいしか気にしようがないため」、「危険性が周知され管理が厳格であるため」などの回答があった。

F. 有害微生物（細菌）、ウイルス等による食中毒等（回答者数8人 うち「全く不安を感じない」が1人）

「よく加熱して食べる等、自衛できる」、「事業者の管理がある程度進んでおり、不十分だったとしても対処可能なことが多いため」などの回答があった。

G. BSE（伝達性牛海綿状脳症）（回答者数5人 うち「全く不安を感じない」が2人）

「牛肉を食べない」、「発生が収束している」などの回答があった。

H. 遺伝子組換え（回答者数2人 うち「全く不安を感じない」が2人）

「科学者を信じている」などの回答があった。

I. 体細胞クローン（回答者数4人 うち「全く不安を感じない」が2人）

「身近でないため」、「多少なら混入していても健康に影響がないと考える」などの回答があった。

J. いわゆる健康食品（回答者数24人 うち「全く不安を感じない」が3人）

「利用していない」、「よく理解している」、「効果も害もない」などの回答があった。

K. 肥料・飼料等（回答者数3人 うち「全く不安を感じない」が1人）

「多少なら混入していても健康に影響がないと考える」などの回答があった。

M. アクリルアミド（回答者数6人）

「危険性の高い食事に偏らないようにしている」、「昔からあるものであり、いまさら気にしてもしょうがない」などの回答があった。

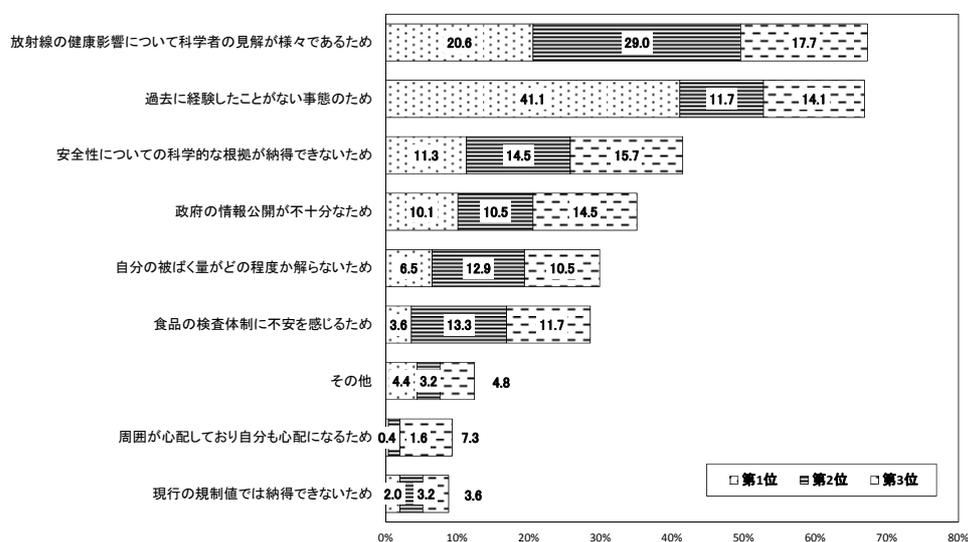
5. 放射性物質について不安を感じる理由（問5）

問5 問2のL（放射性物質）で、「1 とても不安である」又は「2 ある程度不安である」を選んだ方にお聞きします。不安を感じる理由を選択肢1～9の中から強く当てはまる順に3つ選んでください。

5-1 放射性物質について不安を感じる理由の回答割合

- 放射性物質について不安を感じる理由を、強く当てはまる順に3つ尋ねたところ、第1位は「過去に経験したことがない事態のため」が41.1%で最も多く、2位以降を大きく離している。第1位から第3位に選ばれたものの単純合計は、第1位が「放射線の健康影響について科学者の見解が様々であるため」（67.3%）、第2位「過去に経験したことがない事態のため」（66.9%）となっている。

図表 5-1 放射性物質について不安を感じる理由（n=248）



※回答者割合が多い順に並び替え

放射性物質について不安を感じる理由として「その他」に記入された回答

「ヒトへの健康影響の知見が乏しい」、「放射性廃棄物の処理方法が明確でない」、「これから生まれる世代や小さい子供への影響が心配」などの回答があった。

5-2 放射性物質について不安を感じる理由の年度別回答割合

図表 5-2 放射性物質について不安を感じる理由（年度別）

